

1987年度栗東町埋蔵文化財 発掘調査 資料集



2004.3

栗 東 市 教 育 委 員 会
財団法人栗東市文化体育振興事業団

1987年度栗東町埋蔵文化財
発掘調査 資料集

2004.3

栗 東 市 教 育 委 員 会
財団法人栗東市文化体育振興事業団

例 言

1. 本書は、1987（昭和62）年度に栗東町教育委員会・財団法人栗東町文化体育振興事業団が実施した埋蔵文化財発掘調査について2001（平成13）年度に実施した整理調査の成果を報告するものである。
2. 現地調査は滋賀県教育委員会の指導助言を得て、栗東町教育委員会（当時）を主体として財団法人栗東町文化体育振興事業団（当時）が実施した。なお国庫補助事業および町事業の調査は栗東町教育委員会が実施した。整理事業は栗東市教育委員会の委託を受け、財団法人栗東市文化体育振興事業団が実施した。

3. 整理調査の体制は、以下の通りである。

栗東市教育委員会	生涯学習課	課長 金子 宗夫
	文化財保護係	係長 清水 好洋
	副係長	松村 浩
	主事	嶋田 和美
財団法人栗東市文化体育振興事業団	埋蔵文化財調査課	課長 堀池 義喜
		課長補佐 平井 壽一
		主任技師 雨森 智美

4. 本書の執筆・編集は現地調査担当者の意向のもと、雨森が行った。
5. 調査内容中の調査地位置図は、特に指定しているもの以外は全て5千分の1である。
6. 調査内容中の表にある文献の内容は本書末尾に記載した。
7. 調査内容中の出土遺物実測図は、図化した遺物の全点を掲載するものではない。
8. 整理作業参加者

調査員	畑本 陽子	森 智美
整理員	奥村美枝子	岩根 隆子
	木村三津子	穴戸 貴子
	宮嶋八重美	南出 彩子

表紙の写真：倉庫群

[手原遺跡（87R 025-04）]

右の写真：銅印

[辻遺跡（87R 003-04）]



目 次

例言

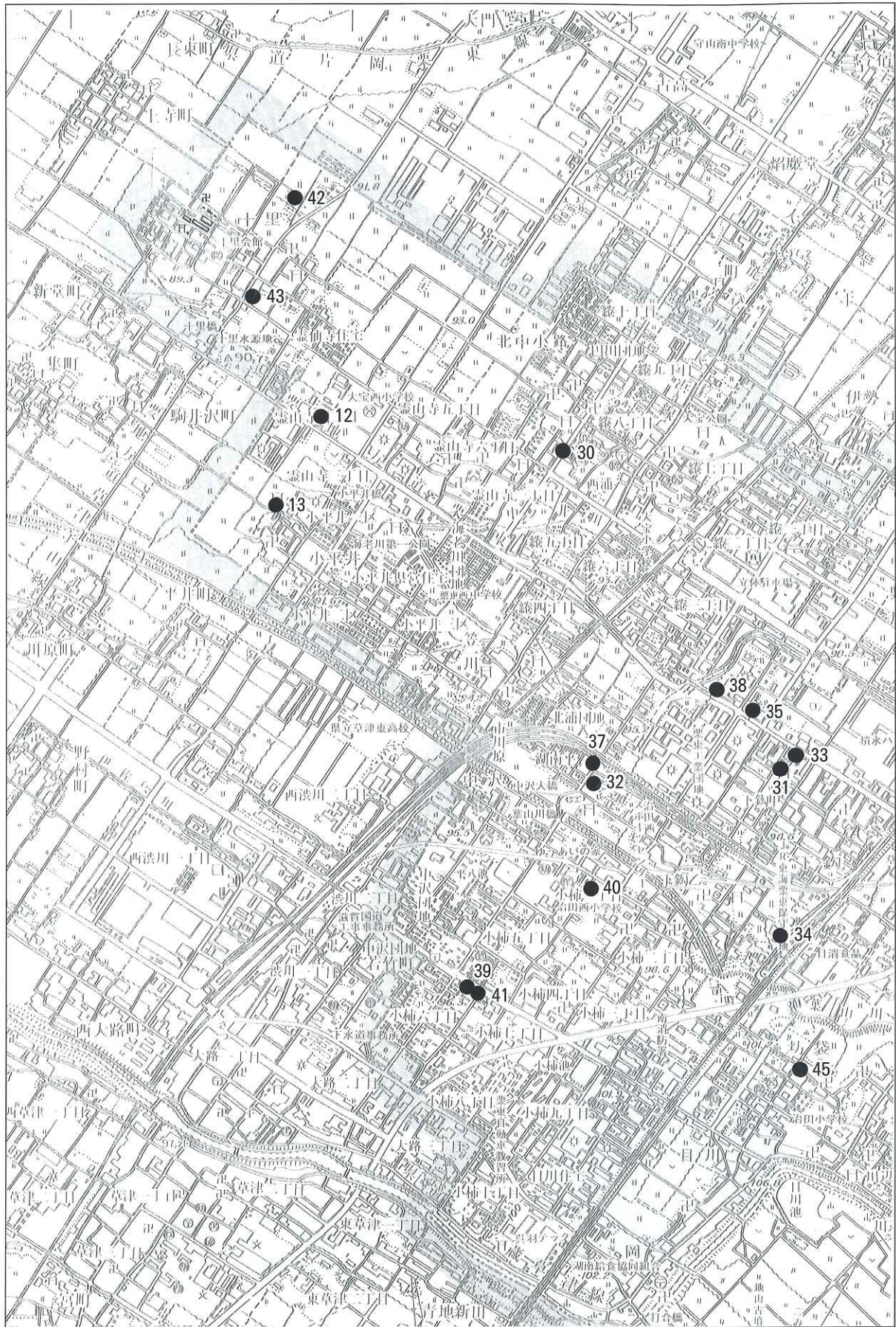
調査地位位置図

一覧表

1 辻 遺 跡 (87R003-01)	6	23 高野 遺 跡 (87R092-04)	39
2 辻 遺 跡 (87R003-02)	8	24 高野 遺 跡 (87R092-05)	40
3 辻 遺 跡 (87R003-03)	9	25 高野 遺 跡 (87R092-06)	42
4 辻 遺 跡 (87R003-04)	10	26 高野 遺 跡 (87R092-08)	44
5 辻 遺 跡 (87R003-05)	11	27 高野 遺 跡 (87R092-09)	45
6 林 遺 跡 (87R009-01)	12	28 高野 遺 跡 (87R092-07)	46
7 上砥山遺跡 (87R021-01)	16	29 高野 遺 跡 (87R092-10)	47
8 手原 遺 跡 (87R025-01)	18	30 縄 遺 跡 (87R093-01.02)	48
9 手原 遺 跡 (87R025-03)	19	31 下 鈎 遺 跡 (87R095-01)	50
10 手原 遺 跡 (87R025-02)	20	32 下 鈎 遺 跡 (87R095-02)	55
11 手原 遺 跡 (87R025-04)	22	33 下 鈎 遺 跡 (87R095-03)	55
12 霊仙寺遺跡 (87R033-01)	24	34 下 鈎 遺 跡 (87R093-06)	56
13 霊仙寺遺跡 (87R033-02)	26	35 下 鈎 遺 跡 (87R095-05)	58
14 霊仙寺遺跡 (87R033-03.04)	27	36 下 鈎 遺 跡 (87R095-07)	59
15 中 沢 遺 跡 (87R034-01)	27	37 下 鈎 遺 跡 (87R095-08)	60
16 岩 畑 遺 跡 (87R090-01)	28	38 下 鈎 遺 跡 (87R095-09)	61
17 野 尻 遺 跡 (87R088-01)	29	39 小 柿 遺 跡 (87R100-01)	62
18 野 尻 遺 跡 (87R088-02)	30	40 小 柿 遺 跡 (87R100-02)	64
19 中 村 遺 跡 (87R057-01)	32	41 小 柿 遺 跡 (87R100-03)	65
20 高 野 遺 跡 (87R092-01)	33	42 十 里 遺 跡 (87R101-01)	66
21 高 野 遺 跡 (87R092-02)	36	43 十 里 遺 跡 (87R101-02)	67
22 高 野 遺 跡 (87R092-03)	38	44 安養寺遺跡 (87R047-01)	68
		45 坊 袋 遺 跡 (87R090-01)	69
		参考文献	70

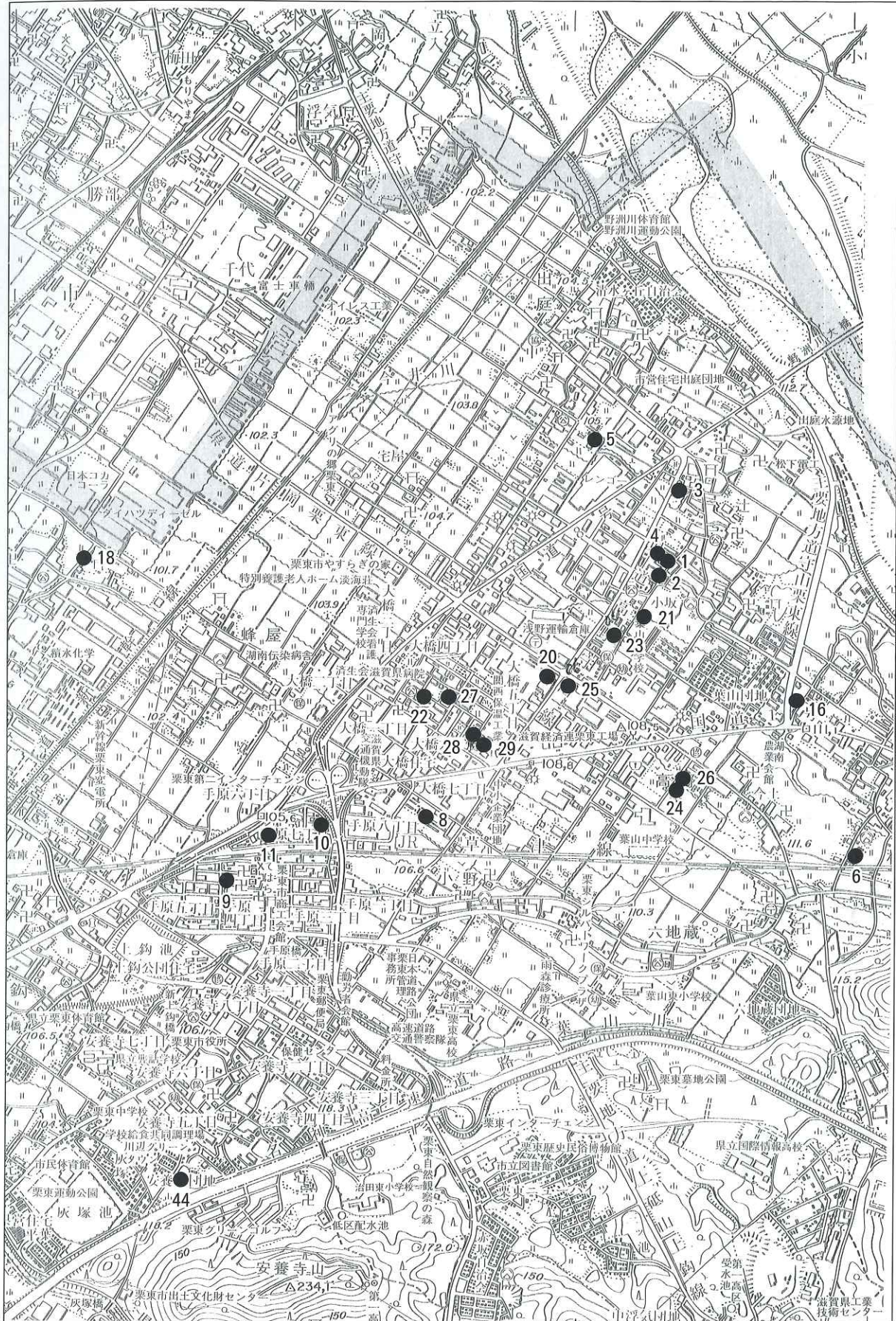


調査位置図 (1) 番号は5ページ参照



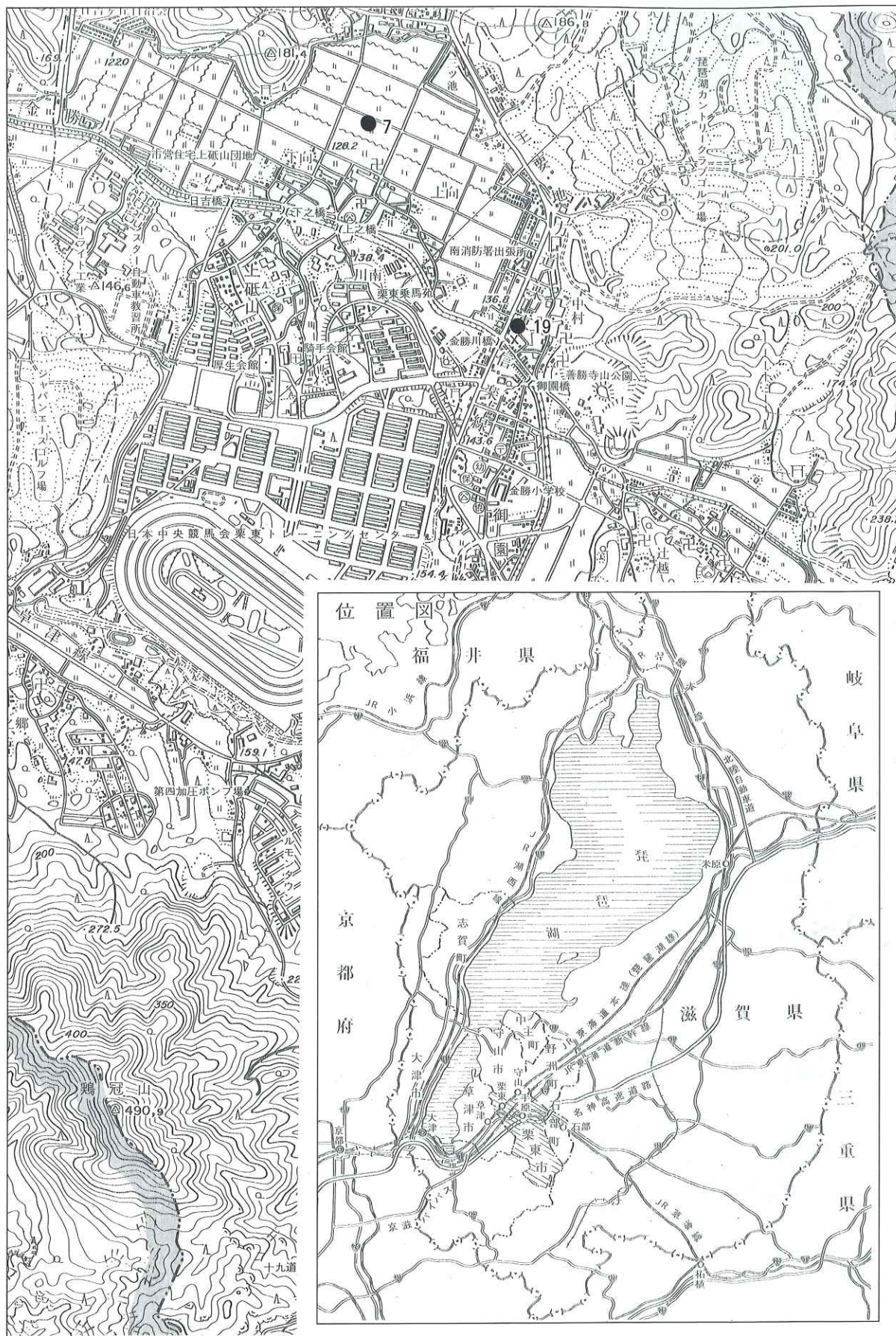
(1 : 20,000)

調査位置図 (2)



(1 : 20,000)

調査位置図 (3)



(1 : 20,000)

1987年度発掘調査

番号	遺跡名	調査略号	所在地	遺構	遺物	頁
1	辻遺跡	87R003-01	栗東町辻字小坂西413	溝	須恵器・土師器・土錘	6
2	辻遺跡	87R003-02	栗東町辻字小坂西	溝・土坑・ピット	須恵器・土師器	8
3	辻遺跡	87R003-03	栗東町辻字里の西447-1	溝・土坑・ピット	須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器	9
4	辻遺跡	87R003-04	栗東町辻413-4	溝・流路	須恵器・土師器・黒色土器・銅印	10
5	辻遺跡	87R003-05	栗東町辻字かしあげ464-1	掘立柱建物・溝・流路・木棺墓	須恵器・土師器・木製品・滑石製品・石錘	11
6	林遺跡	87R009-01	栗東町林字西島	竪穴住居・溝・土坑	須恵器・土師器・滑石製品・鉄鎌・スラッグ	14
7	上砥山遺跡	87R021-01	栗東町上砥山地先	掘立柱建物・溝・土坑・井戸	須恵器・土師器・黒色土器・墨書土器	16
8	手原遺跡	87R025-01	栗東町大橋字前田615-11616	溝・ピット	須恵器・土師器・陶磁器	18
9	手原遺跡	87R025-03	栗東町手原4丁目4-13	包含層	須恵器・土師器・瓦	19
10	手原遺跡	87R025-02	栗東町手原字西天神821	掘立柱建物・溝・土坑・井戸	須恵器・土師器・黒色土器・白磁・土錘・金属製品	20
11	手原遺跡	87R025-04	栗東町手原7丁目847	掘立柱建物・溝	須恵器・土師器・瓦	22
12	霊仙寺遺跡	87R033-01	栗東町霊仙寺字北ノ脇237-2他	溝・土坑	弥生土器・石器・碧玉・フイゴ羽口	24
13	霊仙寺遺跡	87R033-02	栗東町霊仙寺字堂1西342-2	ピット	須恵器・土師器・瓦	26
14	霊仙寺遺跡	87R033-03.4	栗東町小平井・霊仙寺地先	包含層	須恵器・土師器・黒色土器	27
15	中沢遺跡	87R034-01	栗東町中沢地先	特になし	弥生土器	27
16	岩畑遺跡	87R085-01	栗東町林字高丸308-3	掘立柱建物・流路・溝・土坑	須恵器・土師器・黒色土器・白磁・灰釉陶器	28
17	野尻遺跡	87R088-01	栗東町野尻地先	特になし	特になし	29
18	野尻遺跡	87R088-02	栗東町野尻地先	溝	土師器・黒色土器・灰釉陶器・白磁・瓦・石鍋・石鎌	30
19	中村遺跡	87R057-01	栗東町御園1816	溝・土坑・ピット	須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器	32
20	高野遺跡	87R092-01	栗東町高野字下戸別当575-5	竪穴住居・土坑・古墳	土師器	33
21	高野遺跡	87R092-02	栗東町高野550	掘立柱建物・流路	須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・瓦	36
22	高野遺跡	87R092-03	栗東町大橋字一本松218	掘立柱建物・溝・土坑	須恵器・土師器・黒色土器	38
23	高野遺跡	87R092-04	栗東町高野230	掘立柱建物・流路・溝	須恵器・土師器・黒色土器	39
24	高野遺跡	87R092-05	栗東町六地藏字高黒761	掘立柱建物・土坑・流路・溝	須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・瓦器・瓦・和鏡	40
25	高野遺跡	87R092-06	栗東町高野字泉220-3他	溝・土坑・ピット	土師器	42
26	高野遺跡	87R092-08	栗東町高野字イバ立	掘立柱建物・竪穴住居・流路・溝	須恵器・土師器・黒色土器・滑石製品	44
27	高野遺跡	87R092-09	栗東町大橋10街他	掘立柱建物・竪穴住居・溝・土坑	土師器・黒色土器・石帯	45
28	高野遺跡	87R092-07	栗東町大橋205-1	ピット	特になし	46
29	高野遺跡	87R092-10	栗東町大橋202-1	土坑・溝	須恵器・土師器	47
30	糺遺跡	87R093-01.02	栗東町北中小路地先	濠・溝・土坑・ピット	須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・緑釉陶器・近世陶磁器	48
31	下鈎遺跡	87R095-01	栗東町下鈎地先	掘立柱建物・竪穴住居・土坑・溝	須恵器・土師器・弥生土器・白磁・黒色土器・木製品・石製品	50
32	下鈎遺跡	87R095-02	栗東町下鈎字宮ノ北	流路・ピット	弥生土器	55
33	下鈎遺跡	87R095-03	栗東町字西浦684-1	溝	特になし	55
34	下鈎遺跡	87R095-06	栗東町下鈎216-1	竪穴住居・掘立柱建物・溝	須恵器・土師器	56
35	下鈎遺跡	87R095-05	栗東町下鈎917-1	掘立柱建物・溝・土坑・落ち込み	須恵器・土師器・灰釉陶器	58
36	下鈎遺跡	87R095-07	栗東町荊原地先	沼沢地・ピット	弥生土器	59
37	下鈎遺跡	87R095-08	栗東町下鈎字小松寺1205-1	包含層	土師器	60
38	下鈎遺跡	87R095-09	栗東町下鈎字雁杭口927	溝・土坑		61
39	小柿遺跡	87R100-01	栗東町小柿地先	溝・土坑・流路	須恵器・土師器・弥生土器・灰釉陶器・瓦器	62
40	小柿遺跡	87R100-02	栗東町小柿地先	特になし	弥生土器	64
41	小柿遺跡	87R100-03	栗東町小柿字六反田512-1他	溝・土坑	須恵器・土師器・黒色土器	65
42	十里遺跡	87R101-01	栗東町十里	溝・土坑	弥生土器	66
43	十里遺跡	87R101-02	栗東町十里	掘立柱建物・溝	須恵器	67
44	安養寺遺跡	87R047-01	栗東町安養寺5丁目749-1	溝	土師器・瓦	68
45	坊袋遺跡	87R090-01	栗東町坊袋字新日吉	溝	特になし	69

1. 辻 遺 跡

(87R003-01)

ふりがな	つじいせき
所在地	栗東町辻字小坂西413
	北緯 35° 02' 01"
	東経 136° 01' 03"
コード	321-003
調査期間	1987年9月10日～9月30日
調査面積	175㎡
調査原因	共同住宅建設
調査担当	清水好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	古墳～奈良時代
主な遺構	溝
主な遺物	須恵器・土師器・土錘
特記事項	



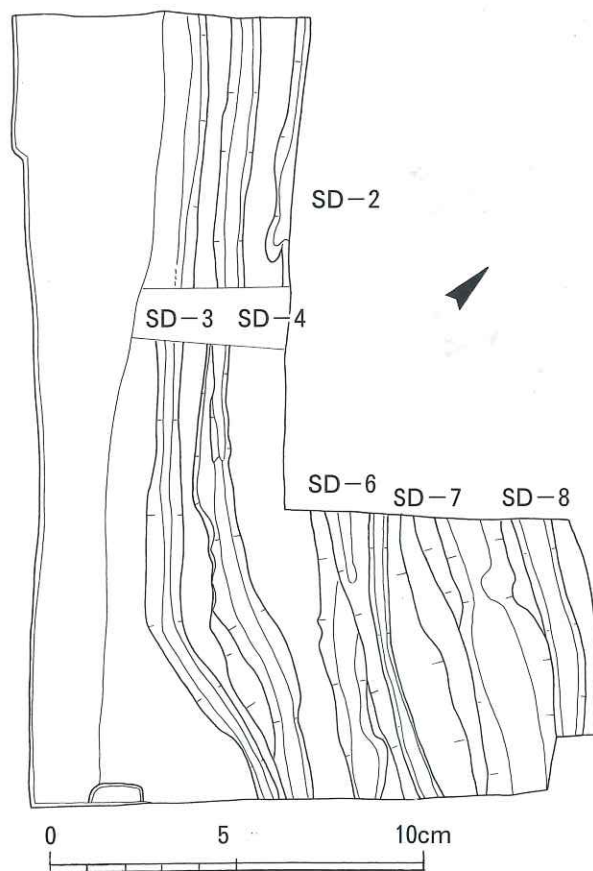
調査地全景



須恵器出土状況



調査地

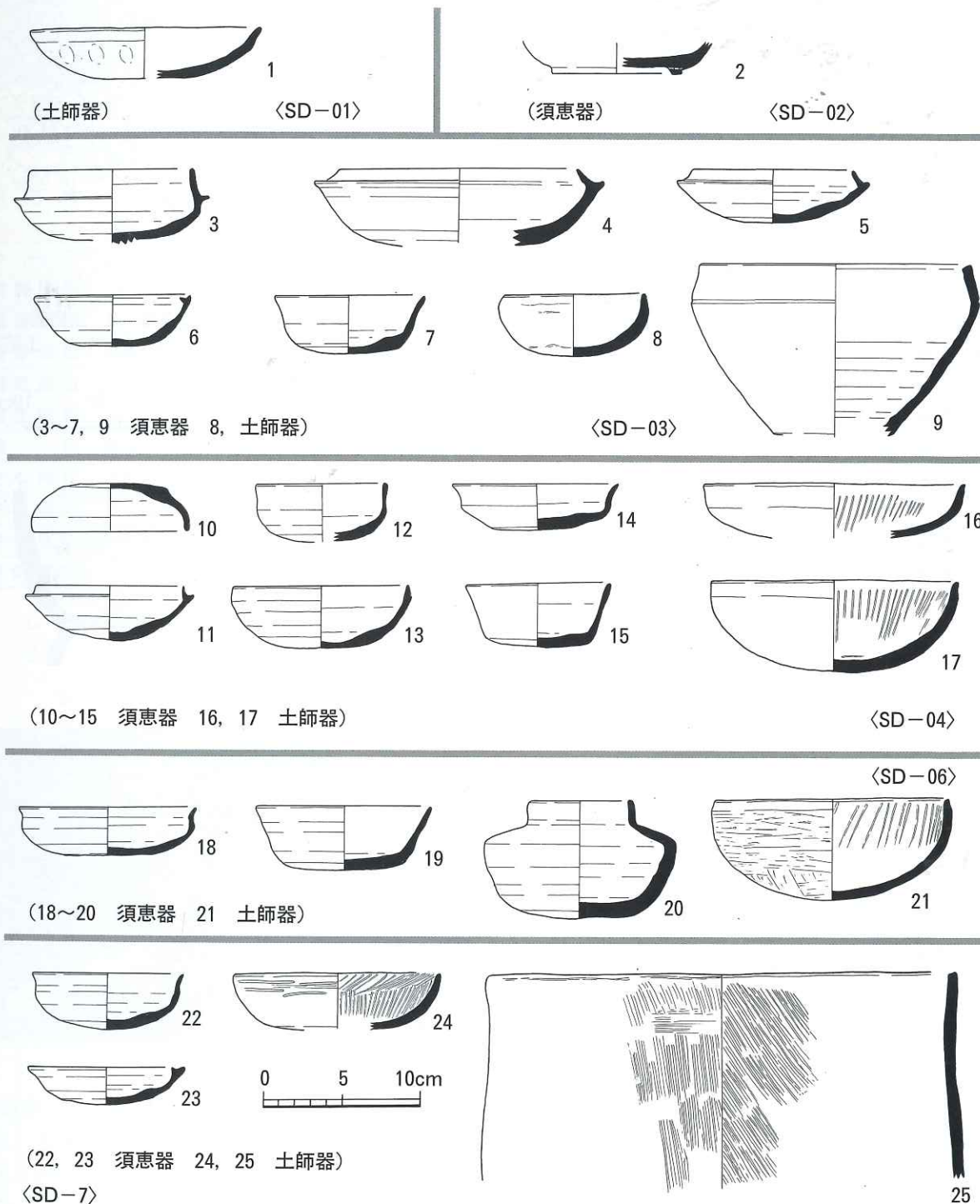


調査地位置図

辻遺跡の南端、高野遺跡に近接する調査区である。ここでは南東から北西方向にのびる幅が広い溝が検出されている。溝底の状況から、この溝が時期により位置や幅を少しずつ変化させながら継

続していたものと考えられる。

このうちとくにSD-4、SD-7の南側肩部では7世紀後半を中心とする時期の須恵器・土師器が集中して出土している。

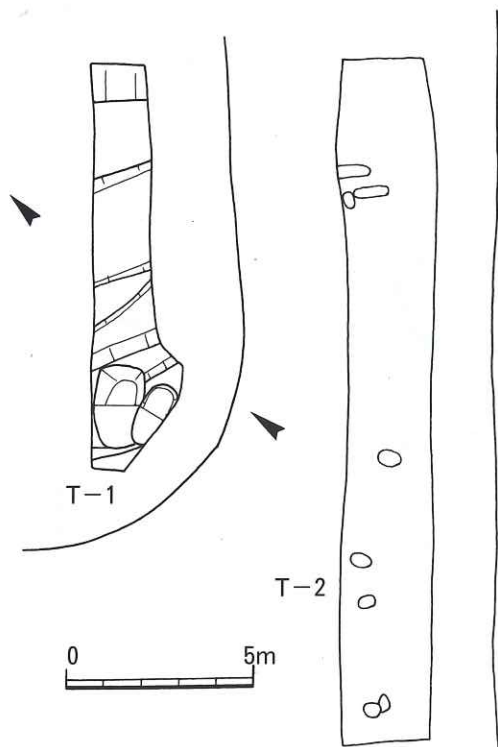


出土遺物実測図

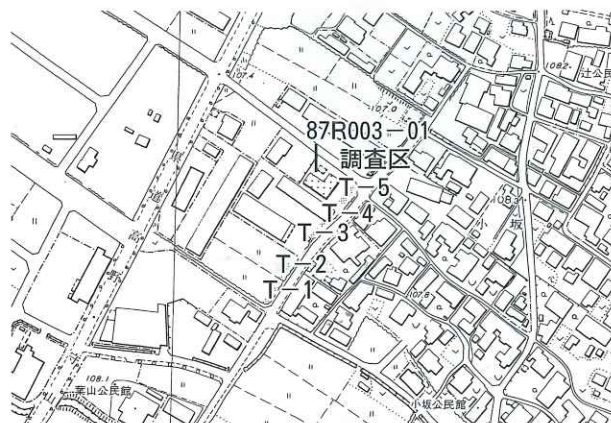
2. 辻 遺 跡

(87R003-02)

ふりがな	つじいせき
所在地	栗東町辻字小坂西 北緯 35° 02' 01" 東経 136° 01' 04"
コード	321-003
調査期間	1987年10月12日～10月27日
調査面積	106m ²
調査原因	道路拡幅
調査担当	清水好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	古墳～奈良時代
主な遺構	溝・土坑・ピット
主な遺物	須恵器・土師器
特記事項	



調査地遺構図



調査地位置図



出土遺物実測図



T-5全景

87R003-01調査区の東から南にかけて、道路拡幅のために細長く設定された調査区である。南端部のT-1では土坑が2基(2.2×1.2m、1.7×0.8m)検出された。T-2・3では顕著な遺構はない。T-4ではピットが検出された。T-5では87R003-01調査区で検出された、南東から北西方向にのびる溝が延びることが確認された。

3. 辻 遺 跡

(87R003-03)

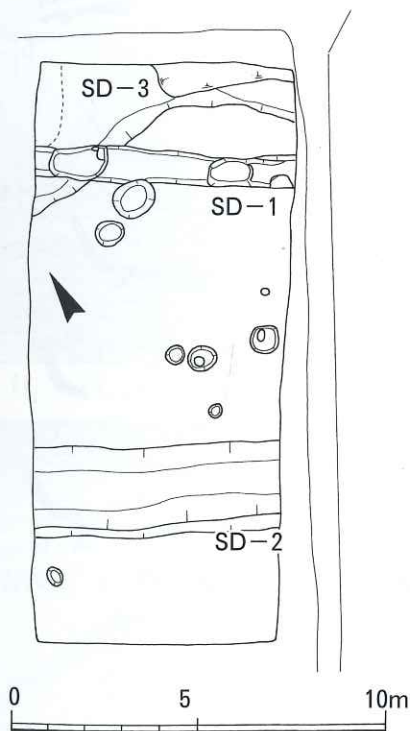
ふりがな	つじいせき
所在地	栗東町辻字里の西447-1
	北緯 35° 02' 09"
	東経 136° 01' 04"
コード	321-003
調査期間	1988年1月26日～2月3日
調査面積	150m ²
調査原因	事務所建設
調査担当	近藤 広
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	古墳～奈良時代
主な遺構	溝・流路
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器
特記事項	



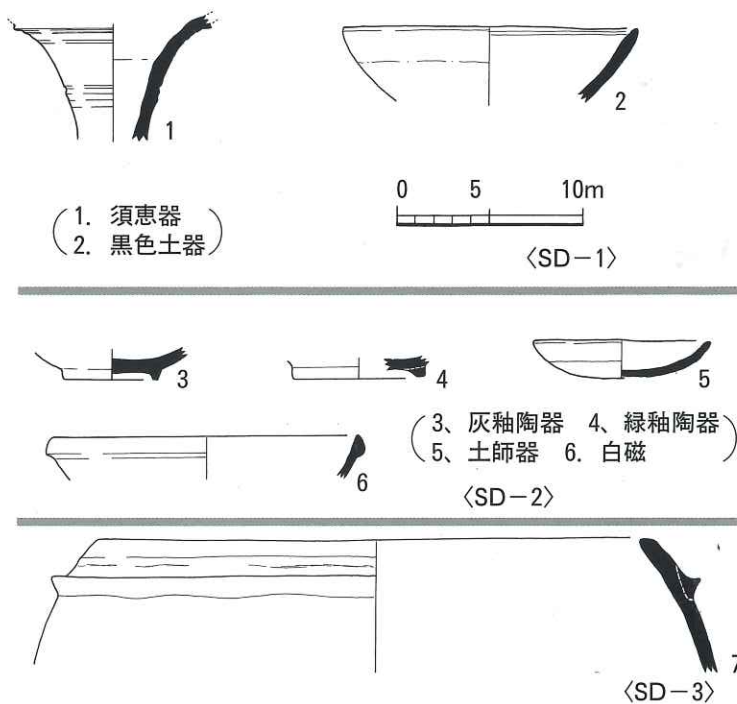
調査地位置図



調査地全景



調査地遺構図



出土遺物実測図

4. 辻 遺 跡

(87R003-04)

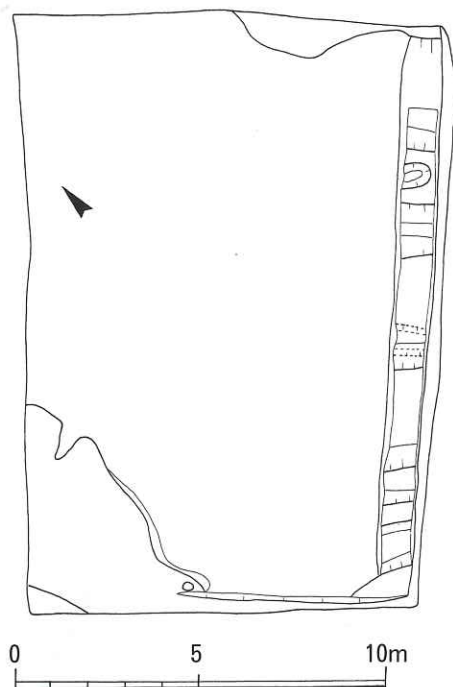
ふりがな	つじいせき
所在地	栗東町辻413-4 北緯 35° 02' 02" 東経 136° 01' 02"
コード	321-003
調査期間	1987年7月13日～7月23日
調査面積	180m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	平井壽一
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	集落
主な時代	飛鳥～奈良時代
主な遺構	溝・流路
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・銅印
特記事項	文献1



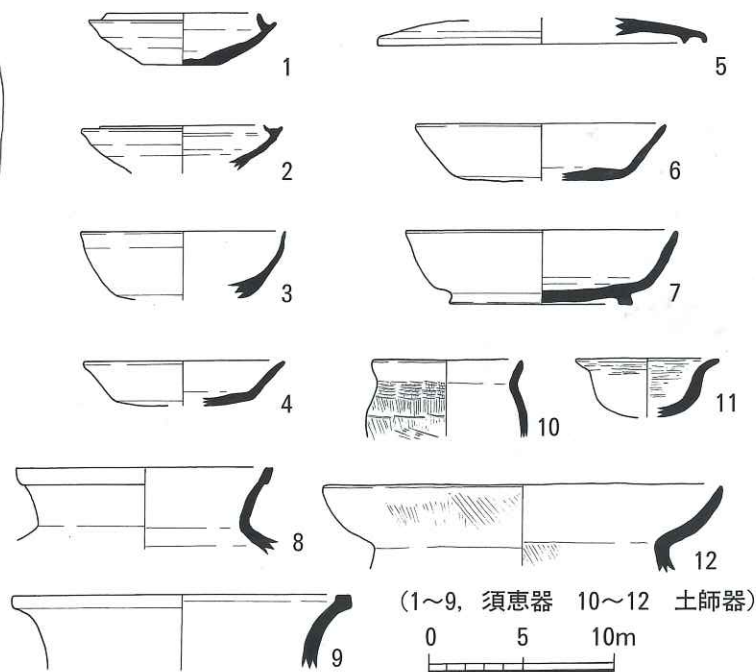
調査地位置図



銅印出土状況



調査地遺構図



溝出土遺物実測図

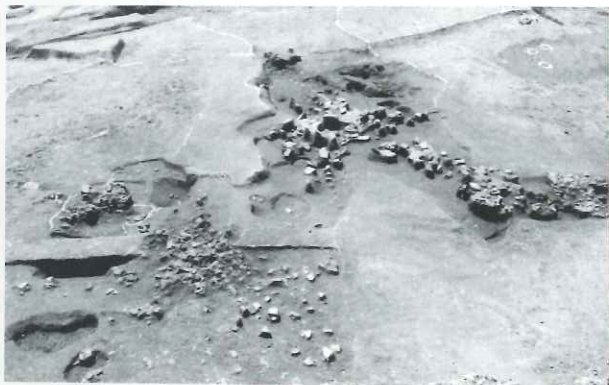
87R003-01調査区の北西に隣接する調査区で、南東から北西方向にのびていた溝は本調査区内で

向きを北にかえる。屈曲地点肩部の小ピットから銅印（「印真」か）が発見された。

5. 辻 遺 跡

(87R003-05)

ふりがな	つじいせき
所在地	栗東町辻字かしあげ464-1 北緯 35° 02' 15" 東経 136° 01' 03"
コード	321-003
調査期間	1988年3月2日～4月30日
調査面積	600m ²
調査原因	倉庫建設
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落・墓
主な時代	古墳時代～奈良時代
主な遺構	掘立柱建物・溝・流路・木棺墓
主な遺物	須恵器・土師器・木製品・滑石製品・石錘
特記事項	



土器出土状況



建築部材出土状況



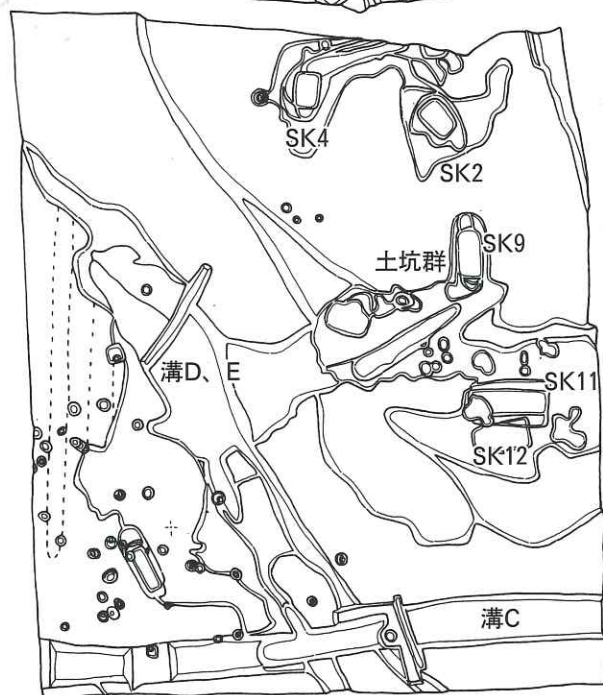
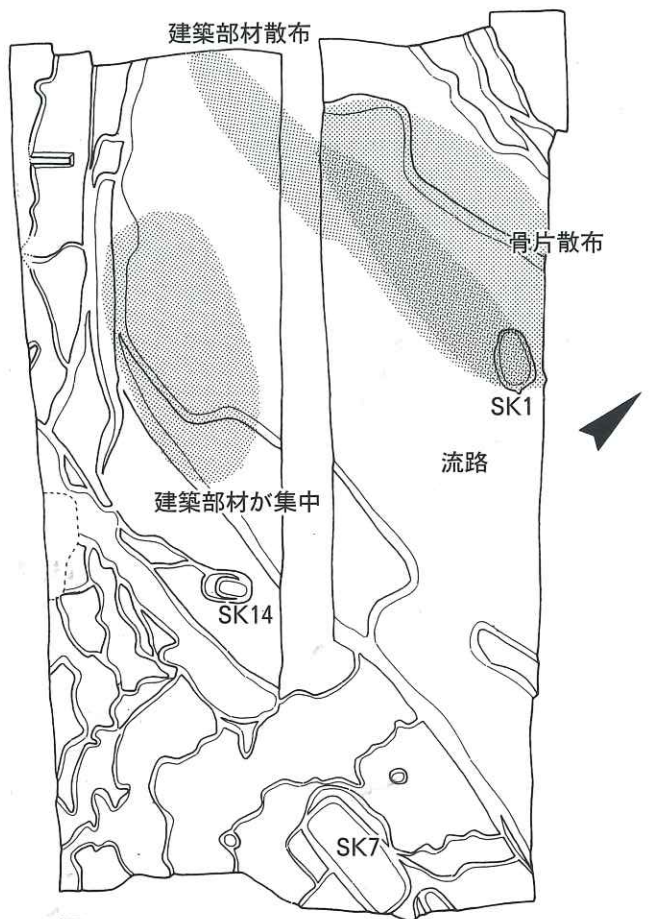
調査地位置図

この調査区は辻遺跡の北半部にあたる。東に隣接する1983.84年度調査区では、古墳時代中期に大集落が形成されていることが明らかになっている。本調査区内では幅約25m以上の流路が西から東に向けて流れているのが確認された。流路最下層からは古墳時代前半の土器が出土している。

古墳時代中期には有機質を多く含む層が形成されるが、この層からは大量の木製品が出土した。なかでも南側の肩部では炭化した建築部材が集中して投棄されており、焼失住居のものであったと考えられる。このほか農具・容器・紡織具・儀礼具など多様な木製品が含まれる。

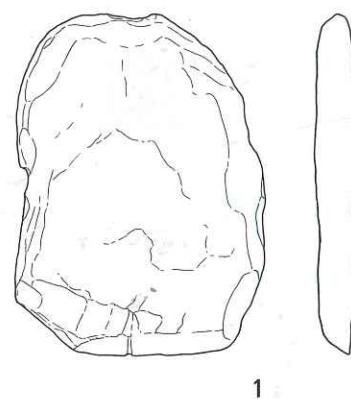
流路南岸では、古墳時代中期の土坑が集中しており、流路に沿って土坑墓からなる墓域が形成されていたものと考えられる。

南端部で掘立柱建物による集落が営まれるのは流路が埋没する奈良時代以降である。

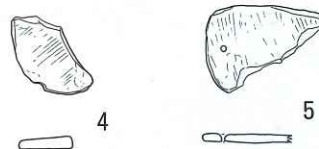
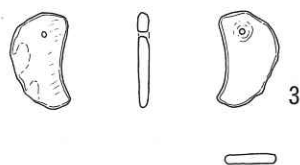
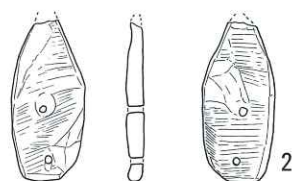


0 5 10m

調査地遺構図

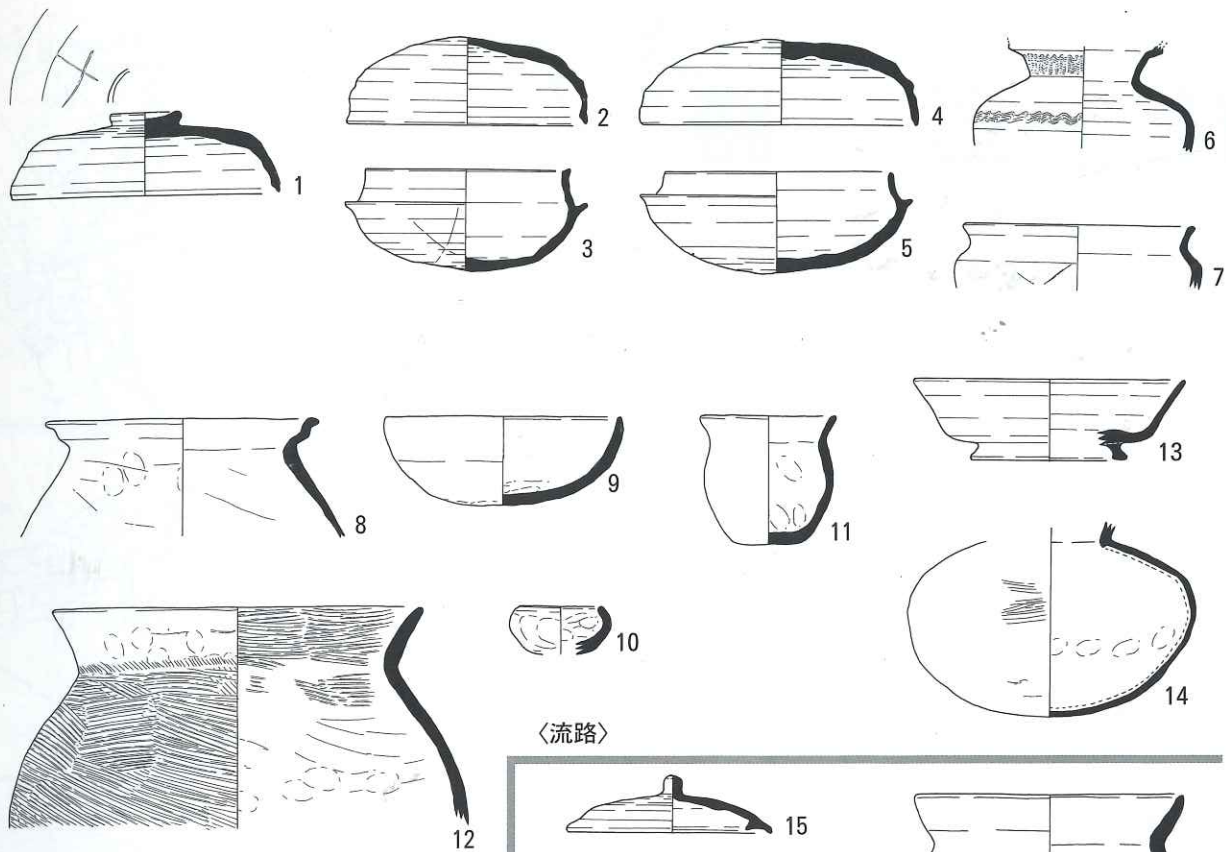


〈 1、4 流路
2~3、5~11 土坑群 〉



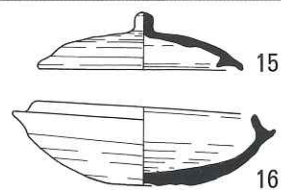
0 5cm

出土石製品実測図

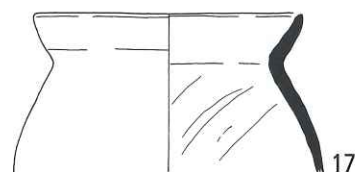


(1~7, 13~16 須恵器)
(8~12, 17 土師器)

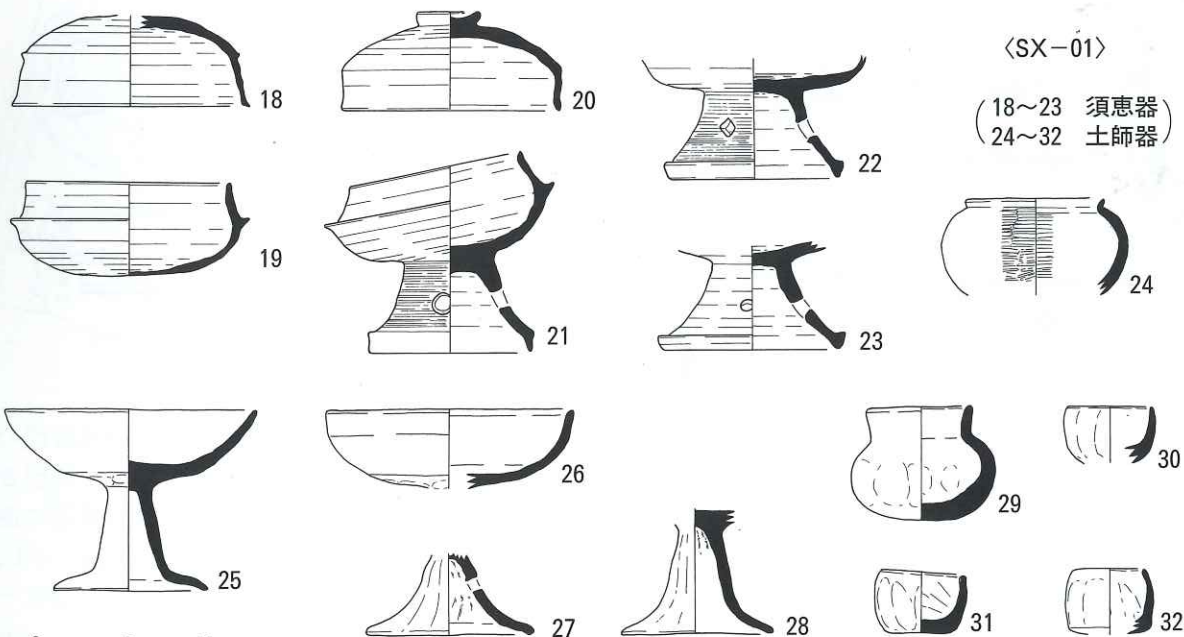
〈流路〉



(15・16須恵器 17土師器)



〈溝C〉



〈SX-01〉

(18~23 須恵器)
(24~32 土師器)

0 5 10cm

出土遺物実測図

6. 林 遺 跡

(87R009-01)

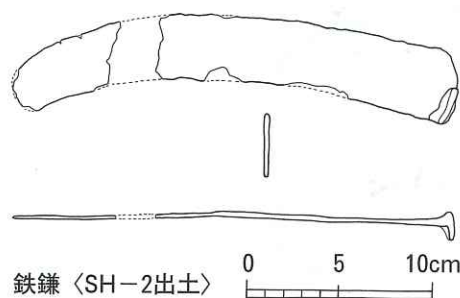
ふりがな	はやしいせき
所在地	栗東町林字西島
	北緯 35° 01' 26"
	東経 136° 01' 30"
コード	321-009
調査期間	1987年6月26日～7月9日
調査面積	70㎡
調査原因	個人用住宅
調査担当	大崎隆志
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	集落
主な時代	古墳～飛鳥時代
主な遺構	竪穴住居・溝・土坑
主な遺物	須恵器・土師器・滑石製品・鉄鎌・スラッグ
特記事項	



調査地全景

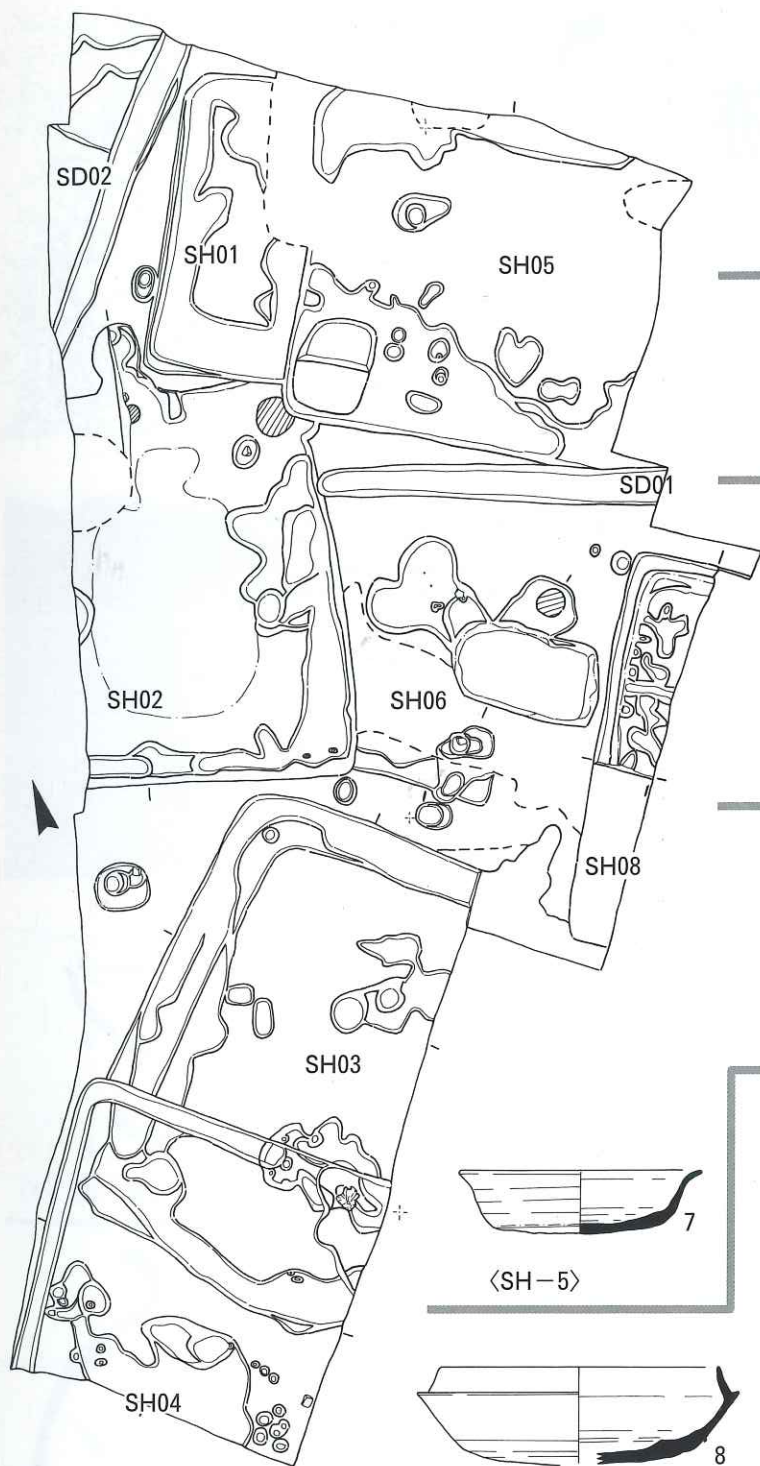


調査地位置図



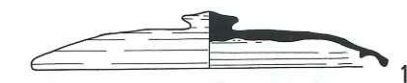
鉄鎌〈SH-2出土〉

この調査区からは古墳時代後期～飛鳥時代の竪穴住居（SH）7棟、溝、土坑が集中して検出された。SH-1は1辺3m程度。SH-2、4は東辺に造りつけカマドがある住居である。SH-2は4.0×4.2mでカマド付近から鉄鎌が出土した。SH-3は一辺5m程度で、鉄滓が出土している。SH-5は一辺4m程度。SH-6は4.0×2.0m以上。SH-7は壁面に焼けた痕跡がある。



調査地遺構図

0 1 2m



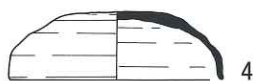
〈SH-1〉



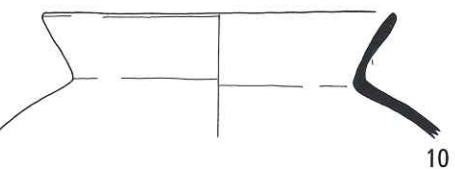
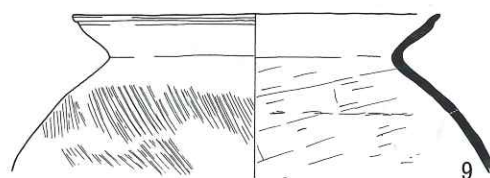
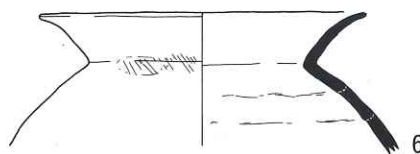
〈SH-2〉



〈SH-3〉



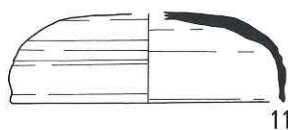
〈SH-4〉



〈SH-5〉

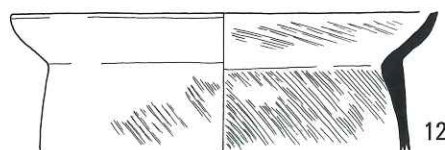


〈SH-6〉



〈SH-7〉

0 5 10cm



〈SH-8〉

出土遺物実測図

7. 上砥山遺跡

(87R021-01)

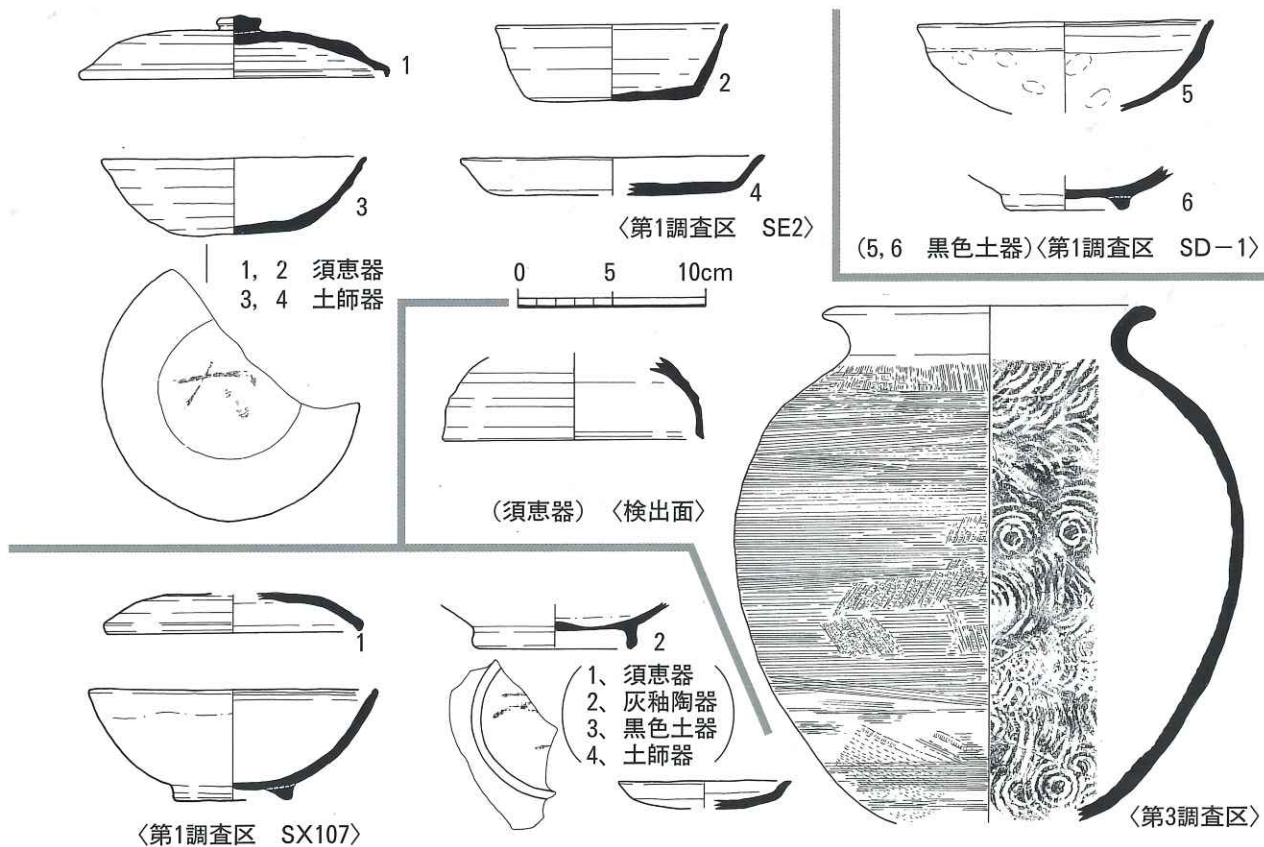
ふりがな	かみとやまいせき
所在地	栗東町上砥山地先
	北緯 35° 00' 28"
	東経 136° 01' 00"
コード	321-021
調査期間	1987年6月24日～11月30日
調査面積	2,355m ²
調査原因	圃場整備
調査担当	松村 浩
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	奈良～平安時代
主な遺構	掘立柱建物・溝・土坑・井戸
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・青磁・墨書土器
特記事項	文献1



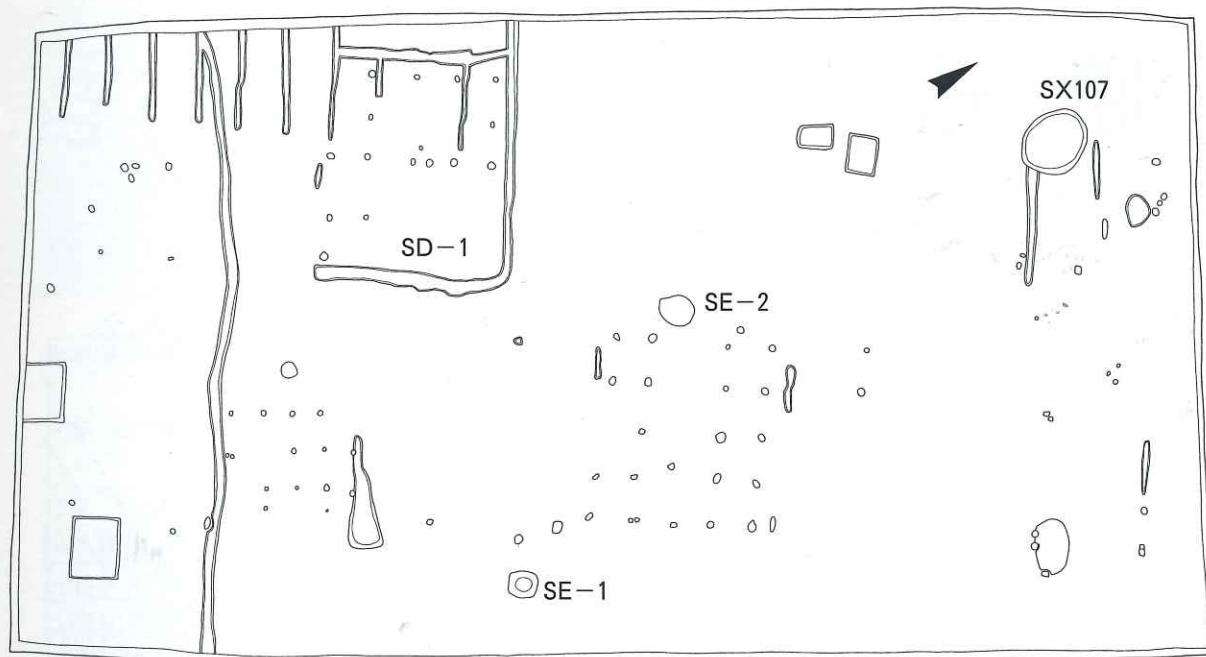
調査地位置図 (1:20000)



第1調査区 北半部

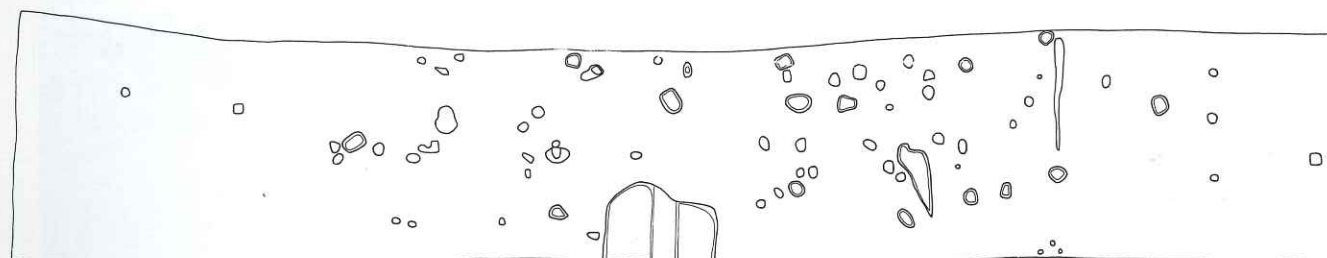


出土遺物実測図



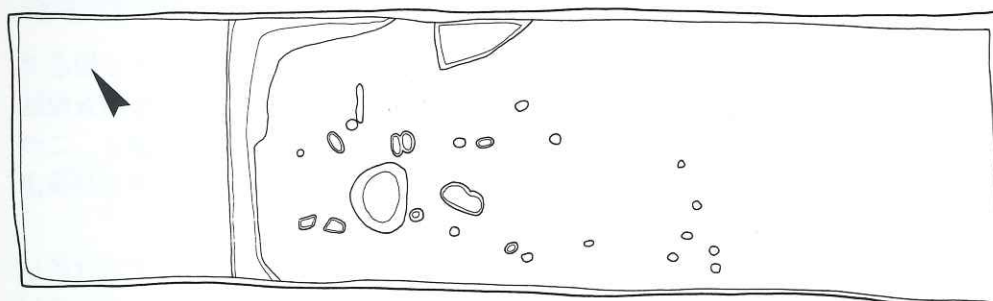
第1調査区

0 10 20m



第3調査区 1トレンチ

0 10m



第3調査区 2トレンチ

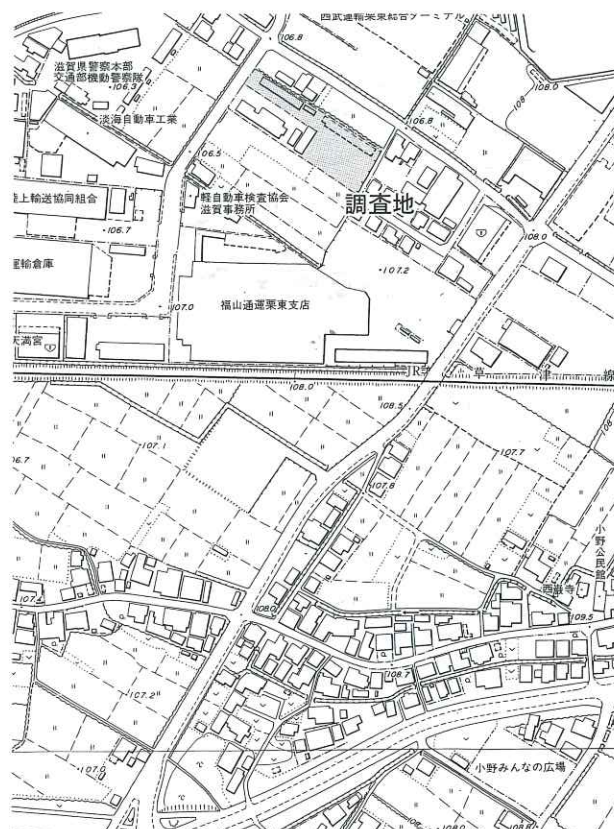
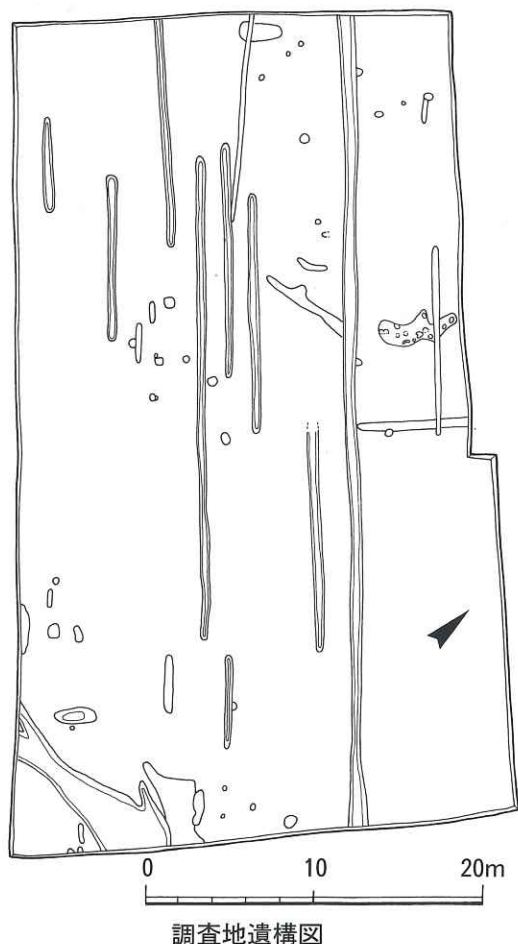
0 10m

調査地遺構図

8. 手 原 遺 跡

(87R025-01)

ふりがな	てはらいせき
所在地	栗東町大橋字前田615-1 616 北緯 35° 01' 33" 東経 136° 01' 33"
コード	321-025
調査期間	1987年4月17日～1987年6月20日
調査面積	1500㎡
調査原因	倉庫建設
調査担当	清水好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	奈良時代～中世
主な遺構	溝・ピット
主な遺物	須恵器・土師器・陶磁器
特記事項	



調査地位置図



調査地区全景

手原遺跡の北端部、高野遺跡に隣接する地点での調査である。南東に隣接する1985年度調査地区では、古墳～奈良時代の並行する2条の溝と、この溝に挟まれるように竪穴住居・掘立柱建物が検出されている。

本調査地では調査区南角で、1985年度調査区に発見された集落北側の溝が、東から西に延びていることが明らかになった。溝の北側では、条里方向に延びる幅30～50cmの小溝が数条、および小規模な柱穴が発見された。

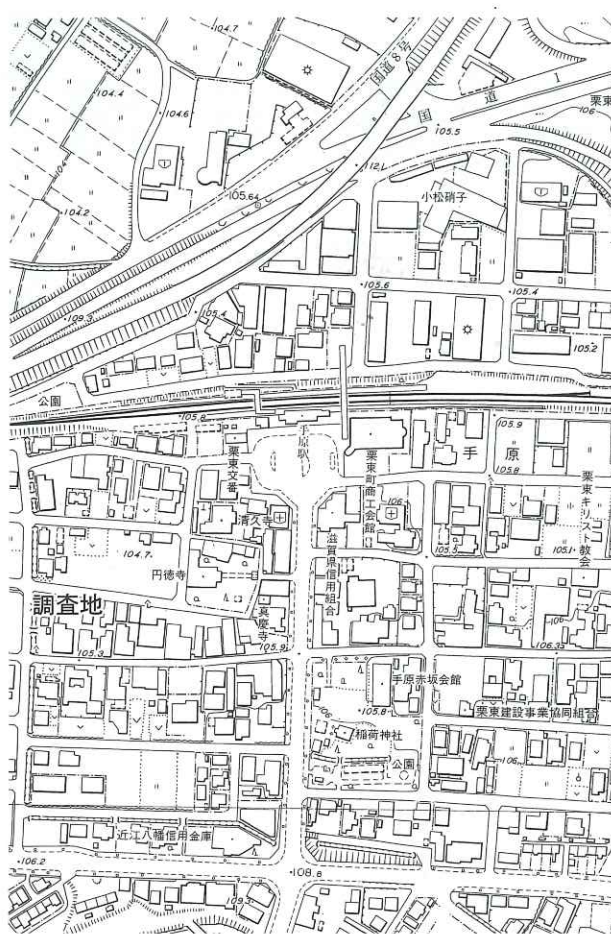
9. 手原遺跡

(87R025-03)

ふりがな	てはらいせき
所在地	栗東町手原4丁目4-13 北緯 35° 01' 23" 東経 136° 00' 00"
コード	321-025
調査期間	1987年9月16日～9月17日
調査面積	30m ²
調査原因	店舗建設
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	寺院・官衙・集落
主な時代	飛鳥・奈良時代
主な遺構	包含層
主な遺物	須恵器・土師器・瓦
特記事項	

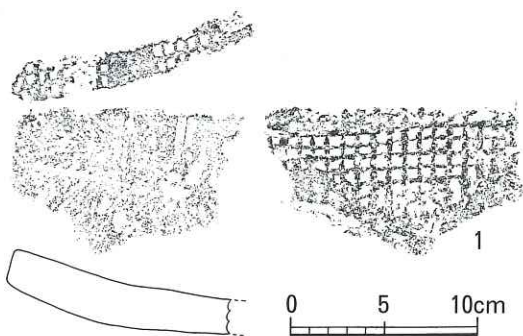


調査区全景

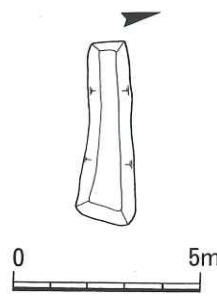
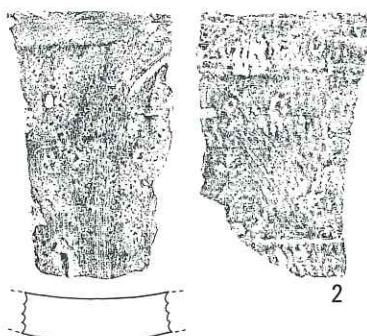


調査地位置図

手原遺跡ではJR草津線手原駅の南西側一帯で、古瓦の散布が確認されている。今回の調査区では面積は狭いながら、区画整理事業で客土された土層中から、白鳳～奈良時代の瓦が多量に出土した。客土はその土質から近辺からのものである可能性が高く、調査地付近で多量に散布していた瓦が流入したものと考えられる。



出土遺物実測図 (瓦)



調査地遺構図

10. 手原遺跡

(87R025-02)

ふりがな	てはらいせき
所在地	栗東町手原字西天神821
	北緯 35° 01' 30"
	東経 136° 00' 14"
コード	321-025
調査期間	1987年7月14日～9月14日
調査面積	393㎡
調査原因	倉庫建設
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落・官衙
主な時代	飛鳥～鎌倉時代
主な遺構	掘立柱建物・溝・土坑・井戸
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・白磁・土錘・金属製品
特記事項	

手原遺跡の中でも本調査地の立地する北半部では、奈良時代から平安時代の官衙的な建物群が発見されている。

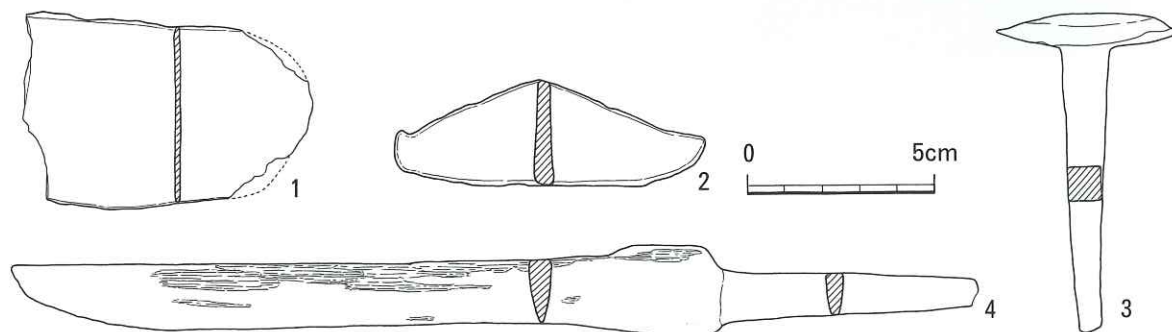
本調査地では奈良時代～鎌倉時代の建物が発見された。このうち奈良～平安時代初頭の建物は調査地南半部にみられる。平安時代後期から鎌倉時代の建物は北半部および南半部で建てられている。



調査地位置図



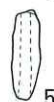
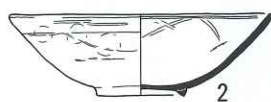
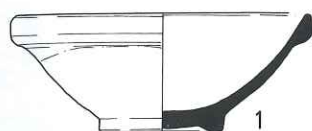
調査地全景



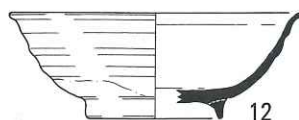
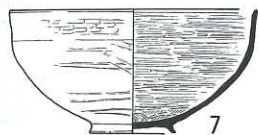
(1、鑊 2、火鑽金具 3、釘 4、刀)

 $\langle 1.3 \text{ SX}-4 \quad 2 \quad 4 \quad \text{SX}-1 \rangle$

出土鉄器実測図



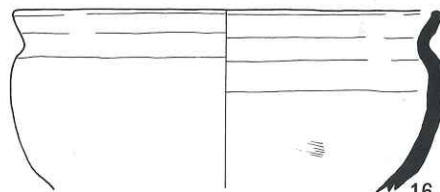
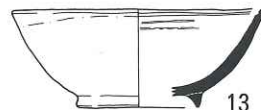
〈SX-1〉



〈小溝N〉



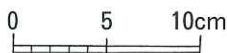
〈SX-2〉



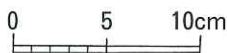
〈SX-3〉



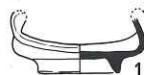
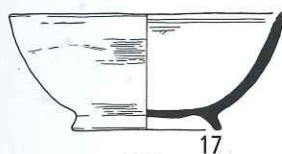
〈SX-4〉



〈SX-5〉



(1, 白磁 2, 13 黒色土器
3~5, 8~11, 16 土師器
7, 瓦器 12, 灰釉陶器)



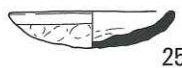
〈石群B〉



〈P-196〉

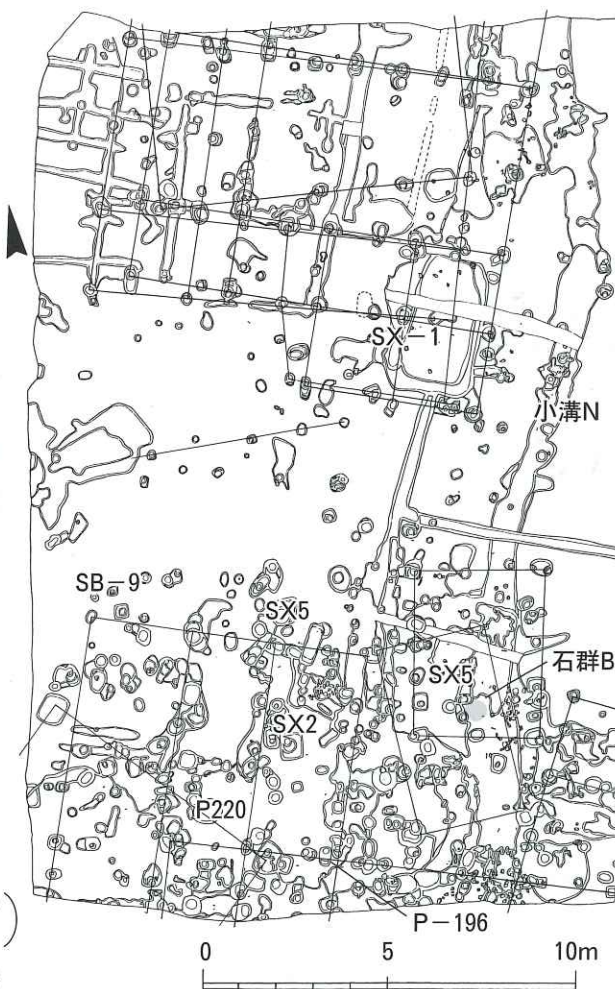


〈P-220〉



(17, 18, 26 黒色土器
19~25 土師器)

〈SB-09〉



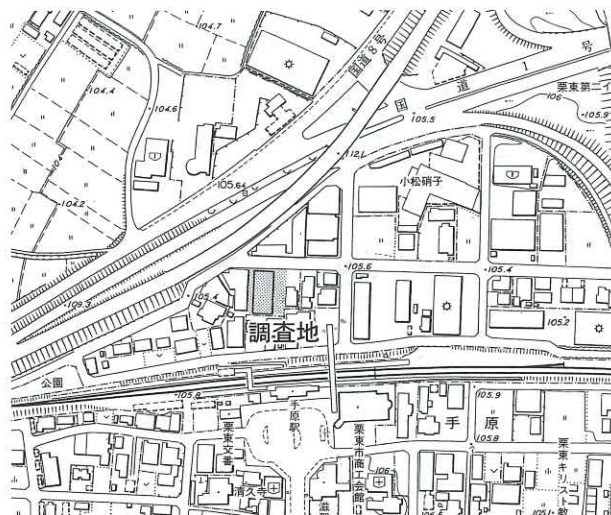
調査地遺構図および出土遺物実測図

11. 手 原 遺 跡

(87R025-04)

ふりがな	てはらいせき
所在地	栗東町手原7丁目847 北緯 35° 01' 29" 東経 136° 00' 07"
コード	321-025
調査期間	1987年10月26日～1988年2月18日
調査面積	745m ²
調査原因	造成工事
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	寺院・官衙・集落・墓
主な時代	飛鳥時代～中世
主な遺構	掘立柱建物・溝
主な遺物	須恵器・土師器・瓦
特記事項	文献1

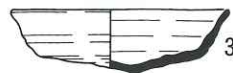
この調査区では2間×2間、3間×2間の総柱建物が4棟検出された。これらは東-西方向に整然と並んでいたものと考えられる。建物の床面積は15～30m²である。また調査地北辺部および東辺部では、建物群を区画する溝および道路状遺構が発見されている。これらの遺構は8世紀後半を中心とする時期のものと考えられる。



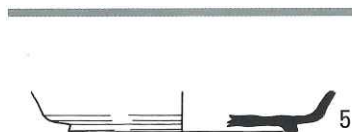
調査地位置図



調査地全景



〈1～4 倉庫群〉



〈5.区画溝〉

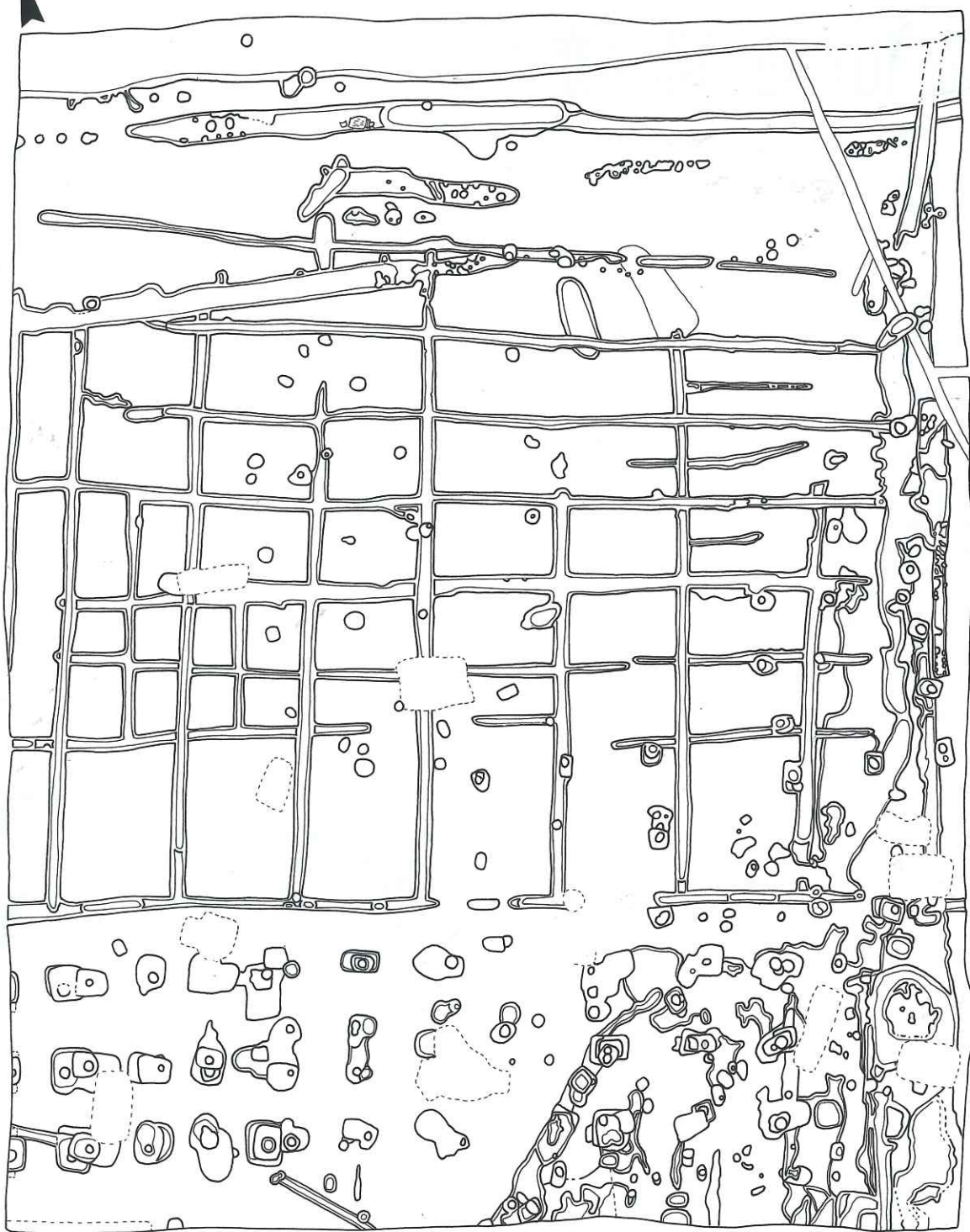


〈6.包含層〉



〈1～6 須恵器〉

出土遺物実測図



調査地遺構図

12. 靈仙寺遺跡

(87R033-01)

ふりがな	りょうせんじいせき
所在地	栗東町靈仙寺字北ノ脇237-2他 北緯 35° 02' 16" 東経 135° 58' 08"
コード	321-033
調査期間	1988年3月～5月
調査面積	950㎡
調査原因	造成工事
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落・墓
主な時代	弥生時代・平安時代
主な遺構	溝・土坑
主な遺物	弥生土器・石器・碧玉・フイゴ羽口
特記事項	

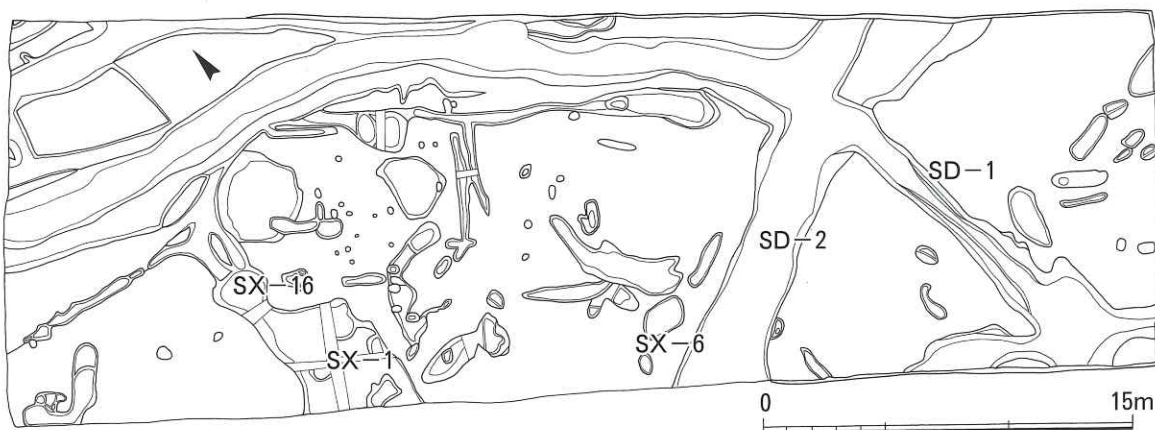


調査地位置図

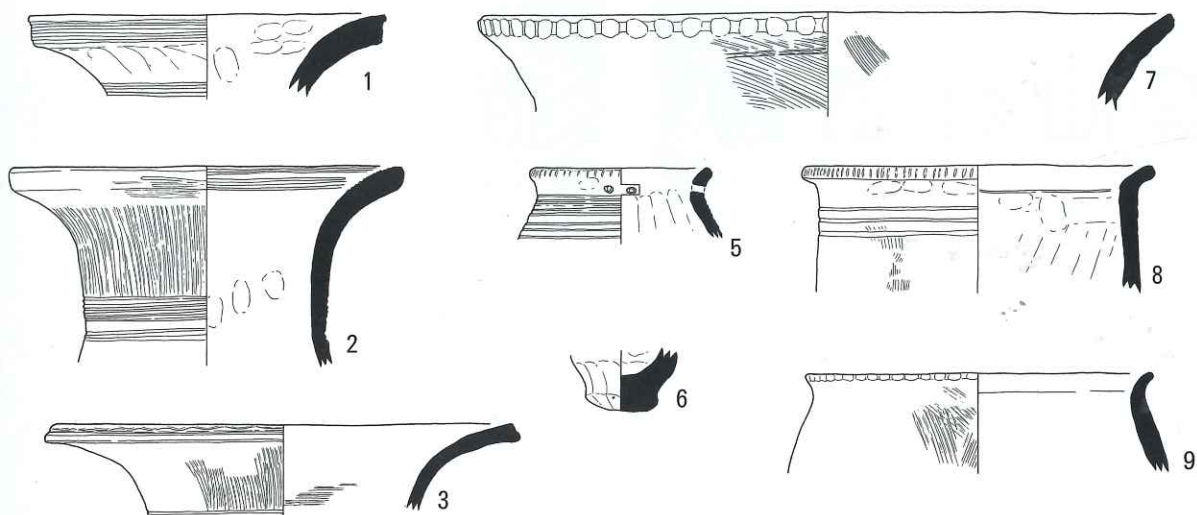
この調査では南から弯曲して西へ延びる溝（SD-1）と南西から北東に向かって延びる溝（SD-2）、および不整形を呈する土坑群が検出された。溝や包含層からは多量の弥生土器の他、石鏃・石匙・石斧・碧玉片が出土している。フイゴ羽口は灰釉陶器とともにSX-16から出土した。



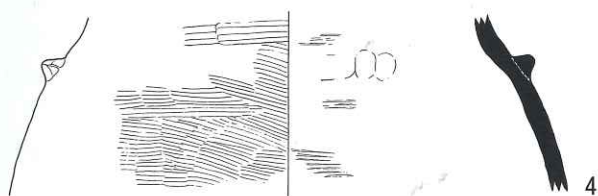
調査地東半部



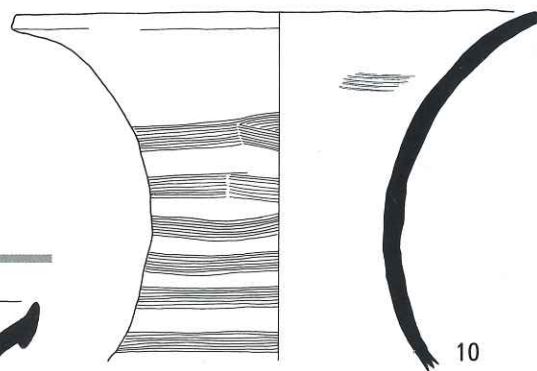
調査地遺構図



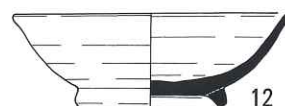
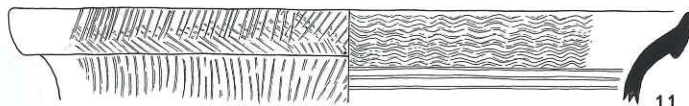
〈SD-1〉



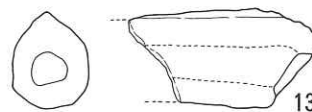
〈SD-2〉



10
〈SX-1〉

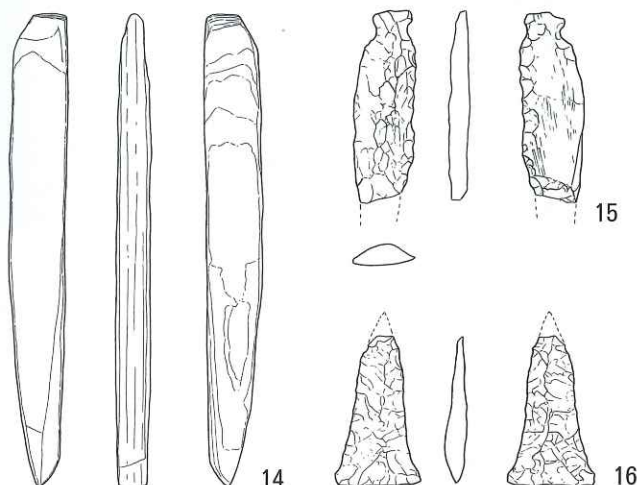


12
〈SX-16〉



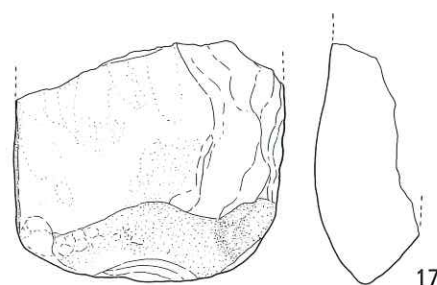
13

0 5 10cm (12、灰釉陶器
13、フイゴ羽口)



0 5cm

14、15 SD-1
16 SD-2
17 包含層



17

出土遺物実測図

13. 靈仙寺遺跡

(87R033-02)

ふりがな	りょうせんじいせき
所在地	栗東町靈仙寺字堂1西342-2
	北緯 35° 02' 04"
	東経 135° 57' 57"
コード	321-033
調査期間	1988年2月16日～3月2日
調査面積	85m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	松村 浩
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	集落・寺院
主な時代	飛鳥～奈良時代
主な遺構	ピット
主な遺物	須恵器・土師器・瓦
特記事項	

この調査区では北端部から径20～40cm程度の柱穴がまとまって出土し、調査区北側の調査区外に延びる建物が存在したことが予想された。

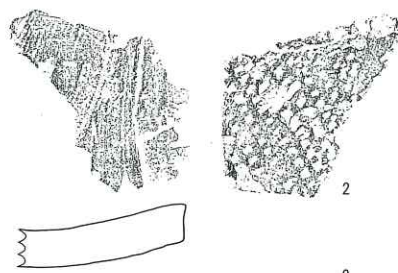
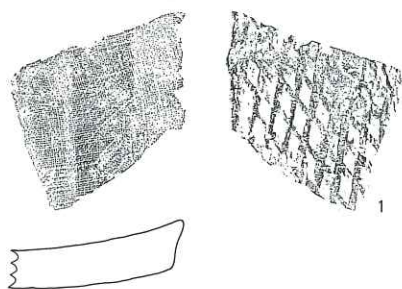
2003年度には本調査区北隣りで調査が実施され、多量の瓦が出土したことから、一帯に白鳳寺院の存在を推定し小平井廃寺と仮称している。



調査地位置図



調査地全景



0 5 10cm

出土遺物実測図

14. 靈仙寺遺跡

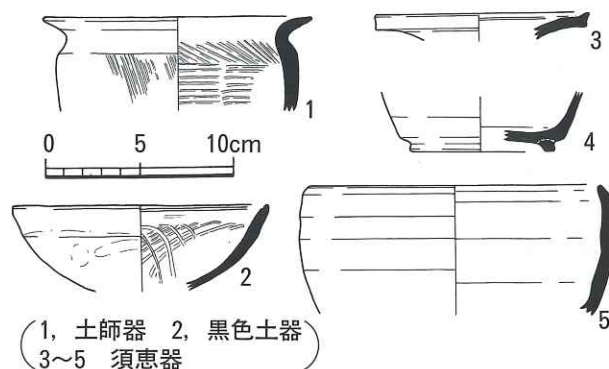
(87R033-03.04)

ふりがな	りょうせんじいせき
所在地	栗東町小平井・靈仙寺地先
	北緯 35° 02' 07"
	東経 135° 58' 04"
コード	321-033
調査期間	1987年9月10日～12月20日
調査面積	214m ²
調査原因	下水道工事
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	弥生時代～中世
主な遺構	包含層
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器
特記事項	



調査地位置図

靈仙寺遺跡の中でも北端部の十里、南端部の小平井で調査が実施された。とくに小平井地区では須恵器・土師器・黒色土器などが含まれる層が発見された。



15. 中沢遺跡

(87R034-01)

ふりがな	なかざわいせき
所在地	栗東町中沢地先
	北緯 35° 01' 27"
	東経 135° 58' 30"
コード	321-034
調査期間	1988年1月8日～2月22日
調査面積	80m ²
調査原因	道路改良
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	弥生時代
主な遺構	特になし
主な遺物	弥生土器
特記事項	試掘調査

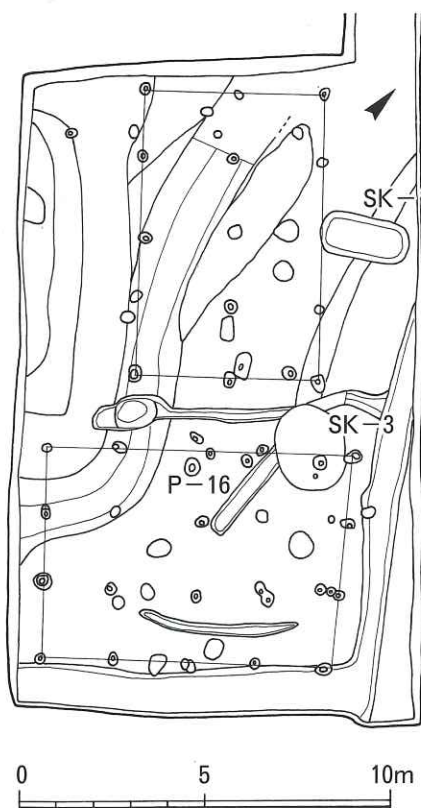


調査地位置図

16. 岩 畑 遺 跡

(87R085-01)

ふりがな	いわはたいせき
所在地	栗東町林字高丸308-3
	北緯 35° 01' 45"
	東経 136° 01' 32"
コード	321-085
調査期間	1987年7月14日～8月17日
調査面積	160m ²
調査原因	倉庫建設
調査担当	清水好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	奈良時代～鎌倉時代
主な遺構	掘立柱建物・流路・溝・土坑
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・白磁・灰釉陶器
特記事項	



調査地遺構図



調査地位置図

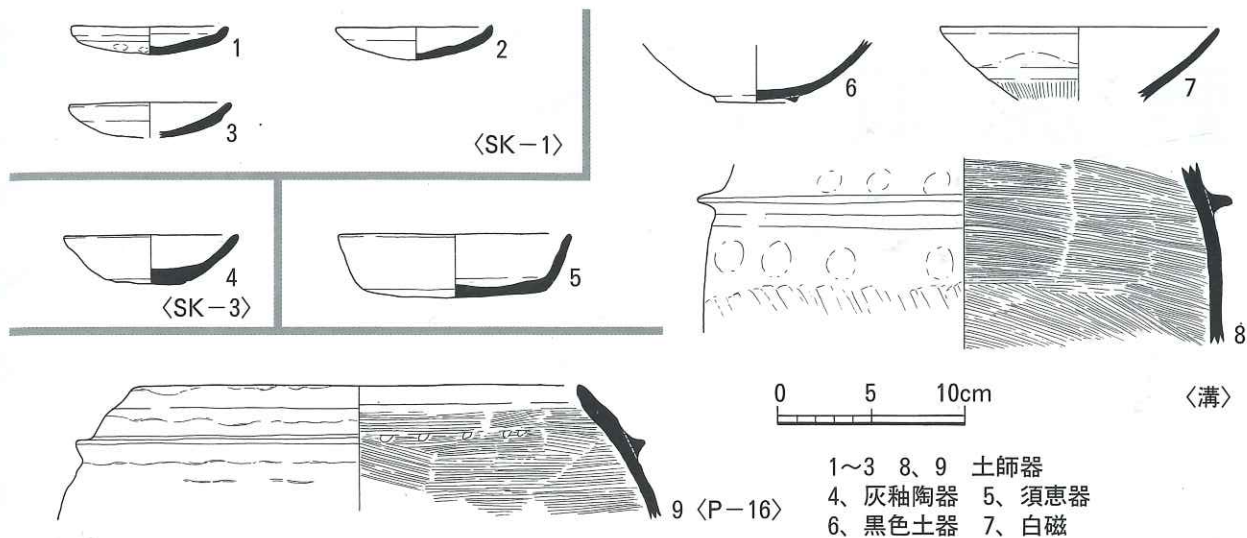
この調査では掘立柱建物2棟（4間×2間、3間×5間 平安時代後期から鎌倉時代）、溝（奈良～鎌倉時代）、土坑墓などが検出されている。



下層溝出土状況



掘立柱建物、土坑墓



出土遺物実測図

17. 野 尻 遺 跡

(87R088-01)

ふりがな	のじりいせき
所在地	栗東町野尻地先 北緯 35° 01' 42" 東経 135° 59' 21"
コード	321-088
調査期間	1987年11月16日～11月21日
調査面積	25m ²
調査原因	下水道工事
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	
主な遺構	特になし
主な遺物	特になし
特記事項	



調査位置図



調査風景 ▶

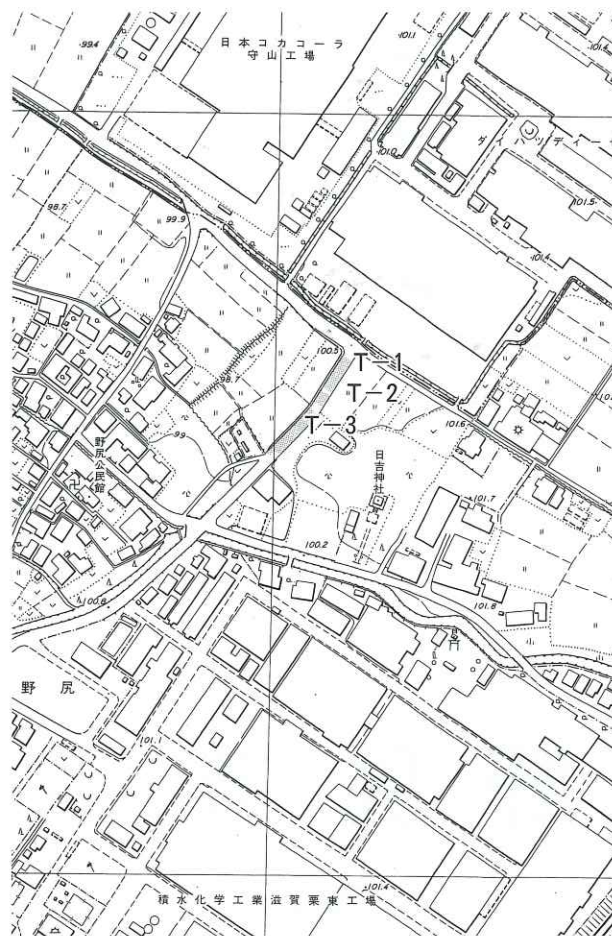
18. 野 尻 遺 跡

(87R088-02)

ふりがな	のじりいせき
所在地	栗東町野尻地先 北緯 35° 02' 00" 東経 135° 59' 40"
コード	321-088
調査期間	1987年12月17日～1988年1月20日
調査面積	470m ²
調査原因	道路建設
調査担当	平井壽一
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	中世
主な遺構	溝
主な遺物	土師器・黒色土器・灰釉陶器・白磁・瓦・石鍋・石鏃
特記事項	



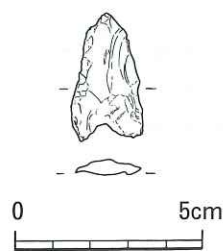
T-3 全景



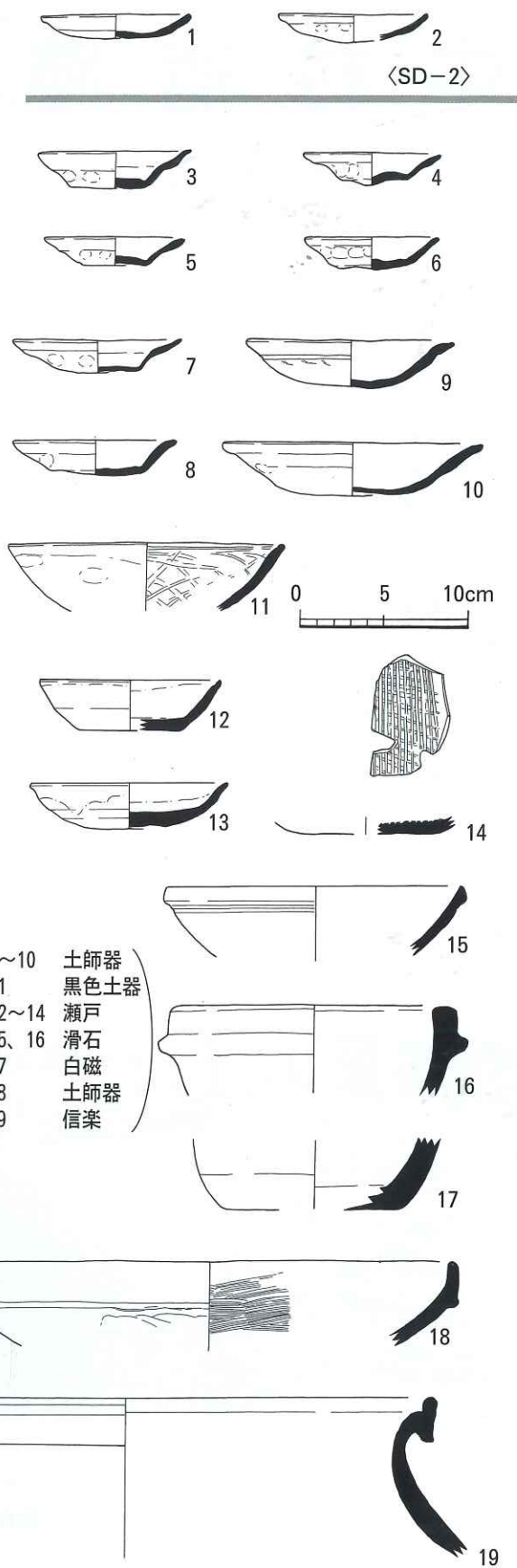
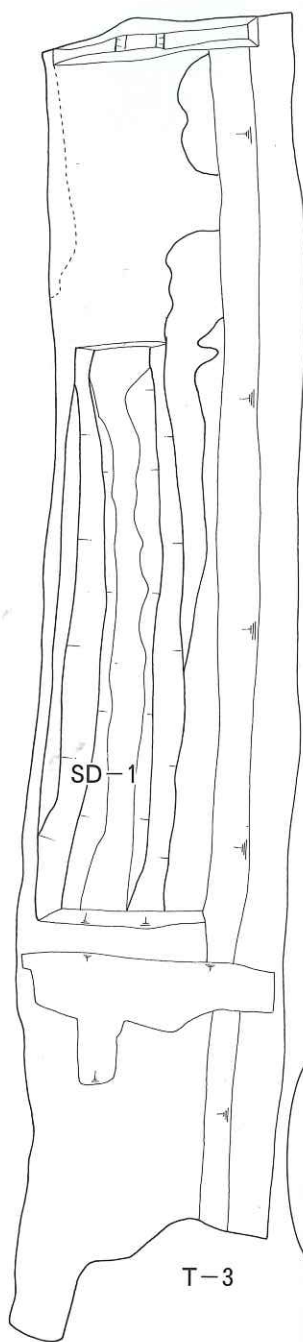
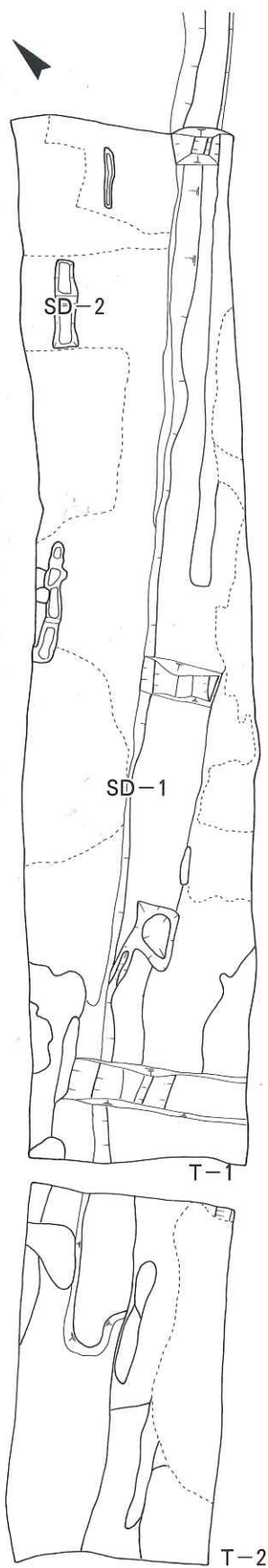
調査地位置図

この調査区は現野尻集落と日吉神社との間に位置する。町道路建設にともない調査が行われ、設定されたトレンチと重複するようにのびる溝が検出された。

溝 (SD-1) は幅1.2～3.0m、深さは1.0～1.6mである。黒色土器・土師器・古瀬戸・信楽・青磁・白磁・滑石製石鍋・獣骨・鉄釘などが出土した。また溝からは時期が遡るが須恵器高坏・平瓦片も出土しており、周辺に飛鳥時代～奈良時代の遺構がある可能性が考えられる。



石鏃実測図



調査地遺構図および出土遺物実測図

19. 中村遺跡

(87R057-01)

ふりがな	なかむらいせき
所在地	栗東町御園1816 北緯 34° 59' 55" 東経 136° 01' 37"
コード	321-057
調査期間	1988年3月30日～4月30日
調査面積	300m ²
調査原因	造成工事
調査担当	清水好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代
主な遺構	溝・土坑・ピット
主な遺物	須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器
特記事項	

この調査区では、溝・土坑・掘立柱建物が検出された。土坑は径1.6mを測り、曲物の底板が出土している。平安時代前期ものである。掘立柱建物は3棟復元できる。平安時代後期のものである。西端部で検出された流路は中世以降のものである。

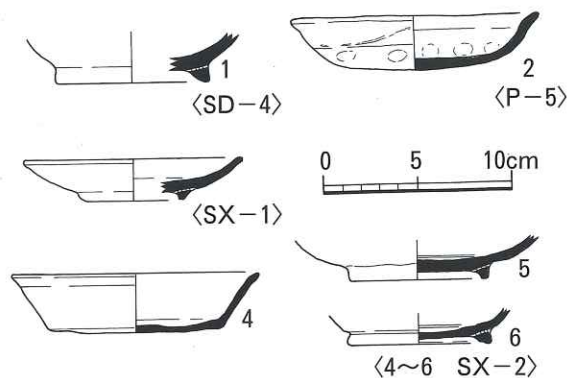


調査地全景

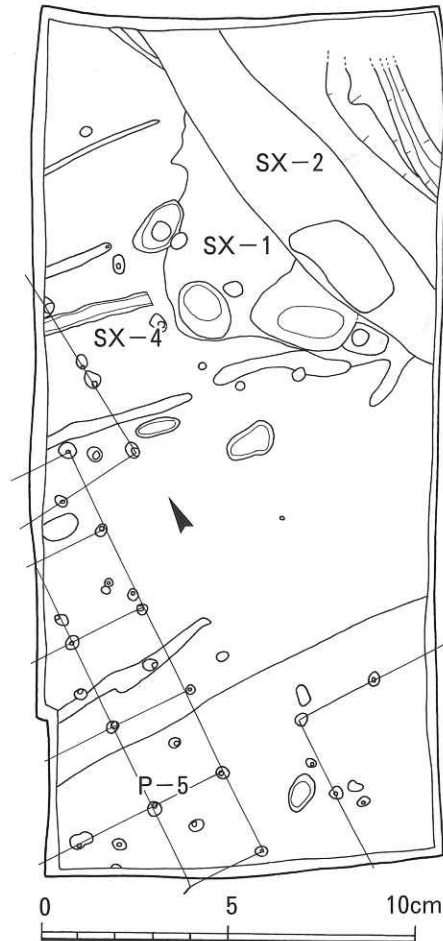
調査地遺構図▶



調査地位置図



(1、 緑釉陶器 2、 土師器
3、 6 灰釉陶器 4、 5 須恵器)



20. 高野遺跡

(87R092-01)

ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町高野字下戸別当575-5 北緯 35° 01' 52" 東経 136° 00' 55"
コード	321-092
調査期間	1987年4月10日～6月8日
調査面積	380m ²
調査原因	共同住宅建設
調査担当	近藤 広
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落・墓
主な時代	古墳時代
主な遺構	竪穴住居・土坑・古墳
主な遺物	土師器
特記事項	



竪穴住居

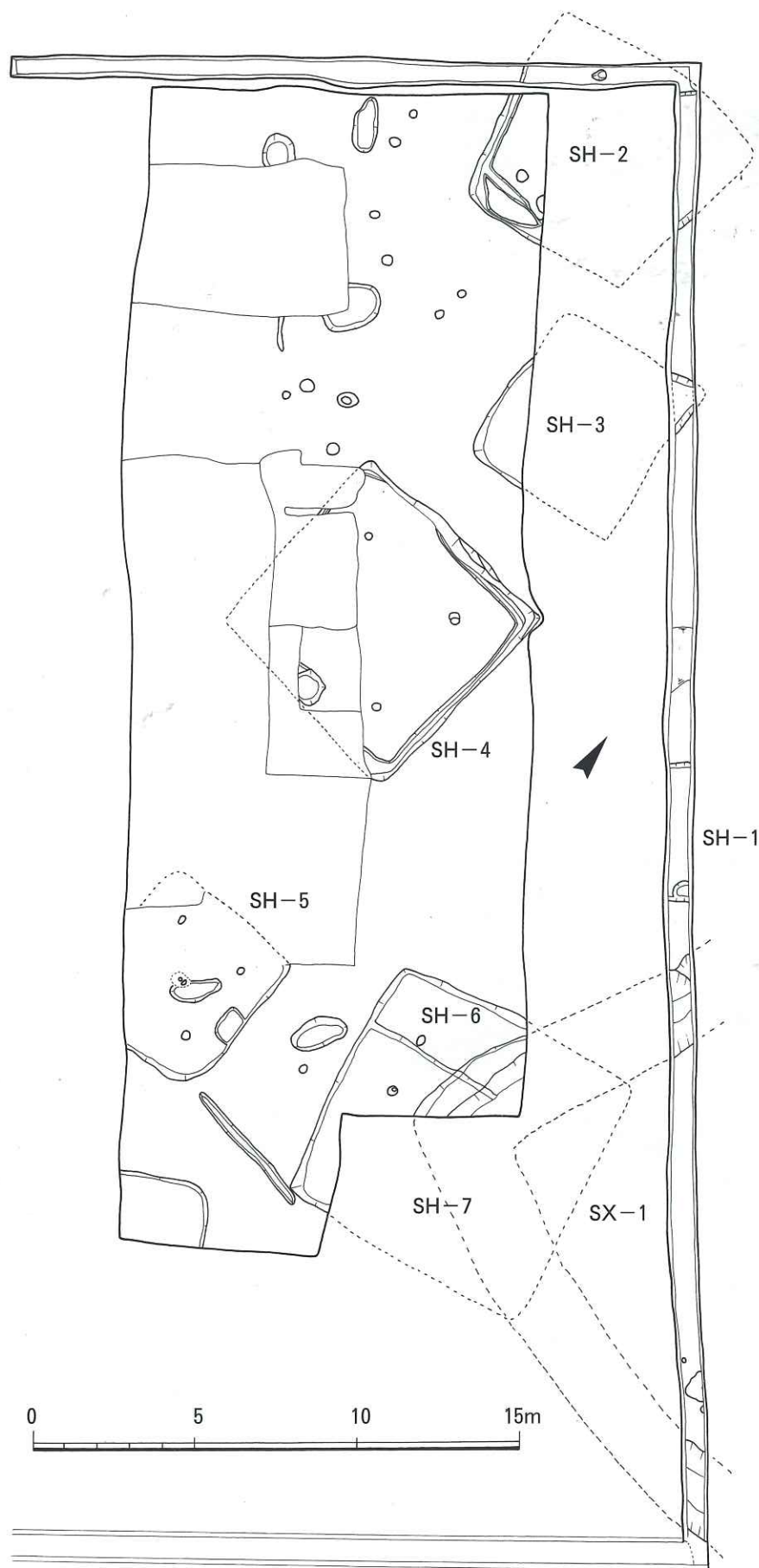


調査地位置図

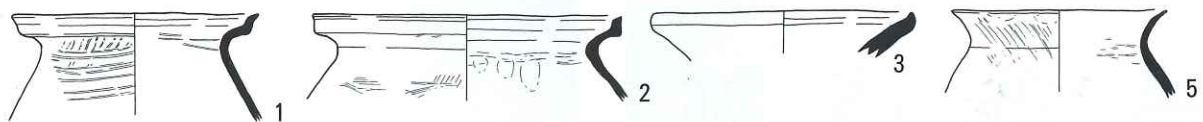
この調査区では共同住宅建設予定地および擁壁部分について調査区が設定され、竪穴住居（SH）7棟、方墳（SX）1基が検出された。

SH-1は部分的な検出であるが、壁溝・土坑が確認され、一辺4.5mを計る住居であったと推定できる。SH-2は6.5×7m程度、SH-3は5.0×5.5mでいずれも部分的な検出である。SH-4は7.0×7.3mで、住居南辺に土坑が検出されている。SH-5は1辺5m程度で、住居東辺に土坑が設けられる。SH-6は1辺8m程度と大型である。SH-7が重複している。住居の深さは概ね40～50cmで、のこりがいいものは70cm以上であった。いずれも古墳時代前期のものである。

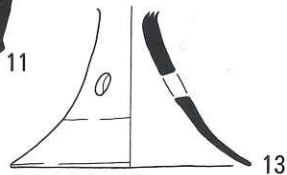
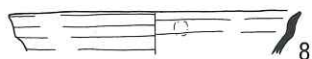
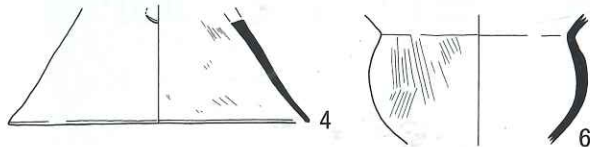
方墳は部分的であるが、調査区東南隅で確認された。周溝は幅2.3m程度、深さは検出面下0.6m程度で、SH-6,7が埋没したあとに掘削されている。古墳時代前期の土器が出土している。



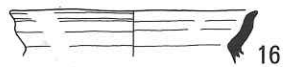
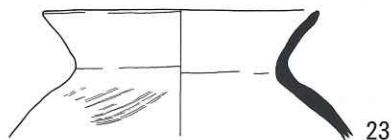
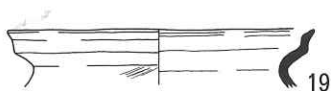
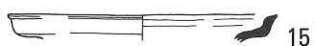
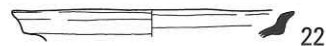
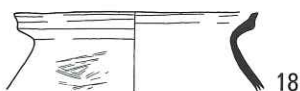
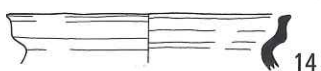
調査地遺構図



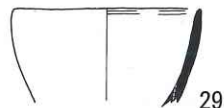
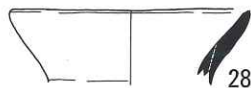
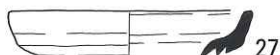
〈SH-1〉



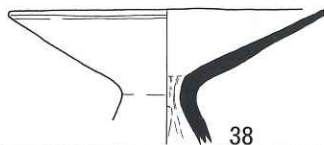
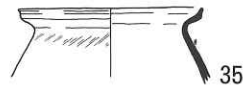
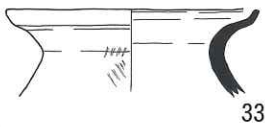
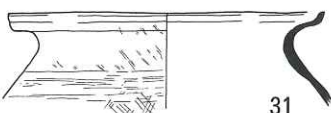
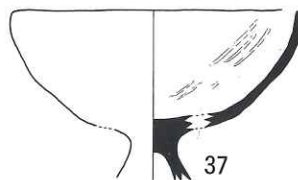
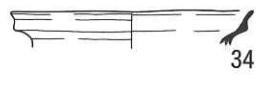
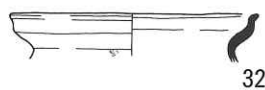
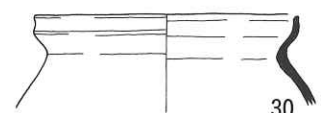
〈SH-2〉



〈SH-4〉



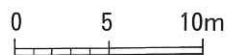
〈SH-5〉



〈SH-6〉



〈SX-1〉

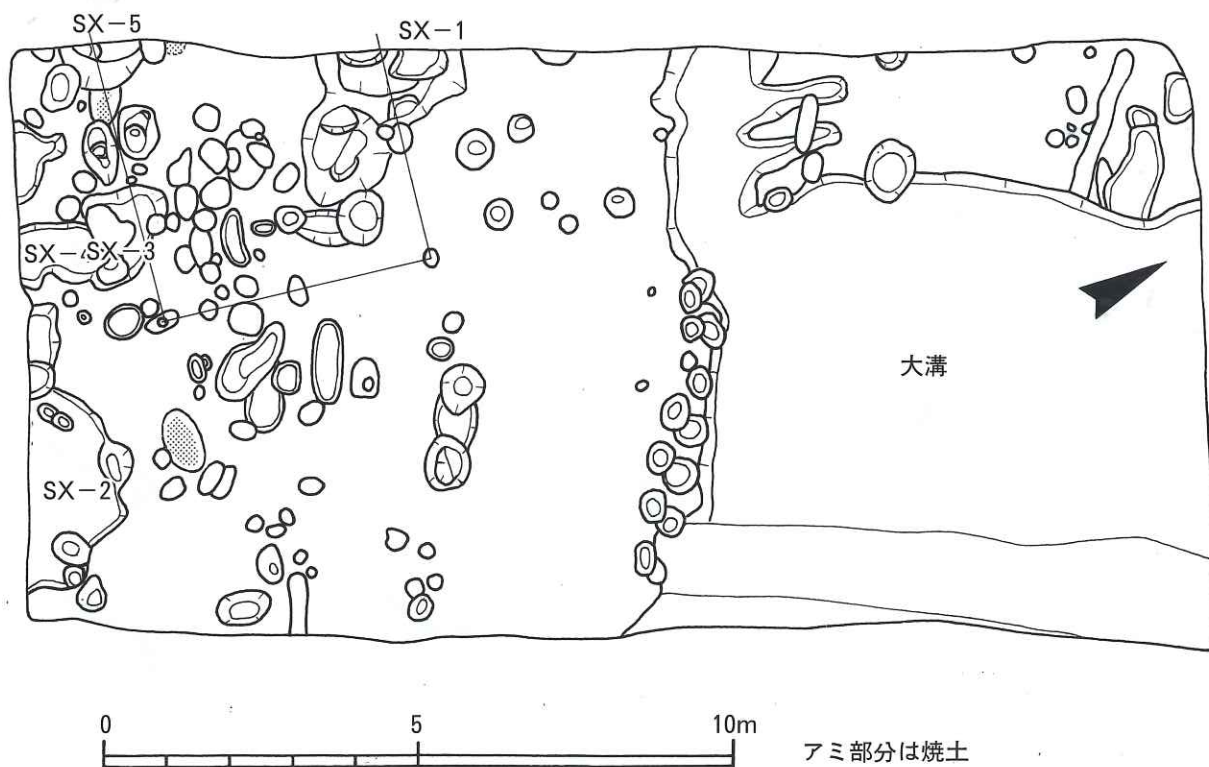


出土遺物実測図

21. 高野遺跡

(87R092-02)

ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町高野550
	北緯 35° 01' 54"
	東経 136° 01' 00"
コード	321-092
調査期間	1987年6月12日～7月1日
調査面積	80m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	近藤 広
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	平安時代・鎌倉時代
主な遺構	掘立柱建物・流路・土坑
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・瓦
特記事項	

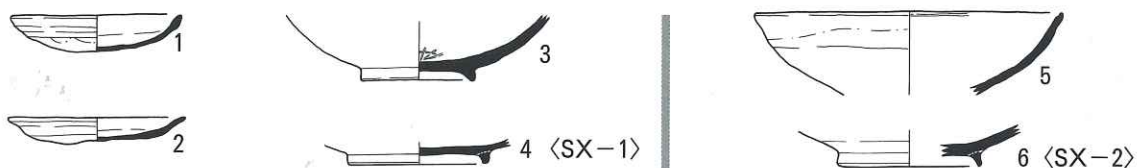


調査地遺構図



この調査区では、大溝・掘立柱建物・土坑が検出された。掘立柱建物は2間×1間以上のもので、調査区外に延びる。この他の柱穴も建物になる可能性がある。SX-1～5はいずれも不整形の土坑である。土坑、掘立柱建物は平安時代末から鎌倉時代初頭に比定できる。大溝は調査区東隅で検出され、西側に支流が延びる。幅7m以上、深さ2m以上で、中世以降のものである。

◀ 調査地全景



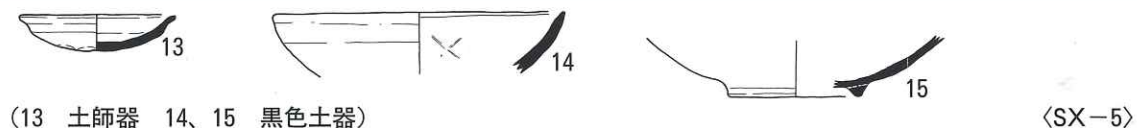
(1、2 土師器 3 黒色土器 4 灰釉陶器)



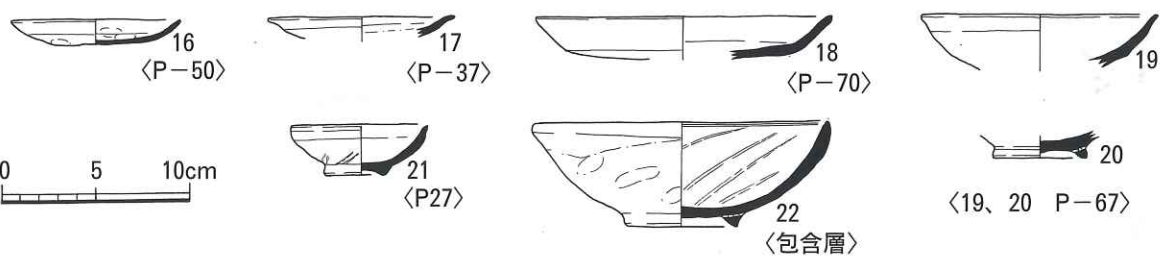
(7 土師器 8 黒色土器 9 須恵器)



(10 土師器 11、12 黒色土器)



(13 土師器 14、15 黒色土器)



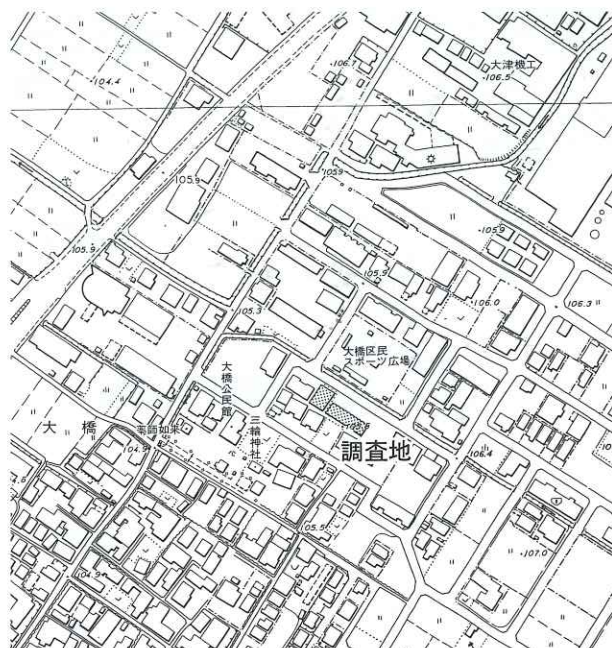
0 5 10cm

出土遺物実測図

22. 高野遺跡

(87R092-03)

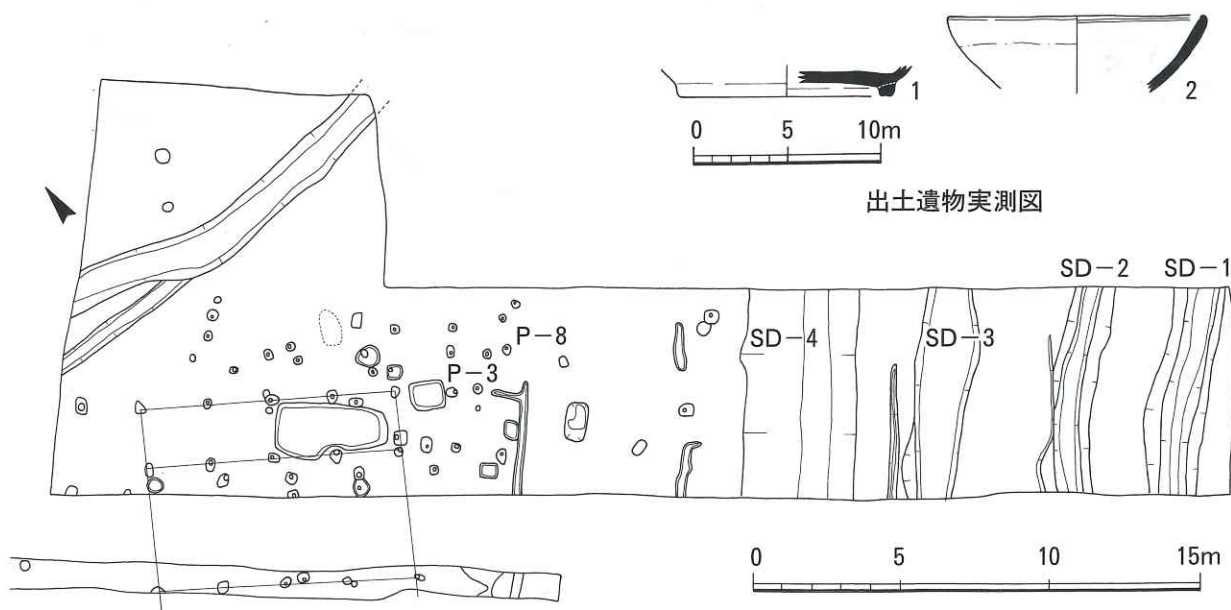
ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町大橋字一本松218
	北緯 35° 02' 15"
	東経 136° 00' 29"
コード	321-092
調査期間	1987年9月～11月
調査面積	308㎡
調査原因	共同住宅
調査担当	清水好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代～鎌倉時代
主な遺構	掘立柱建物・溝・土坑
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器
特記事項	



調査地位置図



調査地全景

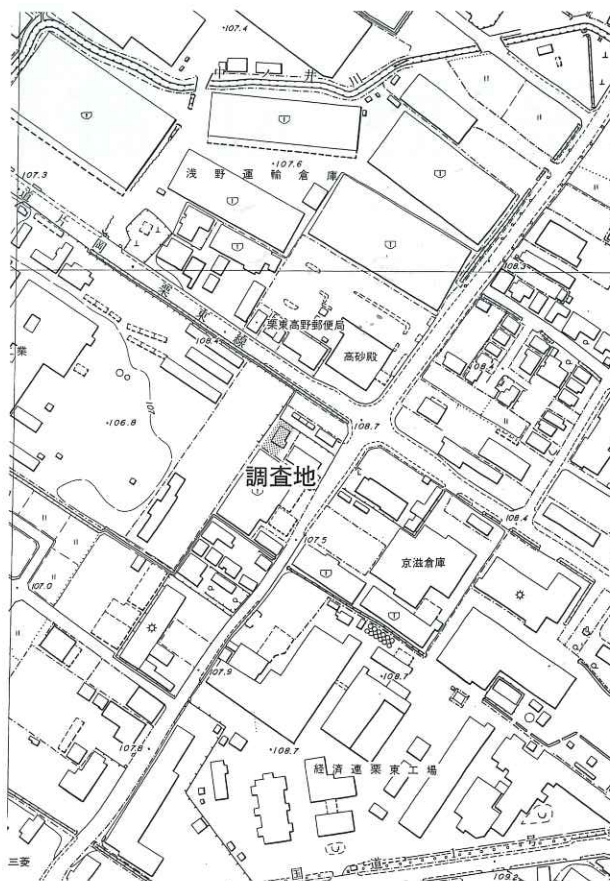
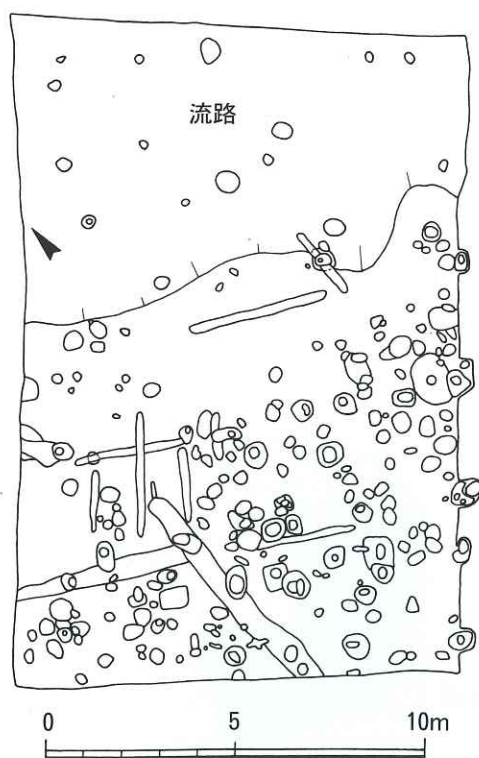


調査地遺構図

23. 高野遺跡

(87R092-04)

ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町高野230
	北緯 35° 01' 48"
	東経 136° 00' 46"
コード	321-092
調査期間	1987年12月17日～1988年1月26日
調査面積	52m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	近藤 広
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	集落
主な時代	古墳時代・平安時代～鎌倉時代
主な遺構	掘立柱建物・流路・溝
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器
特記事項	



調査地位置図



調査地南半部

この調査区では掘立柱建物・溝(SD)・流路が検出された。SD-1は幅0.6m、深さ0.1m程度。流路は北半部で検出されており、深さは0.3～0.6mである。掘立柱建物・溝は平安時代前期、流路はそれ以降のものである。

24. 高野遺跡

(87R092-05)

ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町六地藏字高黒761 北緯 35° 01' 34" 東経 136° 01' 08"
コード	321-092
調査期間	1987年11月16日～12月5日
調査面積	175㎡
調査原因	個人用住宅
調査担当	大崎隆志
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落・墓
主な時代	室町時代
主な遺構	掘立柱建物・土坑・流路・溝
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・瓦器・瓦・和鏡
特記事項	



調査地全景

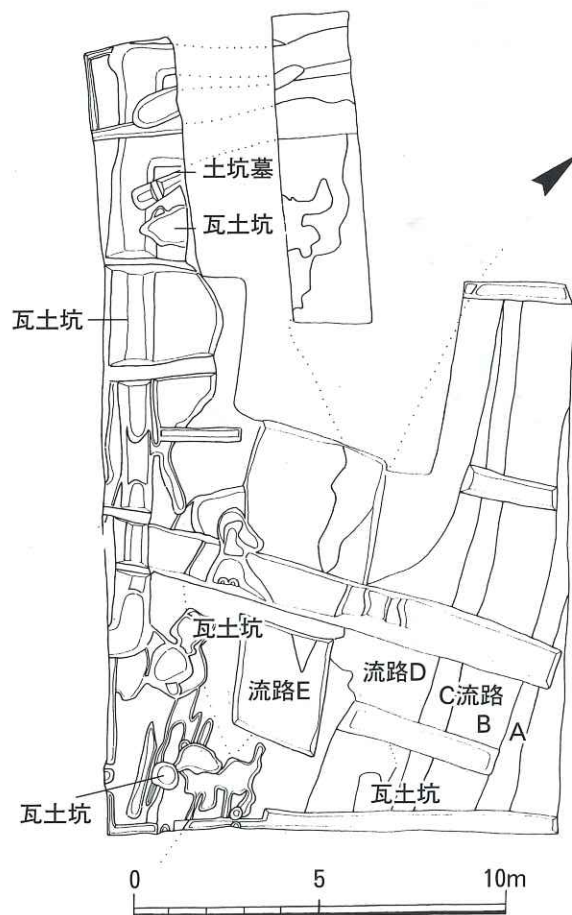


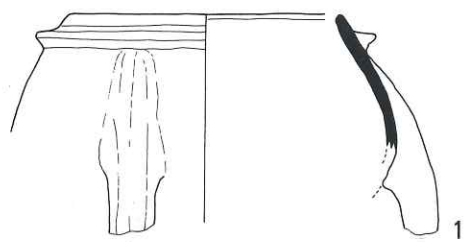
瓦出土状況



調査地位置図

この調査区では掘立柱建物2棟・堀・流路、土坑が検出された。流路は鎌倉時代およびそれ以降に形成されたもので、5時期の切り合いがある。深さは0.6～1.3m。調査区南西隅では幅1.2m、深さ0.6mの溝がみられ、北端で東へ、さらに南端では西へ屈曲する。溝が埋没したあと、調査区西端部で土坑墓がつくられる。土坑墓には直径8.7cmの和鏡が副葬されていた。ほかに調査区内では巴文軒丸瓦をはじめとする多量の瓦が出土する土坑が点在する。



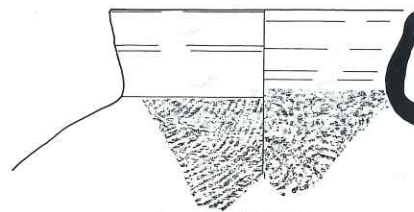


〈流路E〉



(1 土師器
2 灰釉陶器)

0 5 10cm



(3~5 須恵器)

〈流路D〉



(3 土師器 4 瓦器)

〈瓦土坑〉



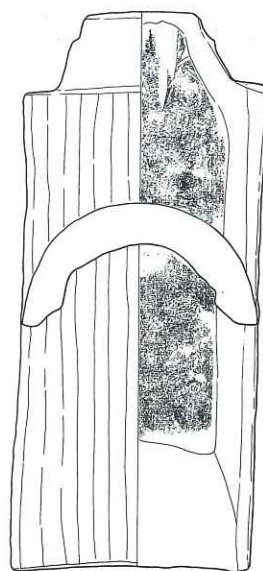
5



6



7



9

〈5~10 瓦土坑〉

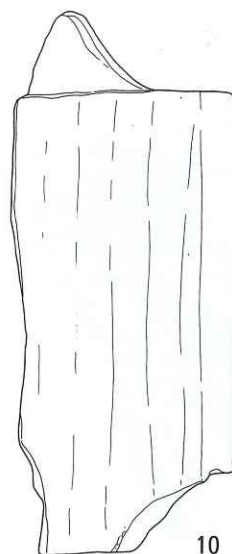
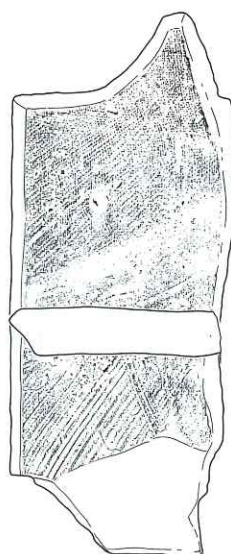


8

〈土坑墓〉



和鏡



10

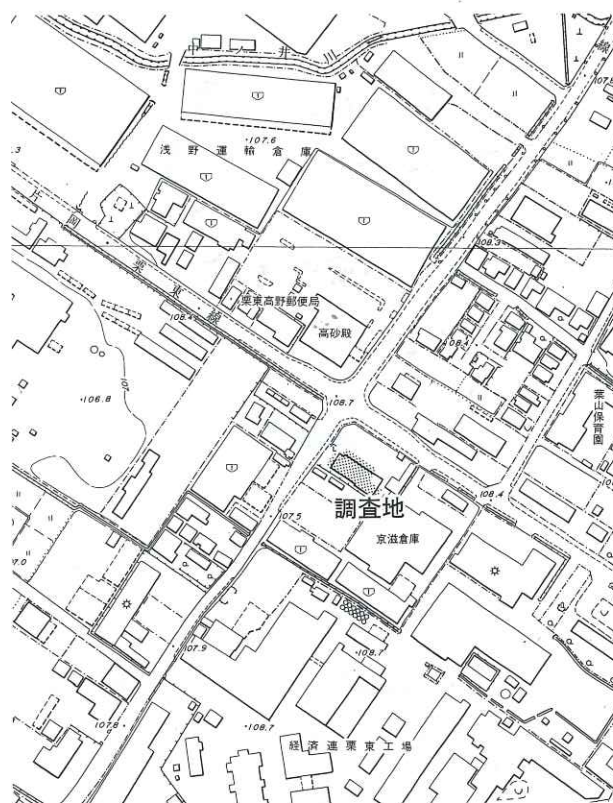
25. 高野遺跡

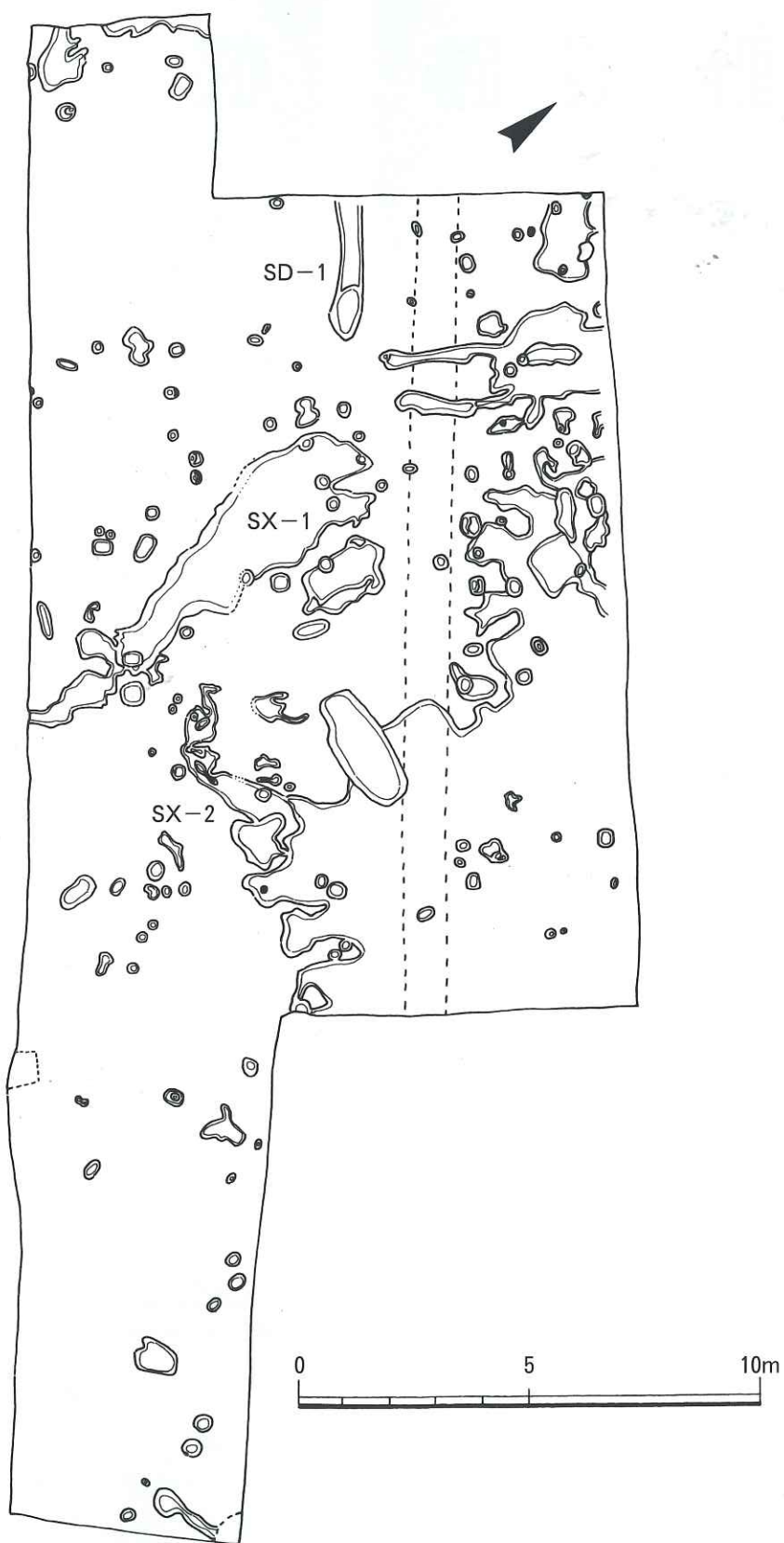
(87R092-06)

ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町高野字泉220-3他 北緯 35° 01' 46" 東経 136° 00' 49"
コード	321-092
調査期間	1987年10月1日～10月15日
調査面積	69m ²
調査原因	ホテル建設
調査担当	大崎隆志
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳時代
主な遺構	溝・土坑・ピット
主な遺物	土師器
特記事項	

この調査ではピット、不整形落ち込み（SX）、溝（SD）が検出された。SX-1は幅2.0m、長さ6.1m、深さは0.4mで炭片が出土している。時期は不明である。

ピットは古墳時代前期、および後期のものがあり、建物の柱穴になる可能性があるものもある。





調査地遺構図

26. 高野遺跡

(87R092-08)

ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町高野字イバ立 北緯 35° 01' 34" 東経 136° 01' 08"
コード	321-092
調査期間	1987年10月14日～11月14日
調査面積	250m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	近藤 広
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	古墳時代
主な遺構	掘立柱建物・竪穴住居・流路・溝
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・滑石製品
特記事項	

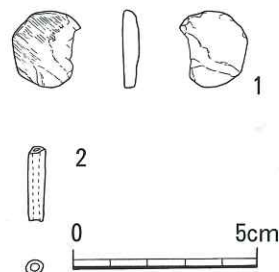


調査地遺構図



調査地位置図

この調査区では、竪穴住居（SH）3棟・掘立柱建物（SB）1棟以上、流路が検出されている。SH-3は一边4.0mで、中央に炉がある。SH-4は4.8×4.4mで東辺にカマドを設ける。SH-5は6.4×5.6mで北辺にカマドを設ける。SB-2は1間以上×3間以上。流路は深さ0.7mでいどで、平安時代から中世の遺物が出土する。



出土遺物実測図



調査地区全景

27. 高野遺跡

(87R092-09)

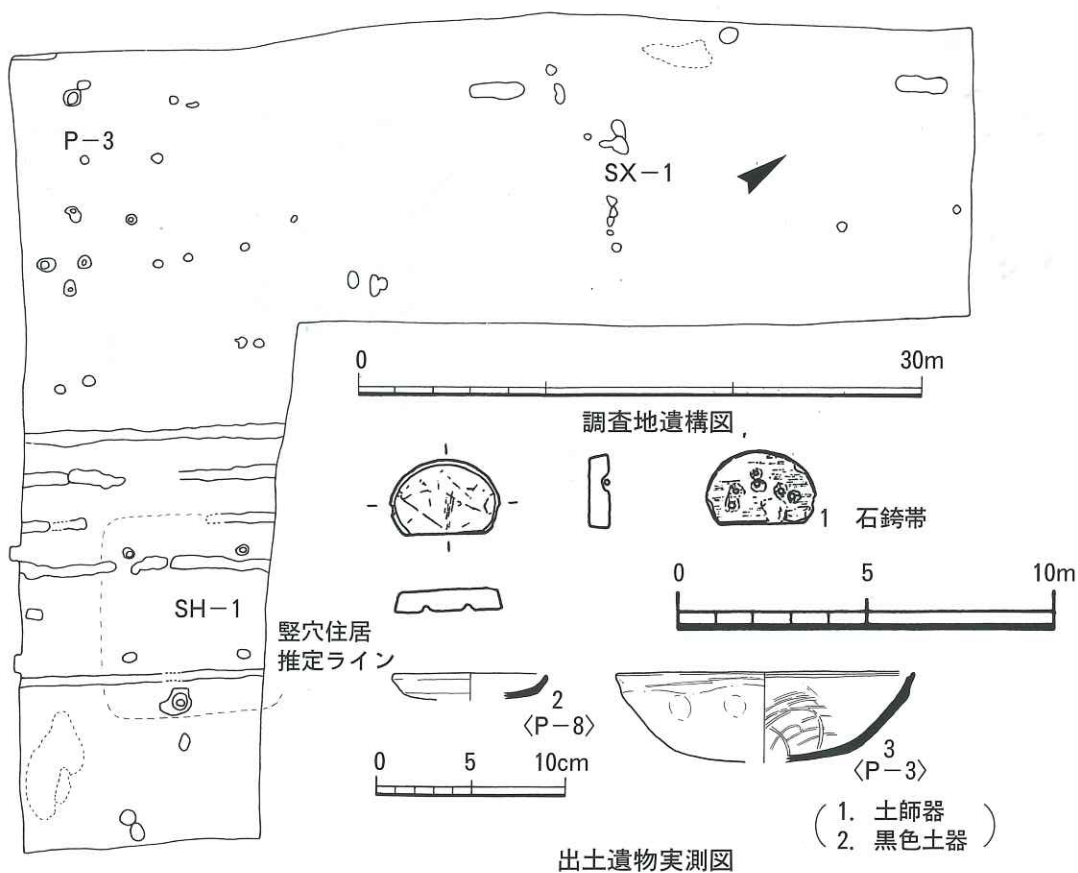
ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町大橋10街他 北緯 35° 01' 44" 東経 136° 00' 45"
コード	321-092
調査期間	1988年3月7日～3月12日
調査面積	200m ²
調査原因	共同住宅建設
調査担当	近藤 広
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代～中世
主な遺構	掘立柱建物・竪穴住居・溝・土坑
主な遺物	土師器・黒色土器・石銚帯
特記事項	



調査地位置図



調査地西隅

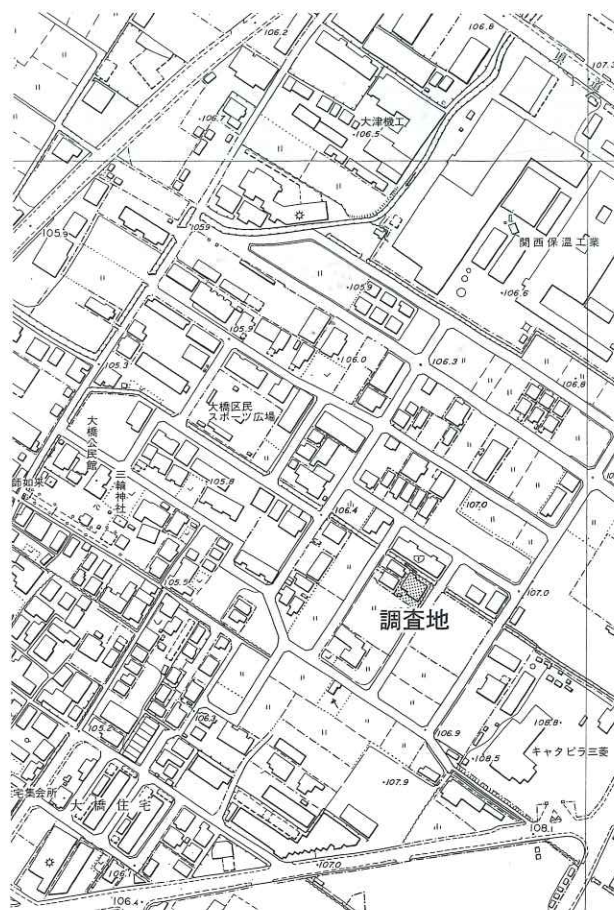
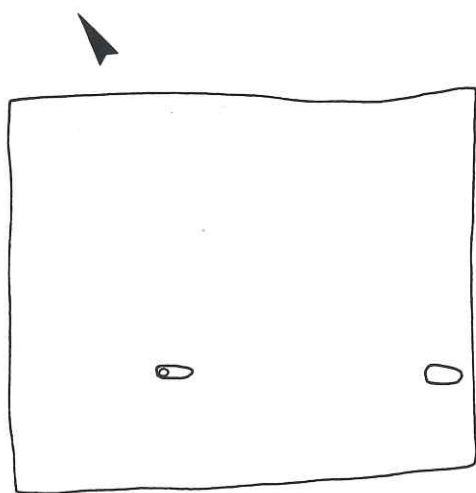


出土遺物実測図

28. 高野遺跡

(87R092-07)

ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町大橋205-1 北緯 35° 01' 42" 東経 136° 00' 35"
コード	321-092
調査期間	1987年11月16日～11月25日
調査面積	60m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	清水 好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	
主な遺構	ピット
主な遺物	特になし
特記事項	



調査地位置図



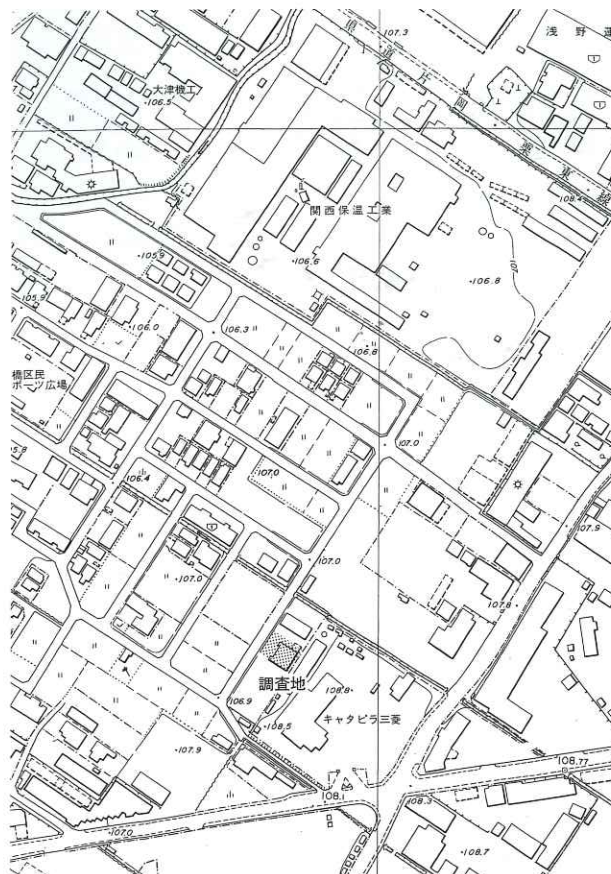
調査地全景

高野遺跡の南半部に位置する本調査区周辺は、古墳時代～平安時代の遺構・遺物が散見される。今回の調査では、柱穴が2個検出されたのみで、出土遺物はなく時期は不明である。

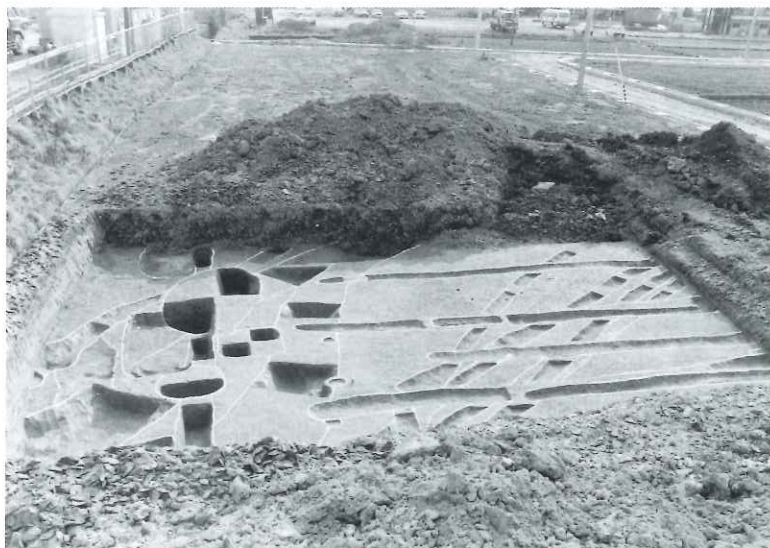
29. 高野遺跡

(87R092-10)

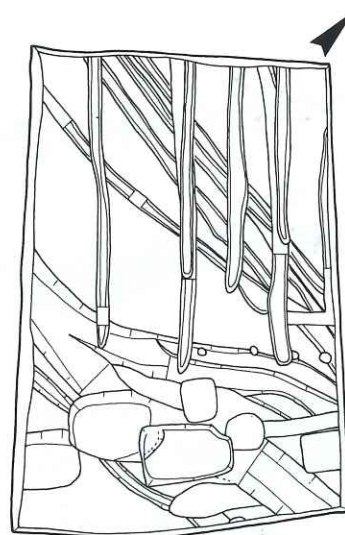
ふりがな	たかのいせき
所在地	栗東町大橋202-1
	北緯 35° 01' 40"
	東経 136° 00' 37"
コード	321-092
調査期間	1988年3月4日～3月26日
調査面積	180m ²
調査原因	事務所建設
調査担当	清水 好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	
主な遺構	土坑・溝
主な遺物	須恵器・土師器
特記事項	



調査地位置図



調査地区全景



調査地遺構図

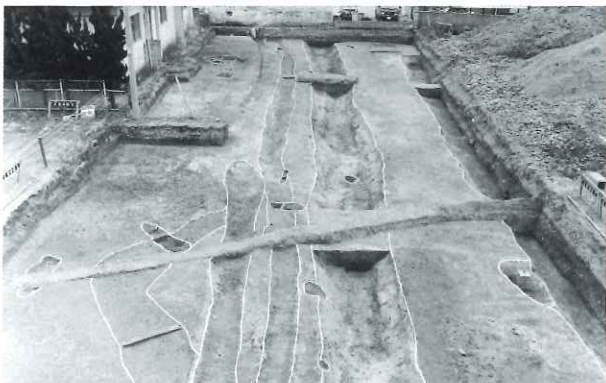
30. 縄 遺 跡

(87R093-01,02)

ふりがな	へそいせき
所在地	栗東町北中小路地先 北緯 35° 02' 15" 東経 135° 58' 43"
コード	321-093
調査期間	1987年7月7日～13日 (01)、88年2月3日～
調査面積	1000m ² (02・I期)
調査原因	町道路建設
調査担当	近藤 広 (01)・平井 寿一 (02)
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落・墓
主な時代	中世～近世
主な遺構	濠・溝・土坑・ピット
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・緑
特記事項	文献1、2



87R093-01 (試掘) 調査トレンチ



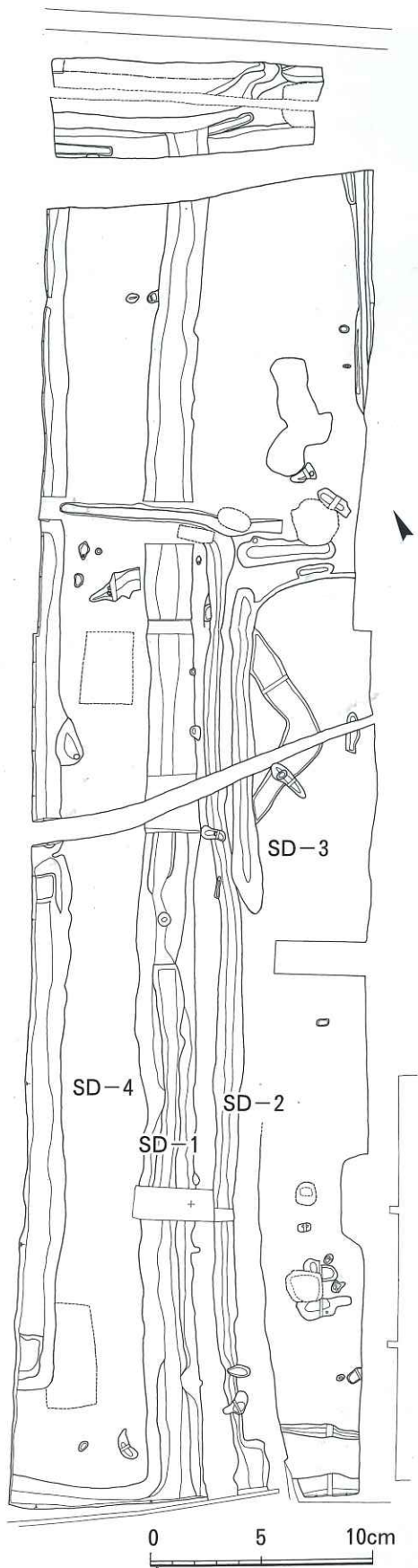
T-2、3 全景



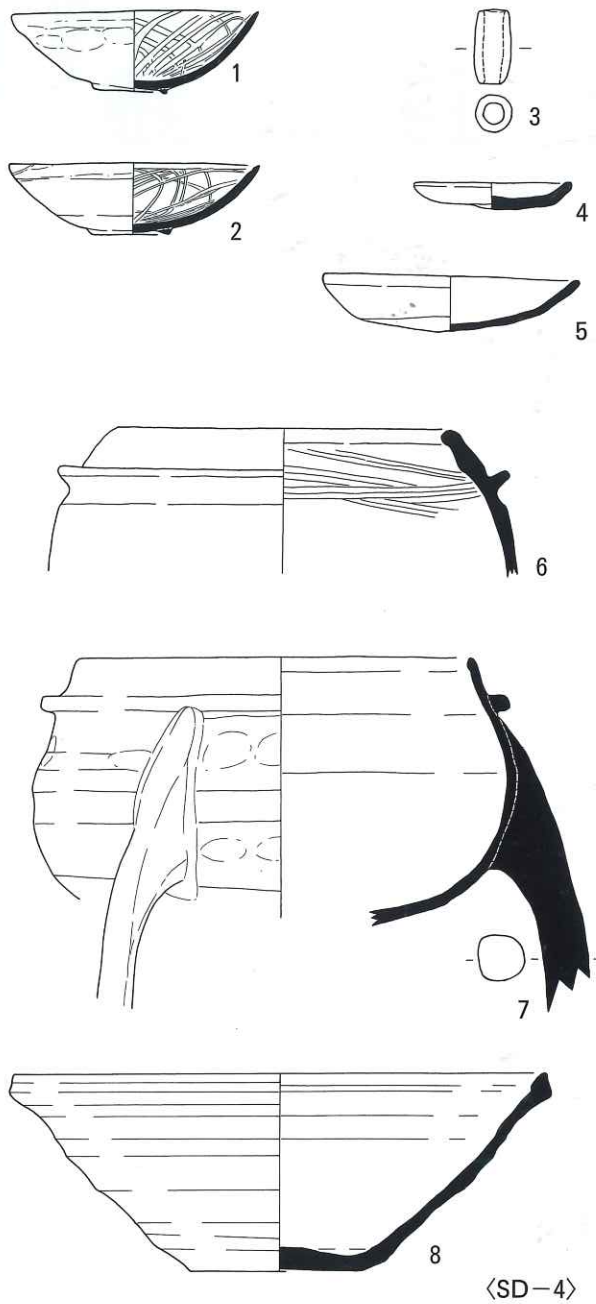
調査地位置図

この調査は、町(当時)道二町播磨田線建設に先立って実施された、総延長700mにわたる発掘調査である。87R093-01調査は、先だって行われた確認調査で、21ヶ所のトレンチを設定して行われた。これにより道路予定地全域から、弥生時代～中近世の遺構が確認された。

本調査となった87R093-02調査の内、1987年度にはI期調査として南端部のT-2、3で発掘調査が実施された。この調査では、溝(SD)、土坑などが検出された。SD-1は幅1.7～2.5m、深さ0.8m程度で、黒色土器・土師器・陶器等、鎌倉～室町時代の遺物を多量に含んでいた。SD-22は直角に曲がる溝で、幅1～1.5m。方形周溝墓の可能性がある。

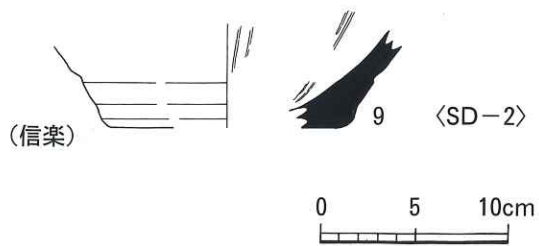


調査地遺構図



- (1、2 黒色土器
3~7 土師器
8 須恵器)

〈SD-4〉



(信楽)

〈SD-2〉

出土遺物実測図

31. 下 鈎 遺 跡

(87R095-01)

ふりがな	しもまがりいせき
所在地	栗東市下鈎地先
	北緯 35° 01' 35"
	東経 135° 59' 13"
コード	321-095
調査期間	1986年10月～1989年3月
調査面積	
調査原因	区画整理
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落・墓
主な時代	弥生時代～平安時代
主な遺構	掘立柱建物・竪穴住居・土坑・溝
主な遺物	須恵器・土師器・弥生土器・白磁・黒色土器
特記事項	



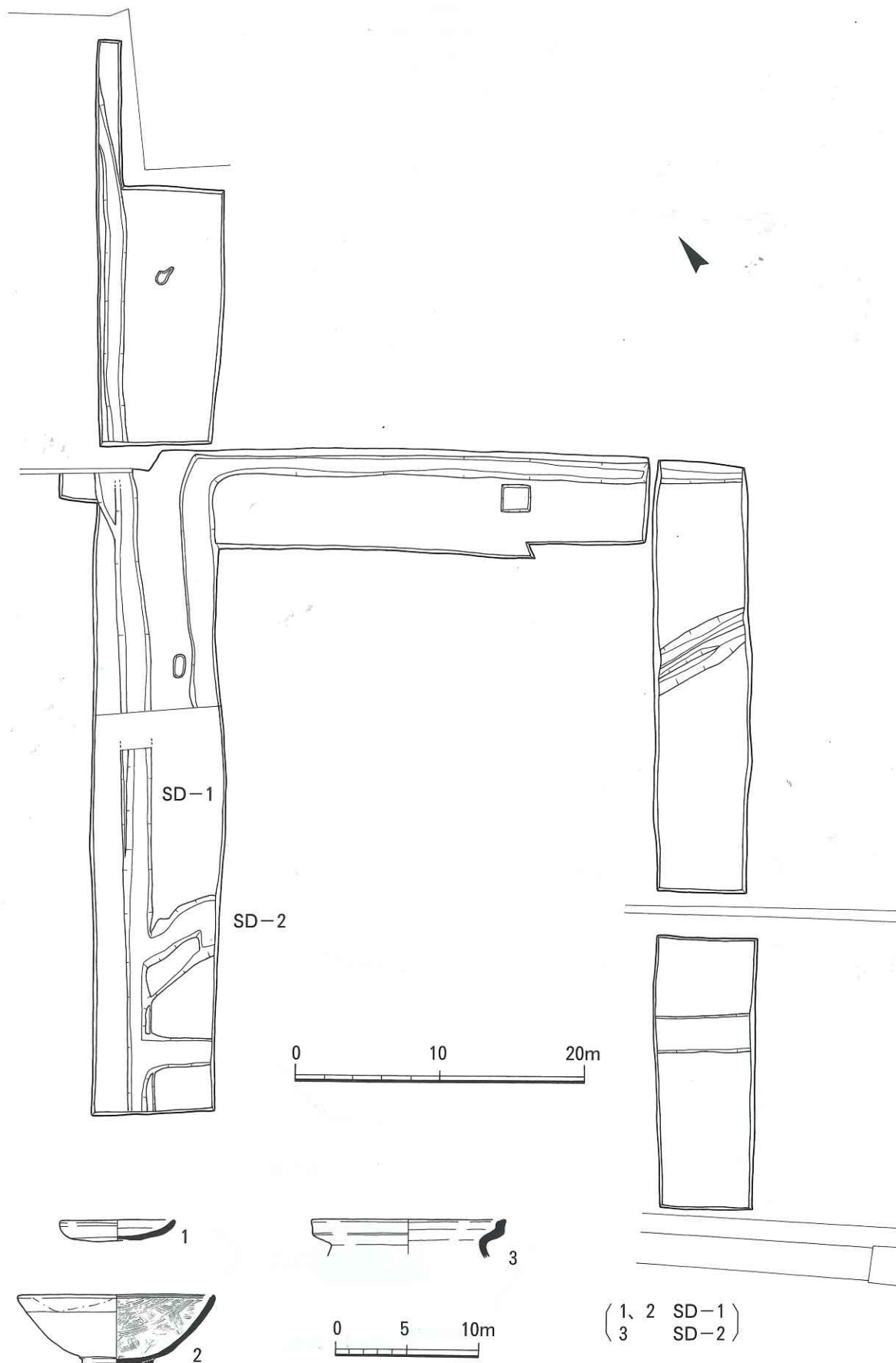
A調査区の溝



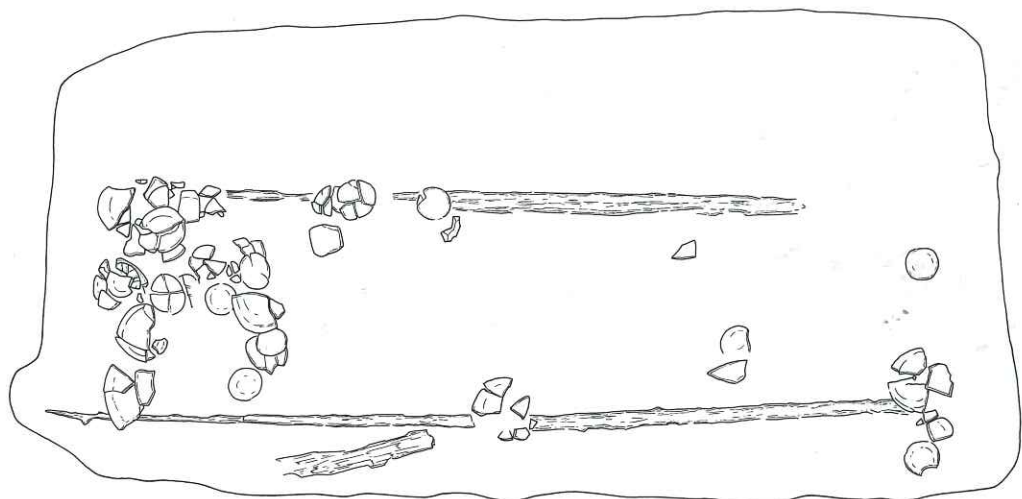
B調査区木棺墓



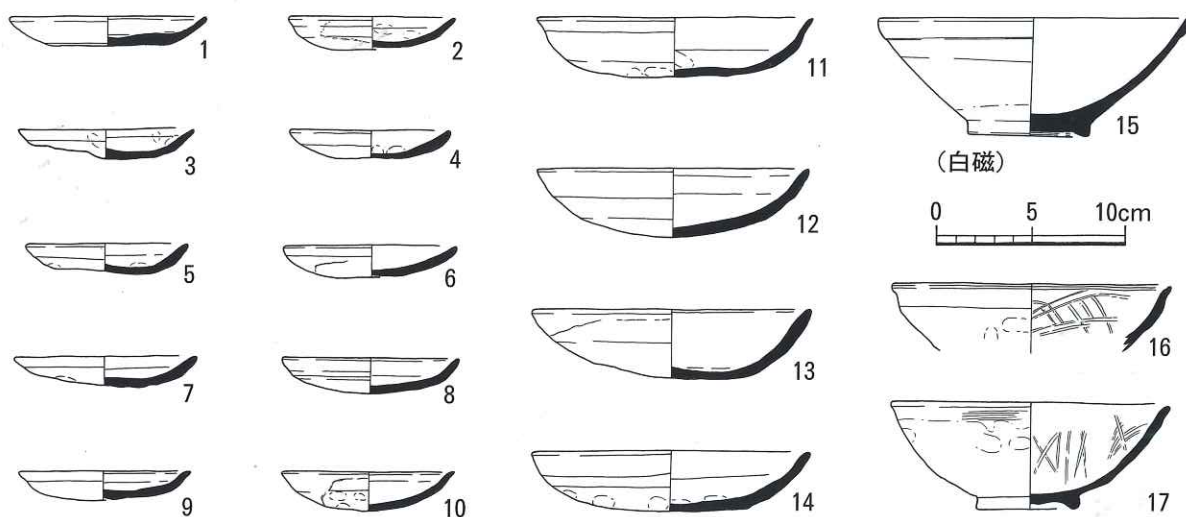
調査地位置図



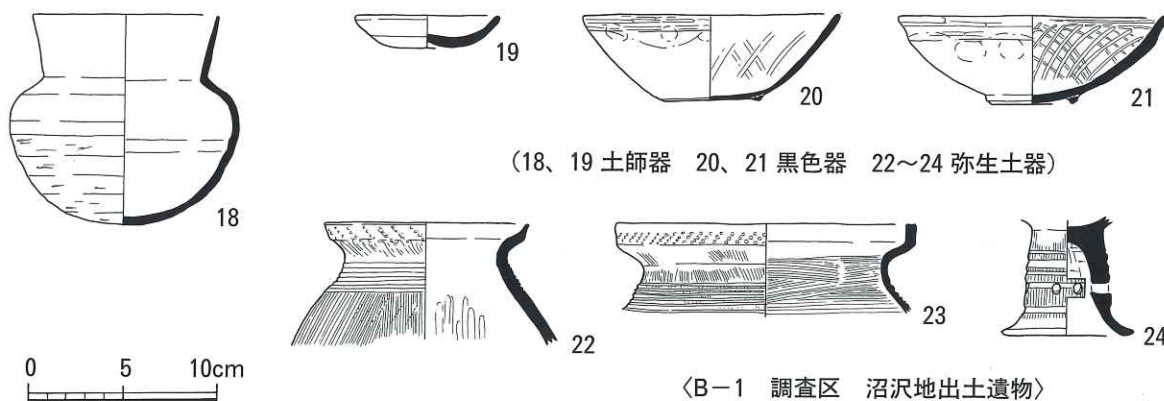
A調査区遺構図および出土遺物実測図



B地区 土墳墓 実測図



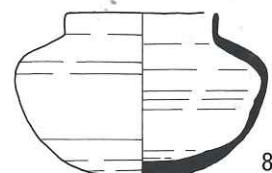
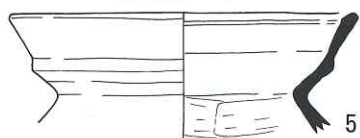
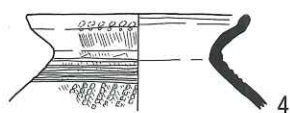
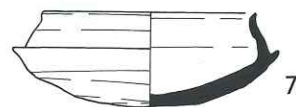
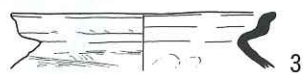
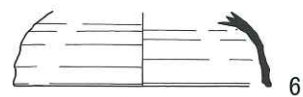
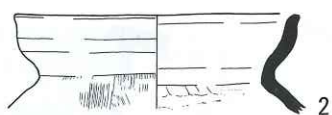
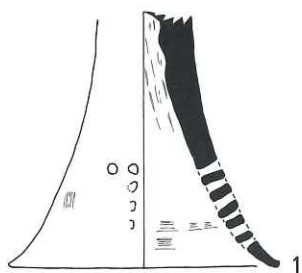
〈B地区土墳墓 出土遺物〉



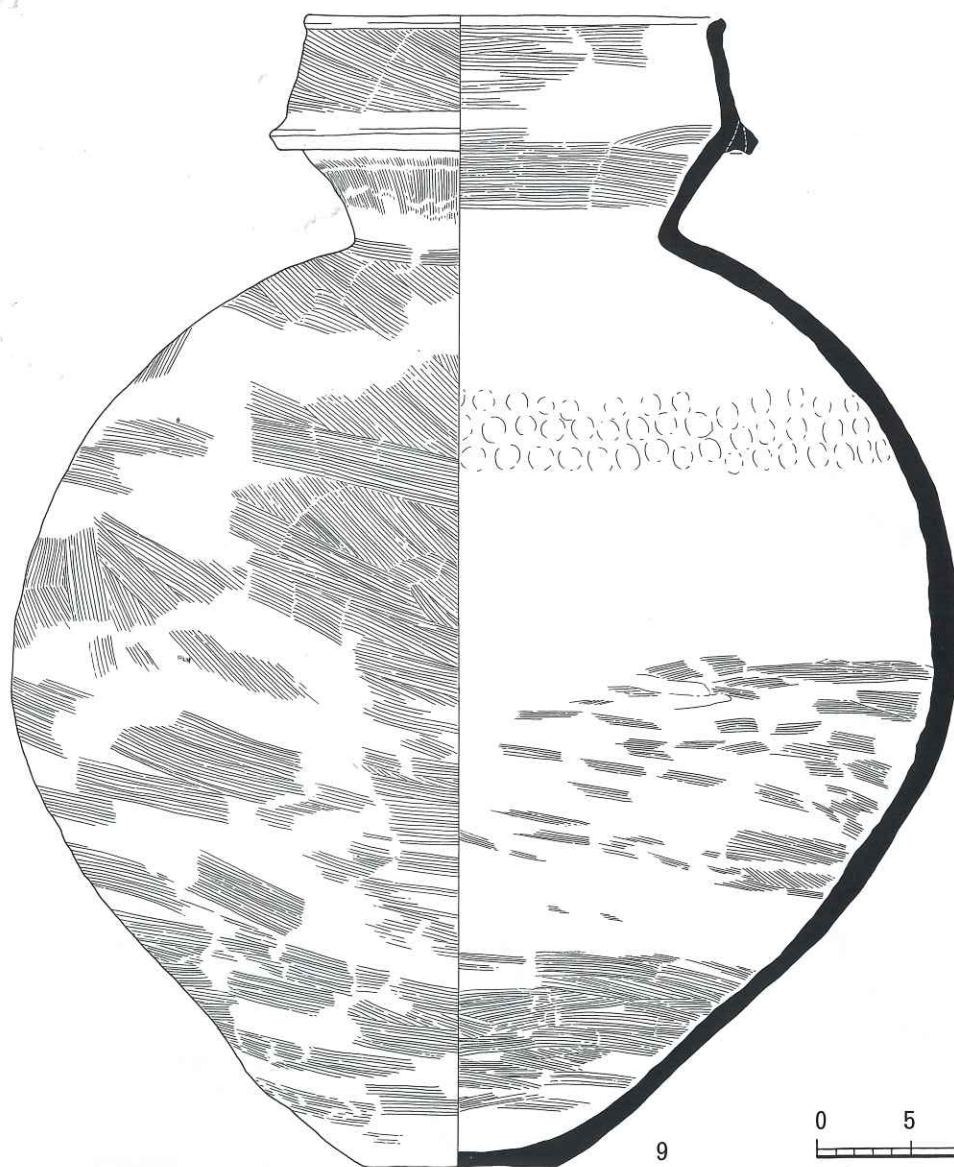
(18、19 土師器 20、21 黒色器 22~24 弥生土器)

〈B-1 調査区 沼沢地出土遺物〉

出土遺物実測図

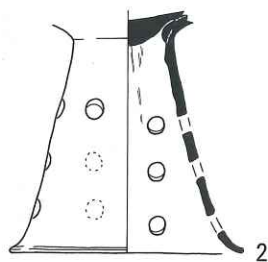
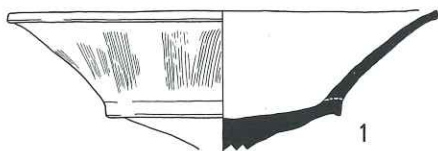


(6~8 須恵器)

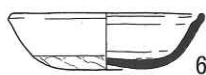
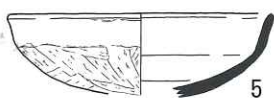
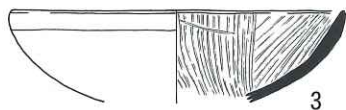


0 5 10cm

B-3 調査区 出土遺物実測図

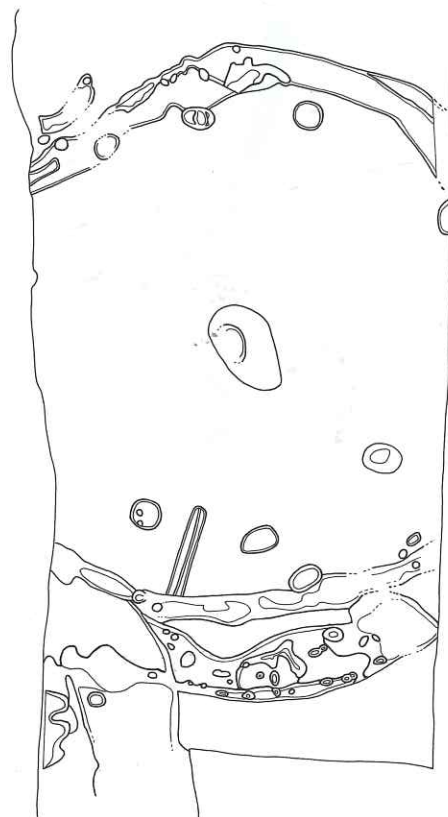


〈公園調査区〉

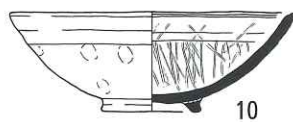
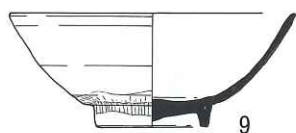


〈7、8 須恵器〉

〈C-1調査区 大溝〉

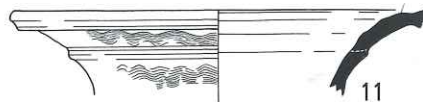


C調査区 竪穴住居

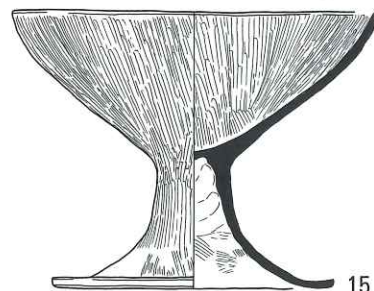
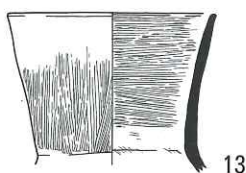
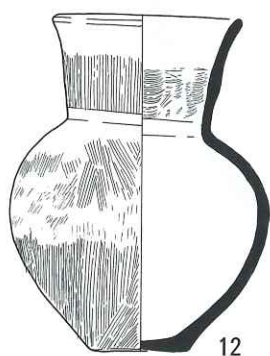


〈9、白磁 10、黒色土器〉

〈C-4調査区〉



〈11、須恵器〉 〈C-5調査区〉



〈第2工区〉

〈16、17 須恵器〉

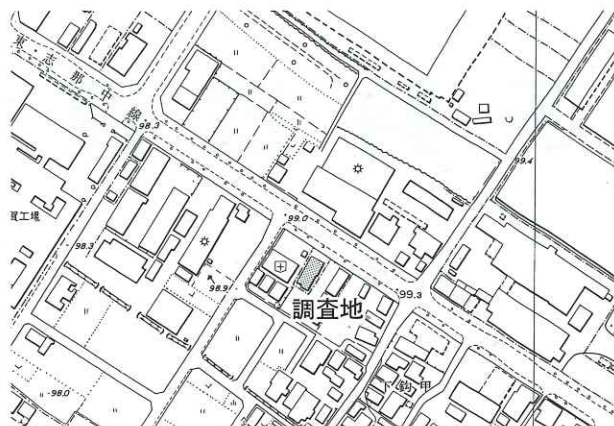


出土遺物実測図

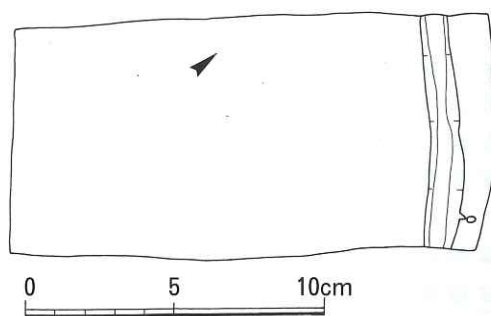
32. 下 鈎 遺 跡

(87R095-02)

ふりがな	しもまがりいせき
所在地	栗東町下鈎字宮ノ北
	北緯 35° 01' 35"
	東経 135° 58' 47"
コード	321-095
調査期間	1987年2月24日～5月30日
調査面積	120m ²
調査原因	共同住宅建設
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	弥生時代
主な遺構	流路・ピット
主な遺物	弥生土器
特記事項	



調査地位置図



調査地遺構図

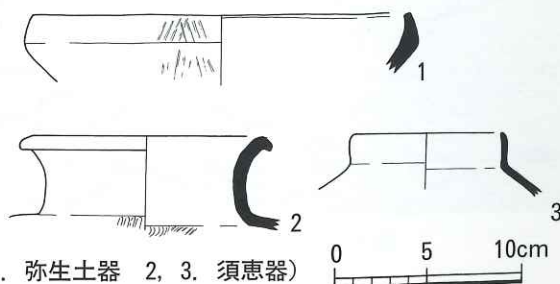
33. 下 鈎 遺 跡

(87R095-03)

ふりがな	しもまがりいせき
所在地	栗東町字西浦684-1
	北緯 35° 01' 38"
	東経 135° 59' 15"
コード	321-095
調査期間	1988年2月16日～2月18日
調査面積	110m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	松村 浩
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	集落
主な時代	弥生～古墳時代
主な遺構	溝
主な遺物	特になし
特記事項	



調査地位置図



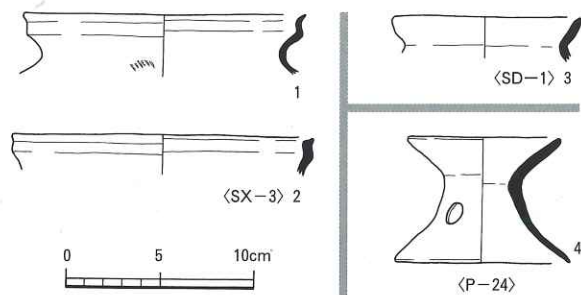
(1. 弥生土器 2, 3. 須恵器)

出土遺物実測図

34. 下 鈎 遺 跡

(87R095-06)

ふりがな	しもまがりいせき
所在地	栗東町下鈎216-1 北緯 35° 01' 48" 東経 135° 59' 14"
コード	321-095
調査期間	1987年11月14日～12月19日
調査面積	180m ²
調査原因	工場建設
調査担当	近藤 広
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	古墳時代
主な遺構	竪穴住居・掘立柱建物・溝
主な遺物	須恵器・土師器
特記事項	



出土遺物実測図



調査地全景（南西より）

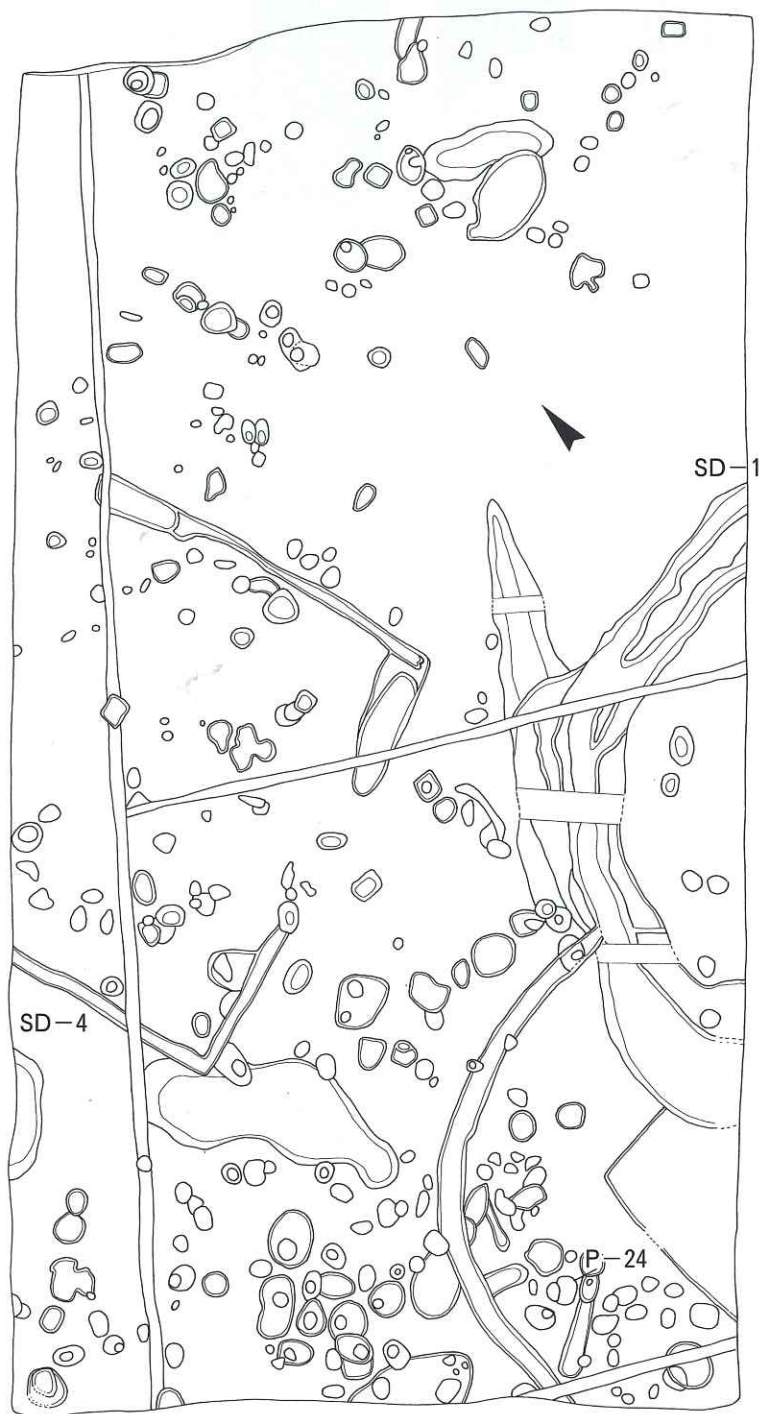


調査地位置図

この調査区は、下鈎遺跡の東端、上鈎遺跡に隣接する地点にあたる。検出された遺構は掘立柱建物、溝、土坑などである。掘立柱建物は、古墳時代のものである可能性が高い。調査区中央で検出されているSD-4は、掘立柱建物を囲っていた区画溝であると考えられる。ほかの円形周溝状の溝も確認されている。出土遺物の大半は古墳時代前半期のものである。



調査地全景（北東より）



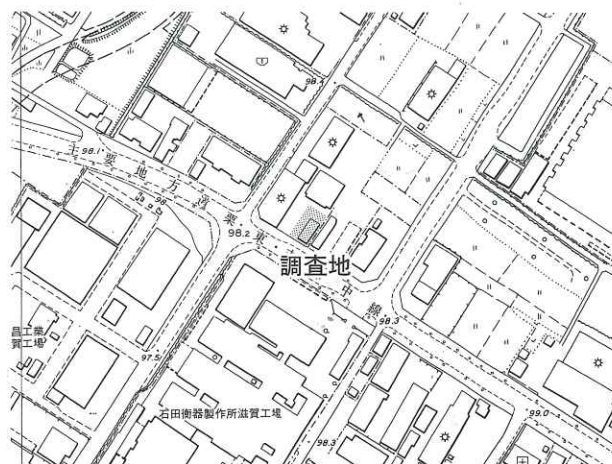
0 5m

調査地遺構図

35. 下 鈎 遺 跡

(87R095-05)

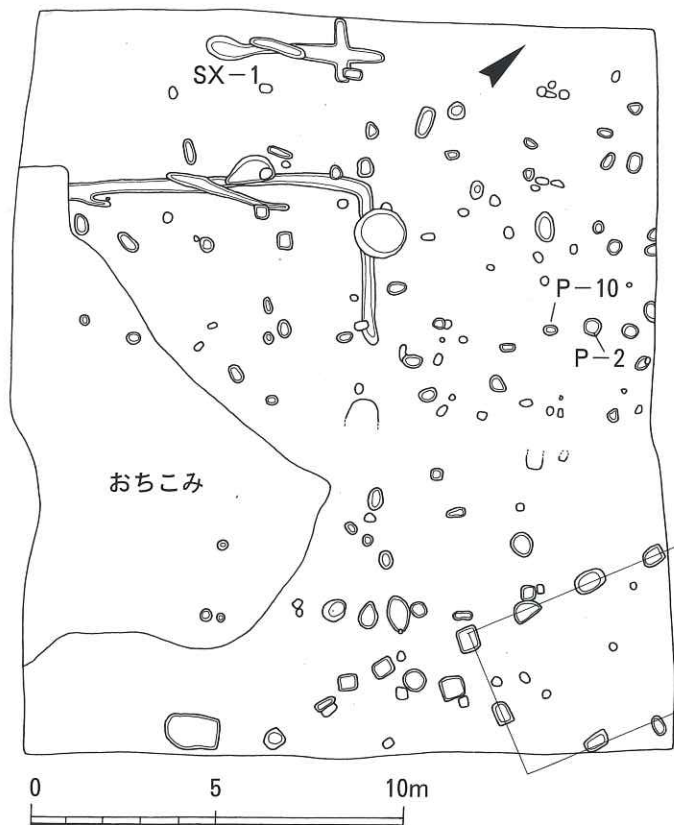
ふりがな	しもまがりいせき
所在地	栗東町下鈎917-1 北緯 35° 01' 44" 東経 135° 59' 09"
コード	321-095
調査期間	1987年9月19日～10月29日
調査面積	330m ²
調査原因	事務所建設
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	古墳時代～平安時代
主な遺構	掘立柱建物・溝・土坑・落ち込み
主な遺物	須恵器・土師器・灰釉陶器
特記事項	



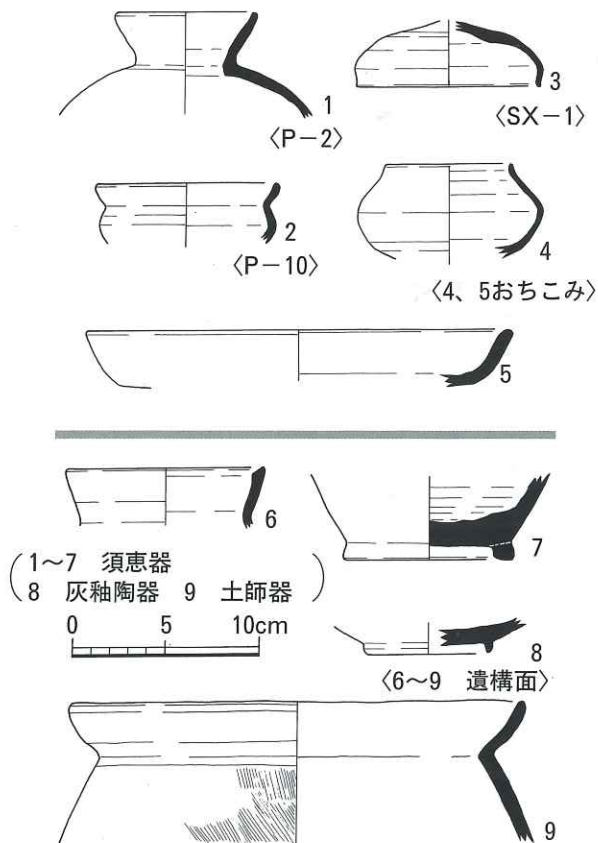
調査地位置図



調査区北西半部



調査地遺構図

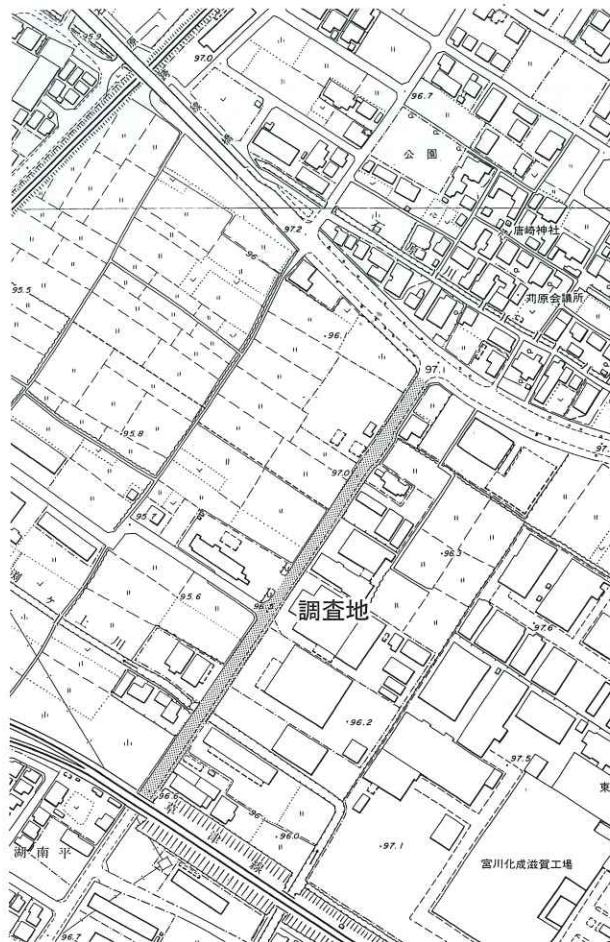
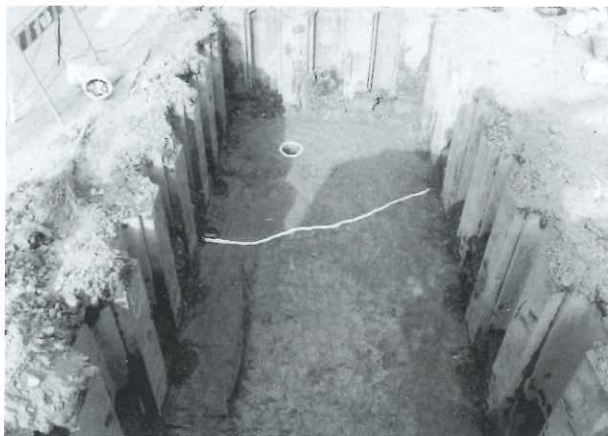


出土遺物実測図

36. 下 鈎 遺 跡

(87R095-07)

ふりがな	しもまがりいせき
所在地	栗東町荻原地先 北緯 35° 01' 43" 東経 135° 58' 50"
コード	321-095
調査期間	1987年11月16～12月21日
調査面積	
調査原因	下水工事
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	弥生時代
主な遺構	沼沢地・ピット
主な遺物	弥生土器
特記事項	



調査地位置図

この調査区は、下鈎遺跡の北半部にあたる。下水道工事に先立ち、調査対象範囲内に小トレンチを設け、確認調査を実施した。

弥生時代の受口状口縁甕片が出土している。



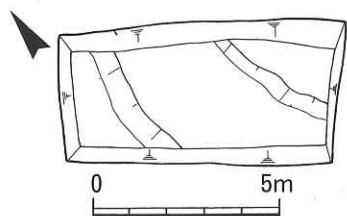
0 5 10cm

出土土器実測図

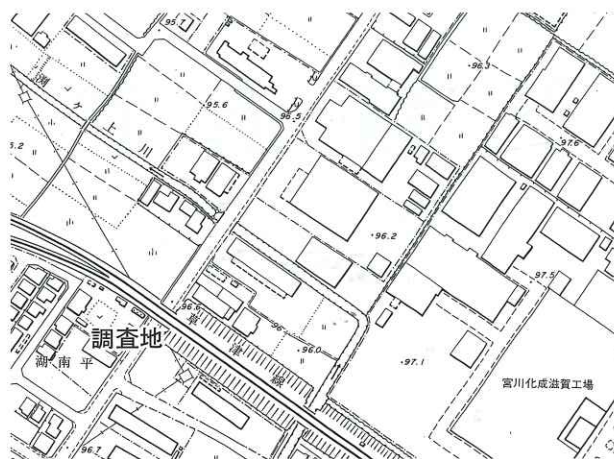
37. 下 鈎 遺 跡

(87R095-08)

ふりがな	しもまがりいせき
所在地	栗東町下鈎字小松寺1205-1
	北緯 35° 01' 48"
	東経 135° 01' 48"
コード	321-095
調査期間	1987年12月24日～1988年1月30日
調査面積	20m ²
調査原因	店舗建設
調査担当	清水 好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	古墳時代
主な遺構	包含層
主な遺物	土師器
特記事項	



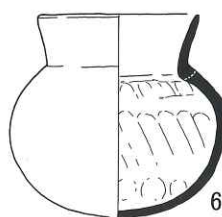
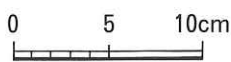
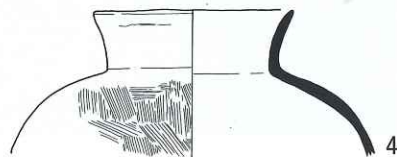
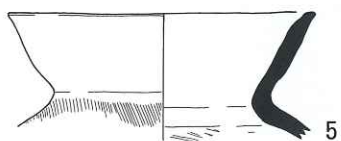
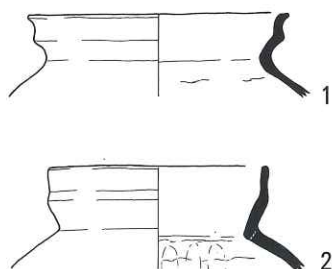
調査地遺構図



調査地位置図



調査地全景



出土遺物実測図

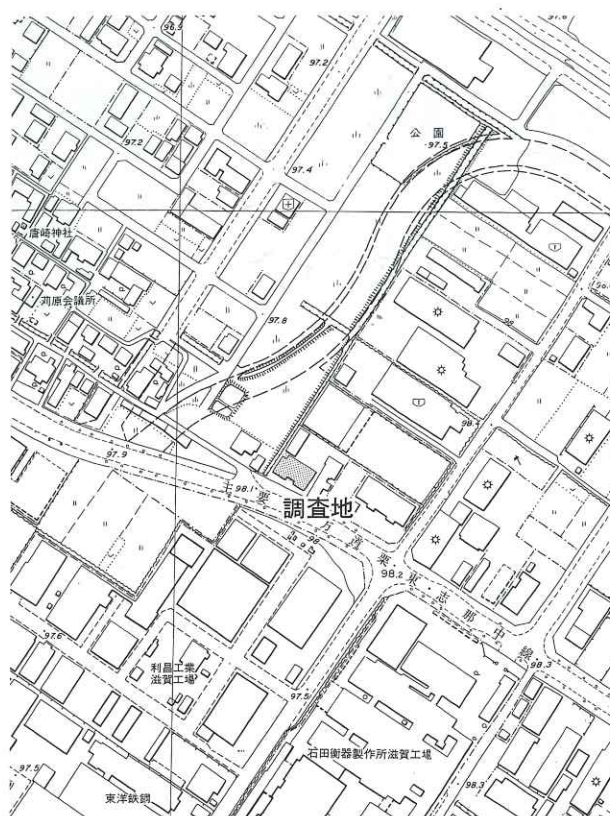
38. 下 鈎 遺 跡

(87R095-09)

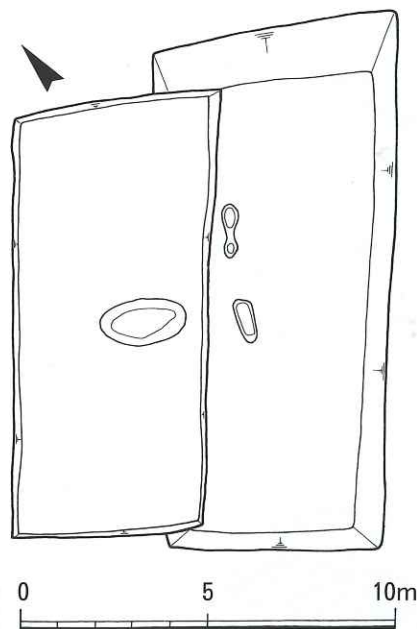
ふりがな	しもまがりいせき
所在地	栗東町下鈎字雁杭口927 北緯 35° 01' 46" 東経 135° 59' 04"
コード	321-095
調査期間	1987年12月～
調査面積	400m ²
調査原因	事務所建設
調査担当	松村 浩
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	弥生時代
主な遺構	溝・土坑
主な遺物	弥生土器
特記事項	



調査地北西半部全景



調査地位置図

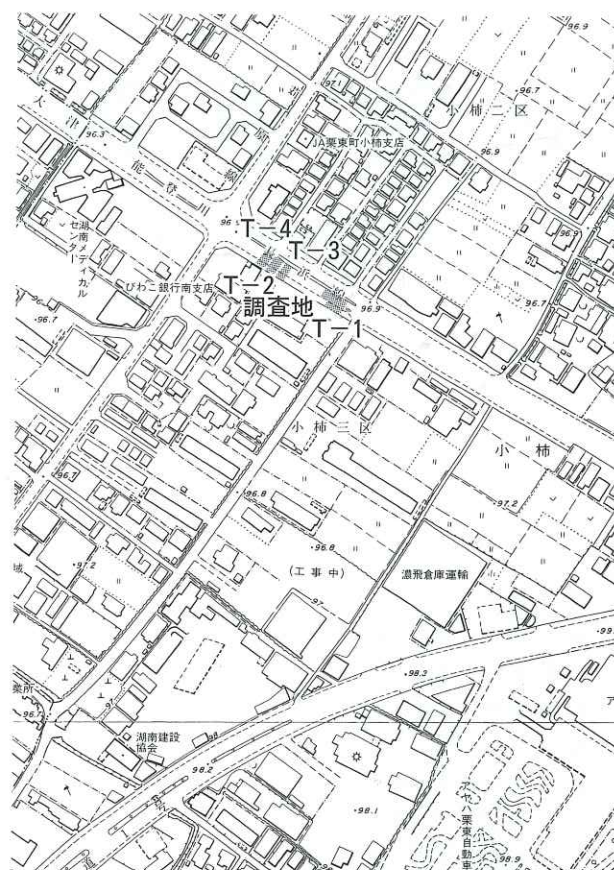


調査地遺構図

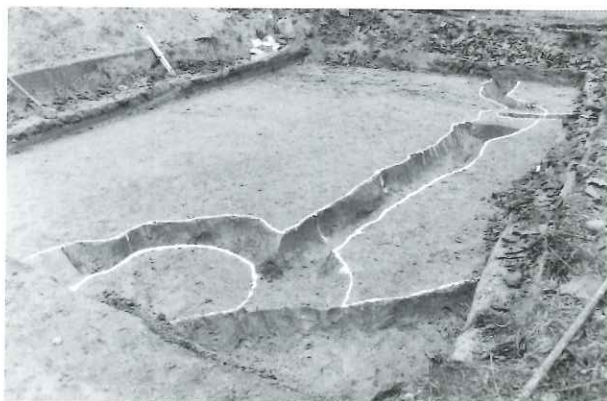
39. 小 柿 遺 跡

(87R100-01)

ふりがな	おがきいせき
所在地	栗東町小柿地先 北緯 35° 01' 11" 東経 135° 58' 29"
コード	321-100
調査期間	1987年7月1日～7月20日
調査面積	150m ²
調査原因	町道路改良
調査担当	清水 好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	弥生時代～平安時代
主な遺構	溝・土坑・流路
主な遺物	須恵器・土師器・弥生土器・灰釉陶器
特記事項	



調査地位置図



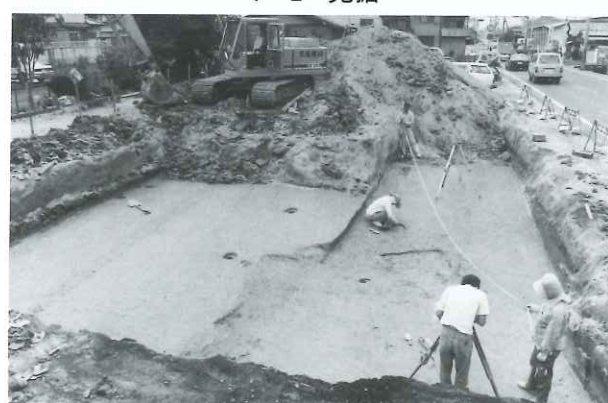
T-2



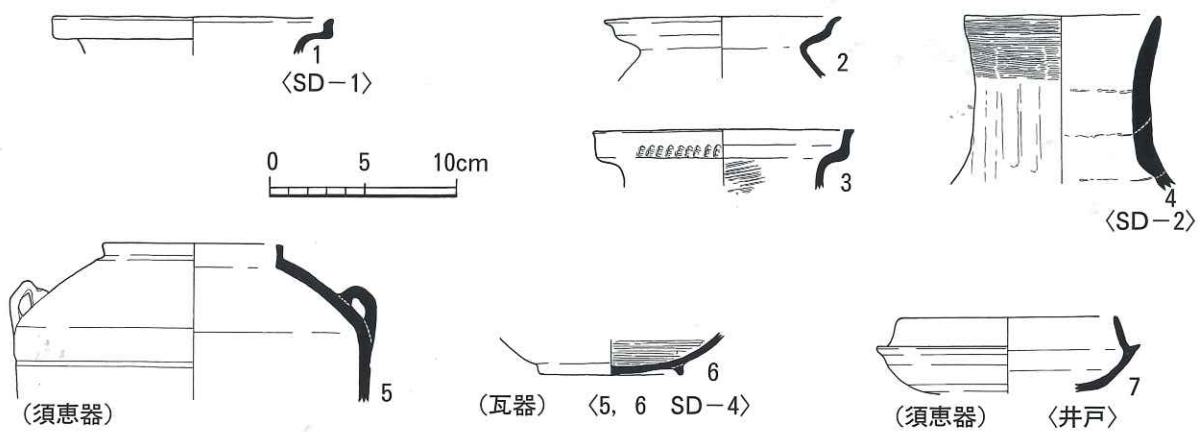
T-2 完掘



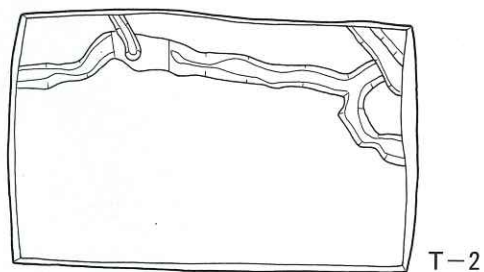
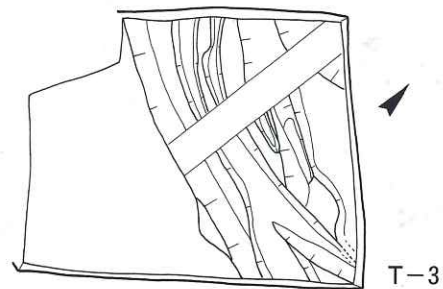
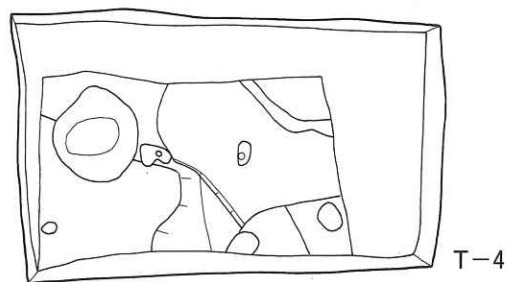
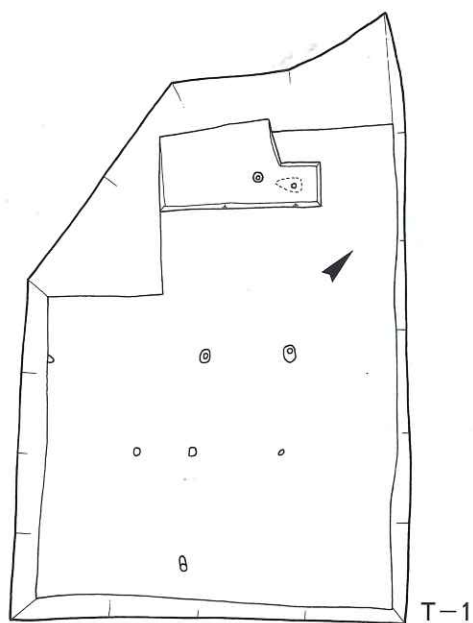
T-3



T-3 作業風景



出土遺物実測図



調査地遺構図

40. 小 柿 遺 跡

(87R100-02)

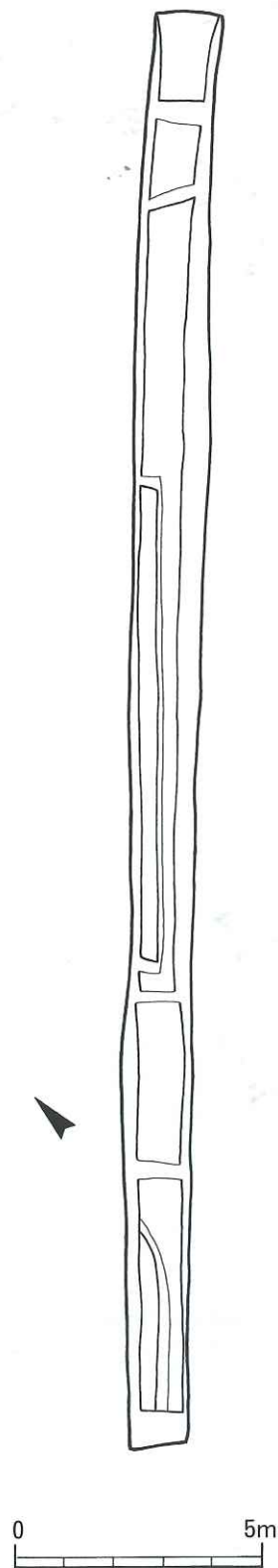
ふりがな	おがきいせき
所 在 地	栗東町小柿地先
	北緯 35° 01' 27"
	東経 135° 58' 45"
コ ー ド	321-100
調 査 期 間	1988年1月～2月
調 査 面 積	20m ²
調 査 原 因	町道路改良
調 査 担 当	松村 浩
調 査 機 関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主 な 時 代	弥生時代
主 な 遺 構	特になし
主 な 遺 物	弥生土器
特 記 事 項	



調査地位置図



調査地全景

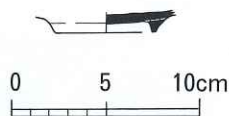


調査地遺構図

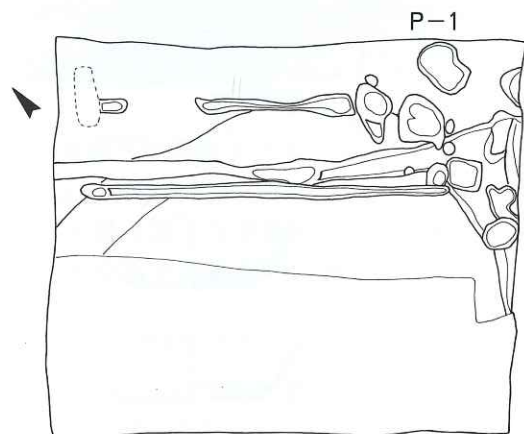
41. 小 柿 遺 跡

(87R100-03)

ふりがな	おがきいせき
所在地	栗東町小柿字六反田512-1他 北緯 35° 01' 11" 東経 135° 58' 28"
コード	321-100
調査期間	1988年1月29日～2月3日
調査面積	75m ²
調査原因	事務所建設
調査担当	平井 壽一
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	古墳時代・平安時代
主な遺構	溝・土坑
主な遺物	須恵器・土師器・黒色土器
特記事項	



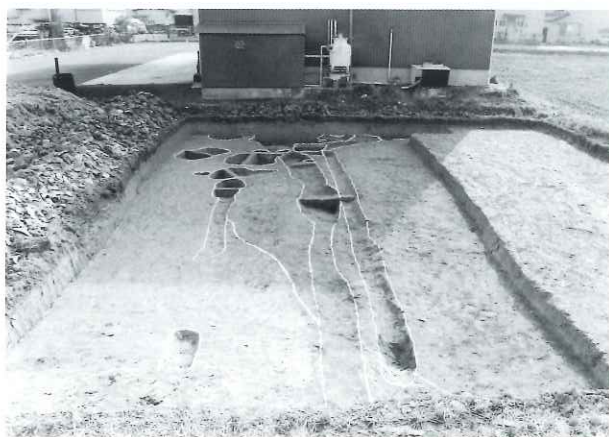
P-1 出土遺物（黒色土器）実測図



調査地遺構図



調査地位置図

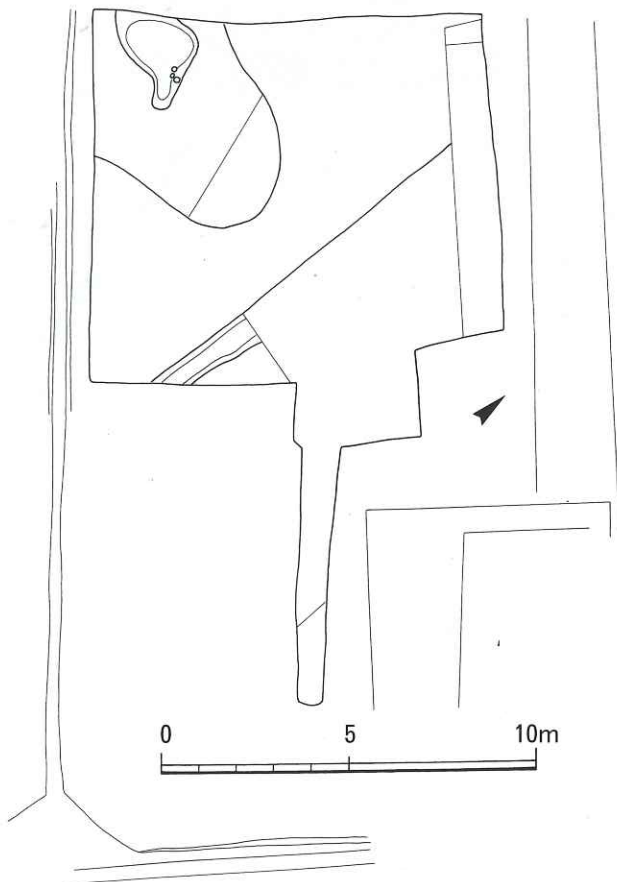


この調査区では、南西半部に旧河道がみられ、遺物も含まれないため、北東半部においてのみ精査を実施している。溝、ピットが検出された。出土遺物には古墳時代のもの、および平安時代のものがある。

42. 十里遺跡

(87R101-01)

ふりがな	じゅうりいせき
所在地	栗東町十里地先 北緯 35° 02' 41" 東経 135° 58' 01"
コード	321-01
調査期間	1987年8月27日～8月29日
調査面積	110m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	清水 好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	弥生時代
主な遺構	溝・土坑
主な遺物	弥生土器
特記事項	



調査地遺構図



調査地位置図



調査地全景

十里遺跡の北端部にあたる地点での調査である。この調査では、南北方向にのびる幅7.5m以上で深さ1.2mの溝、および不整形の土坑が検出された。土坑からは弥生土器とみられる土器が出土した。墓の可能性はある。

43. 十里遺跡

(87R101-02)

ふりがな	じゅうりいせき
所在地	栗東町十里地先 北緯 35° 02' 31" 東経 135° 57' 58"
コード	321-101
調査期間	1988年2月8日～2月16日
調査面積	106m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	松村 浩
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	飛鳥時代～中世
主な遺構	掘立柱建物・溝
主な遺物	須恵器
特記事項	



調査地位置図

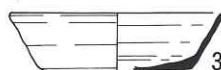
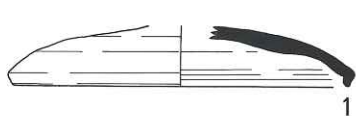


北東部トレンチ▶

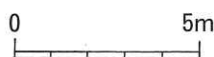
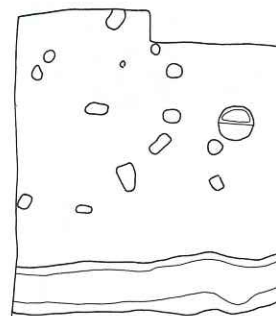
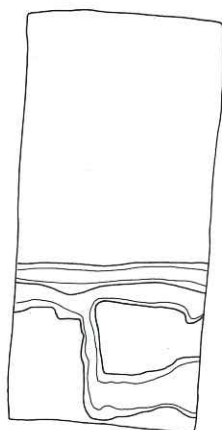
この調査では、溝およびピットが検出された。溝は幅1.2～1.4m、深さは0.2～0.4mである。奈良時代および中世の須恵器・土師器・黒色土器が出土している。

本調査区の南西隣では1999年度に発掘調査が実

施され、溝から「乙酉年」、「勾連」といった年号や人物名がはいった木簡が出土し、飛鳥～奈良時代の有力者の居宅もしくは官衙的な施設が考えられている。1987年度調査成果もこれに関連するものであろう。



SD-1 出土須恵器実測図

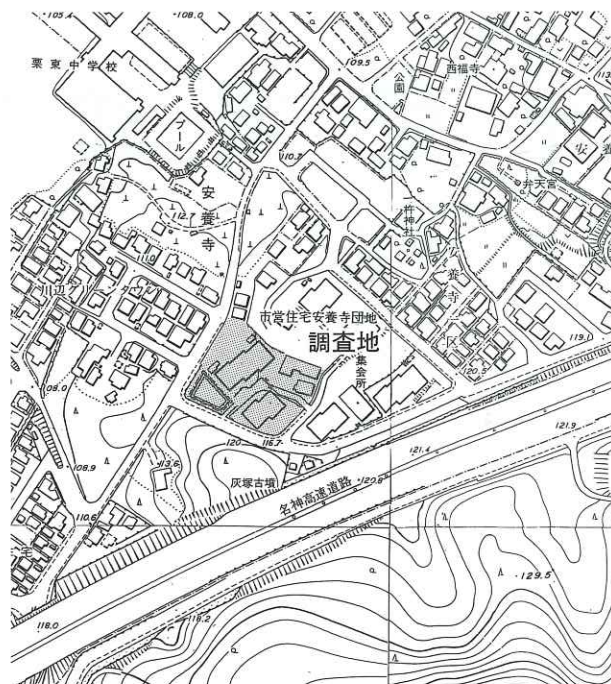


調査地遺構図

44. 安養寺遺跡

(87R047-01)

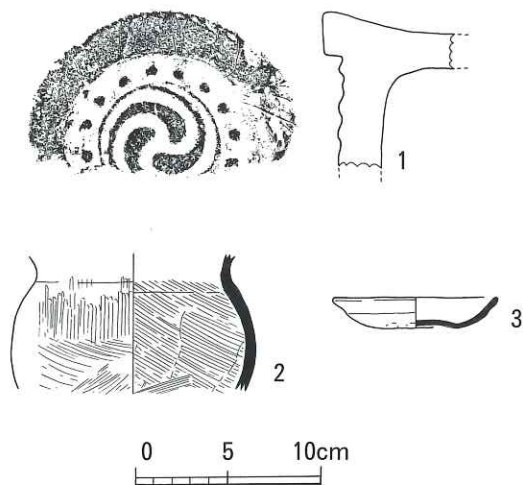
ふりがな	あんようじせき
所在地	栗東町安養寺5丁目749-1
	北緯 35° 00' 50"
	東経 136° 00' 28"
コード	321-047
調査期間	1988年3月10日～3月15日
調査面積	2400m ²
調査原因	町営住宅建設
調査担当	清水 好洋
調査機関	財団法人栗東町文化体育振興事業団
種別	集落・墓
主な時代	古墳時代～近世
主な遺構	溝
主な遺物	土師器・瓦
特記事項	



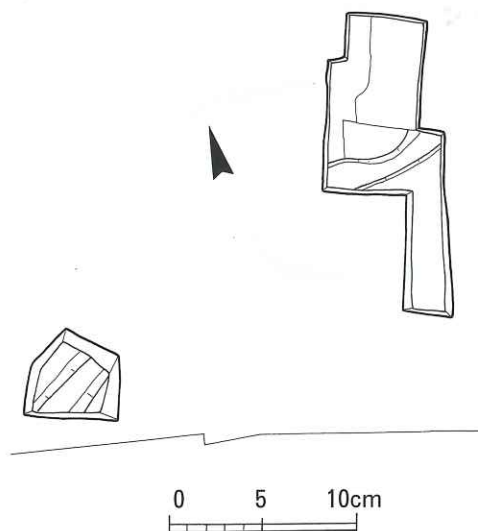
調査地位置図



調査の状況



出土遺物実測図

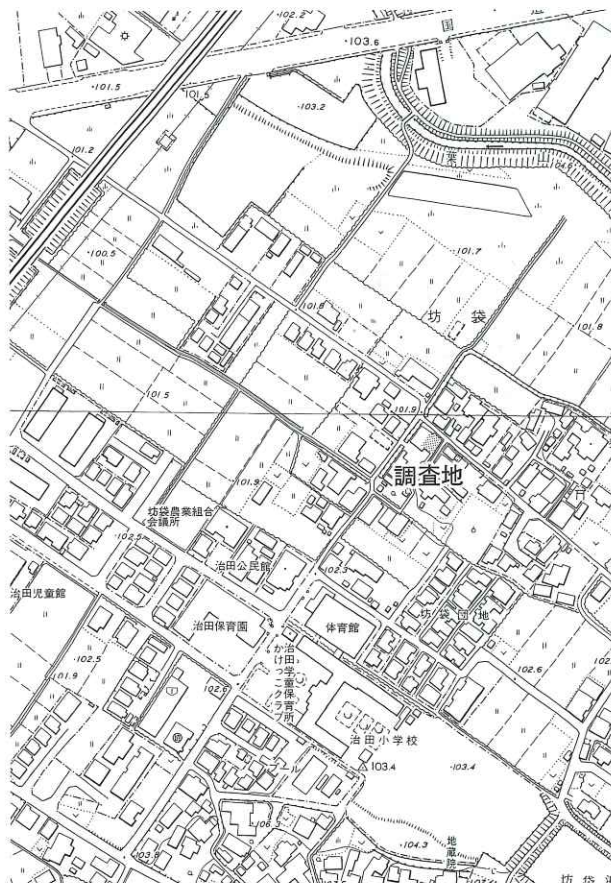


調査地遺構図

45. 坊袋遺跡

(87R090-01)

ふりがな	ぼうぶくろいせき
所在地	栗東町坊袋字新日吉
	北緯 35° 01' 02"
	東経 135° 59' 15"
コード	321-090
調査期間	1987年12月24日、25日
調査面積	43m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	松村 浩
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落
主な時代	
主な遺構	溝
主な遺物	特になし
特記事項	



参考文献

1. 栗東町史編さん委員会『栗東の歴史』第4巻資料Ⅰ 1994年
2. 財団法人栗東町文化体育振興事業団『昭和63年度年報』 1989年

発行日 2004年3月31日

1987年度栗東町埋蔵文化財 発掘調査資料集

編集・発行 栗東市教育委員会
財団法人栗東市文化体育振興事業団
〒520-3011
滋賀県栗東市下戸山47番地
栗東市出土文化財センター内
TEL 077-553-3359
FAX 077-553-3514
印刷・製本 株式会社 スマイ印刷工業